第32回 洛和会ヘルスケア学会

抄　　録

会場開催（口演発表）

日時　2022年10月23日（日）

開場・受付：9:00

開　　会：9:20

会場　京都市勧業館 みやこめっせ 地下1階
（京都市左京区）

Web 開催（口演発表）

開催期間　2022年10月21日（金）～11月30日（水）

夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院　洛和会音羽病院　洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院　洛和会東寺南病院

巻頭言

共有するチャンス

洛和会ヘルスケアシステム
理事長　矢野　裕典

洛和会ヘルスケア学会は、職務上培ってきた職員皆さんの知見を、職種、施設や部門を超えて共有する機会です。今回の洛和会ヘルスケア学会においては、医療安全、患者さん利用者さんの命と生活を守るという目的を改めて確認する場としていきましょう。

また、業務や仕事の在り方について、特に後進の指導という観点を重視する必要があります。発表者には、上司先輩、あるいは当該発表内容の責任者として、他の職員の育成に繋がる発表を期待していますし、参加者の皆さんもご自分が新しく関心を持つ分野について、積極的に知識を得てそして交流する機会としてください。抄録を見るときは、科別、職種というグルーピングでそれぞれの発表者の課題意識を確認するほか、少し観点を変えて、これまで職務上関わりのあった部署の直近の発表や今後関心のある部署の発表を確認し、学会の期間を通じて、あるいは開催後のコミュニケーションツールとして活用することができます。過去の抄録と集録については、イントラ（グループセッション）で確認することができるようにしてもらいました。既に見ることができますので、これまでの洛和会の研究の成果を振り返りつつ、学会に積極的に参加していくきっかけとしていってください。研究に加えて、交流し、知識を共有するチャンスです。

発表者の成果を、参加者の皆さんが吸収して明日に活かしていただけることを願っています。コロナ禍での開催が続きますが、実行委員の皆様のご尽力に、心からの敬意を表します。

巻頭言

多職種・多部門の連携で夢をかなえる

第32回洛和会ヘルスケア学会
学会長　堀井　基行

今回で32回を迎える洛和会ヘルスケア学会は、これまで別日程で開催されていた総会と看護分科会・介護分科会を合わせて同日程で開催することとなりました。今まで以上に、職種や部門を越えてお互いに理解しあう素晴らしい機会になると期待しています。

私自身の経験を踏まえると、学会の演者や座長が回ってくると、緊張もし、必ずしも積極的な気持ちになれないこともあるかと思います。しかし、演者であれば、自分たちがやってきたことの意義を見つめるとともに、規定の発表時間やポスター紙面に要領よくまとめて、聴衆にわかってもらうよう発表することは、日ごろのカンファレンスなどの業務にもとても有用です。座長であれば、それぞれの発表者の意図をくみ取り、聴衆からの質問を引き出しやすいように簡単に総括をし、必要に応じて自らも確認事項などの質問をするという作業は、日常業務におけるマネージメントにも大いに繋がってきます。どちらも連携という観点でもおおいに役立ちます。なにより、役目を無事終えたときの快感は得難いものだと思います。

健康という観点から地域のみなさんの幸福でありたいという夢をかなえる、そして洛和会ヘルスケアステムで働くみなさんにとっては、やりがいという夢をかなえる、このために各職種・各部門の相互理解を深め、連携をさらに密にすることがとても大切です。

本学会は、演者や座長を含めて参加者全員にとってたいへん有意義なものであると信じております。前回総会会長を務められた武内先生が強調されておられましたように、「興味を持ったもの勝ち」です。皆さんの積極的な参加をぜひお願いいたします。

第 32 回 洛和会ヘルスケア学会

主　管：洛和会音羽リハビリテーション病院

役　　員

学会理事長	洛和会ヘルスケアシステム	理事長	矢野　裕典
学会長	洛和会音羽リハビリテーション病院	院　長	堀井　基行
副学会長	洛和会丸太町病院	院　長	細川　豊史
	洛和会音羽病院	院　長	神谷　　亨
	洛和会音羽記念病院	院　長	武内　俊史
	洛和会東寺南病院	院　長	廣川　隆一

実 行 委 員

実行委員長	洛和会音羽リハビリテーション病院		副院長	山崎　武俊
副実行委員長	〃	看護部	看護部長	戸倉さゆり
実行委員	洛和会丸太町病院	看護部	看護部長	福田　裕子
	〃	経営管理部	部長（管理部長）	疋田　　健
	洛和会音羽病院	看護部	看護部長	飯古美詠子
	〃	経営管理部	部長（管理部長）	廣瀬　良太
	洛和会音羽記念病院	看護部	看護部長	川井　倫子
	〃	経営管理部	次長（管理部長）	柴崎　靖雄
	洛和会音羽リハビリテーション病院		次長（管理部長）	仙波　拓朗
	洛和会東寺南病院	看護部	看護部長	吉岡　妙子
	〃	経営管理部	部長（管理部長）	小寺　勝明
	介護事業部		部長（管理部長）	小西　宏樹
	〃	経営管理部	次長（経営管理部長補佐）	黒澤　　智
	〃	介護教育センター	次長（センター長）	榊原　　学
	〃	グループホーム課	主席課長（統括長）	塩見　早人
	〃	ケアマネ課	主席課長（統括長）	浅見　琢也
	〃	訪問看護課	主席課長（統括）	長谷川裕恵
	〃	在宅介護課	主席課長（統括長）	辻　友美子
	〃	デイセンター課	主席課長（統括長）	川西　直人
	〃	（看護）小規模多機能課	課長（統括長）	永井　試行
	〃	リハビリテーション課	課長	小森健太郎
	洛和会京都健診センター		次長	桜井　　伸
	ウエルネット		主席課長	鎌田　　潤
	洛和会資材センター		部長	矢野　　克
	洛和会搬送部門【トランスポート】		次長	長東　徳繁
	洛和会施設管理部門		副部長	菊池　一弘
	洛和会会計・給与部門		副部長	岸　　裕二
	洛和会情報システム部門		次長	井關　博喜
	洛和会京都厚生学校		副校長	三森　佳奈
	洛和会 TQM 支援センター		部長	伊藤　文代
学会事務局	洛和会企画広報部門		次長	小林　拓磨

《参加者へのお知らせ》

開 催 日　第 32 回 洛和会ヘルスケア学会　2022 年 10 月 23 日（日）

会　　場　京都市勧業館 みやこめっせ 地下１階（京都市左京区）

第１会場（第１展示場 A ・ 奥）
第２会場（第１展示場 A ・ 手前）
第３会場（第１展示場 B ・ 奥）
第４会場（第１展示場 B ・ 手前）
第５会場（特別展示場 A）
第６会場（特別展示場 B）
第７会場（大会議室）
第８会場（第２・３会議室）

※フロア図参照（P. 6）

【Web 発表】2022 年 10 月 21 日（金）～ 11 月 30 日（水）
学会特設 Web サイトにて公開
URL : http://www.rakuwa.or.jp/rhac2022/index.php
※資料閲覧にはログインが必要になります。

受付時間　9:00 開始　※職員は IC カード（社員証）を持参ください。

開会時間　9:20 開会（第１展示場 A 面・奥）

１．参加者は受け付けを済ませ、各会場に入室してください。
　※開会前に来場された方は開会・閉会式場で待機してください。
２．会場内、会場付近では発表の妨げとならないよう、私語を控えてください。
３．発表に対する質問は演題ごとに行います（各演題の質疑応答時間は２分）。
４．託児所は事前申請された方のみご利用いただけます。

《座長・演者へのお知らせ》

口演の座長・演者

１．発表予定グループの開始 30 分前までに「受付」と「座長・演者受付」（受付隣）を済ませ、係の指示に従ってください。
２．口演発表は１演題につき、発表５分、質疑応答２分の計７分です。
　経過時間はベルでお知らせします。制限時間を超過しないようご注意ください。
３．出勤・退勤時の両方で IC カード打刻が必要です。

《会場までのアクセス》

みやこめっせ（京都市勧業館）

〒606－8343　京都市左京区岡崎成勝寺町９－１

京都市営地下鉄　東西線「東山駅」から　徒歩約８分

出口1からの道順～神宮道を通る～

みやこめっせの電飾看板がある方向が出口1です。

「東山駅」を出て、東方面に進みます。5分程進むと、「三条神宮道」交差点に出ます。

交差点を左折すれば、大鳥居が立つ神宮道です。大鳥居を目指して進みます。

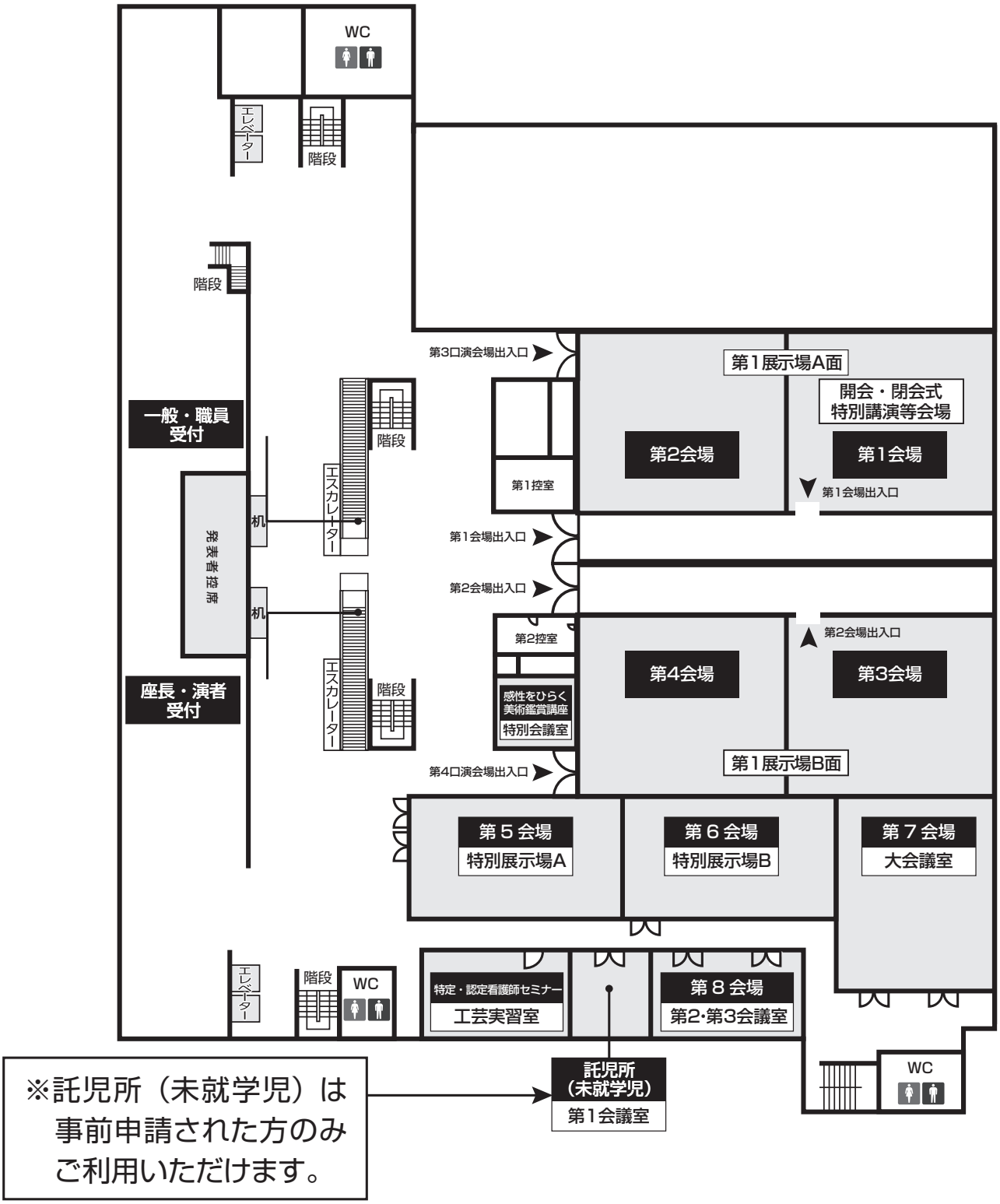
大鳥居前です。大鳥居をくぐり抜け、最初の交差点まで進みます。

交差点です。ここを左折します。

左折後、左手側に「みやこめっせ」があります。

みやこめっせ　フロア図

地下１階



※託児所（未就学児）は
事前申請された方のみ
ご利用いただけます。

洛和会ヘルスケア学会

職員受付の手順

1

ICカード（社員証）をカードリーダーに
かざしてください。

2

「ピッ!」と音が鳴れば、**受付完了**です。

発表者・座長　司会・運営スタッフの方は出勤時と退勤時の両方で
IC カード打刻をしてください。

抄録は Web サイトにも掲載しています。ぜひ活用ください。

演題や演者の検索などに便利です。

パソコンはこちら

URL　http://www.rakuwa.or.jp/rhac2022/abstract/index.php

スマートフォンはこちら

第 32 回 洛和会ヘルスケア学会　プログラム

《開　場》　9：00　受付開始

《開　会》　9：20　開会のあいさつ　理事長　矢野　裕典

学会長のあいさつ　学会長　堀井　基行

時間	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	第8会場	工芸実技室	時間
9:20	開会式（9：20～9：30）									9:20
9:35	学術支援センター（9：35～10：35）		口演①	口演②	口演③	口演⑦	口演⑪	口演⑯	特定・認定看護師セミナー（9：35～12：00）	9:35
10:00				（9：35～10：15）						10:00
10:30					口演④	口演⑧	口演⑫	口演⑰		10:30
11:00	特別講演① 東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科（救急外来部門） 部長 / 危機管理室 室長 / IVR科 医長 舩越拓先生 （10：50～11：50）			（10：20～11：00）	口演⑤	口演⑨	口演⑬	口演⑱		11:00
11:30					（11：05～11：45）					11:30
12:00	昼休憩（12：00～12：45）　「感性をひらく美術鑑賞講座」in 特別会議室（11：50～12：50）									12:00
12:30										12:30
13:00	特別講演② 京都大学医学研究科 大学院医学研究科人間健康科学系専攻 講師 小島諒介先生 （12：45～13：45）						口演⑭	口演⑲		13:00
13:30					口演⑥	口演⑩	（12：45～13：25）			13:30
14:00	特別講演③ 永寿総合病院 緩和ケア科 部長 廣橋猛先生 （14：00～15：00）				（13：35～14：15）					14:00
14:30							口演⑮	口演⑳		14:30
							（14：25～15：05）			
15:00	閉会式（15：10～15：20）									15:00
	※各会場の最終発表グループの発表終了後は閉会式が行われる会場へお越しください									

《閉　会》　15：10　閉会のあいさつ　副実行委員長　戸倉さゆり

特別講演のご案内

今回は外部講師を招いての特別講演を３題行います。

会場：第１会場（第１展示場Ａ面）
※第２～４会場でも同時中継します。

時間：10：50～11：50
東京ベイ・浦安市川医療センター
救急集中治療科（救急外来部門）部長 / 危機管理室 室長 / IVR 科 医長 舩越拓先生
講演内容：東京ベイでの救急医療について（予定）

時間：12：45～13：45
京都大学医学研究科 大学院医学研究科人間健康科学系専攻 講師 小島諒介先生
講演内容：医療・介護のための実践的な現場 AI を目指して

時間：14：00～15：00
永寿総合病院 緩和ケア科 廣橋猛先生
講演内容：コロナ時代に大切な人を最期までどう支えるか
～知っておいて欲しい緩和ケア～

第 32 回 洛和会ヘルスケア学会の特設ページにて見逃した方のためのオンデマンド配信を行います。ぜひ会場もしくは動画（後日）にてご覧ください。

洛和会ヘルスケア学会 特設ページ
http://www.rakuwa.or.jp/rhac2022/index.php
見逃した方、もしくはもう一度見たい・聞きたい方はぜひご覧ください。

Art Collaboration Kyoto　感性をひらく美術鑑賞講座

A　C　　K

会場：特別会議室

美術史の流れを元に、アート鑑賞のポイントについてわかりやすくご紹介します。介護やケアに関わる作品も取り上げ、参加者とディスカッションをしながら理解を深めます。アートの文脈を知ることで、これから美術館やギャラリーに行くのが楽しみになる講座です。

洛和会ヘルスケアシステムは ACK へ協賛しています

2021 年に始まった「現代アートとコラボレーション」をテーマに京都で開催するアートフェア Art Collaboration Kyoto（ACK）。その趣旨に共感し、京都から世界へ発信するアーティストたちの活躍を支援するため、洛和会ヘルスケアシステムは、本願寺伝道院で行われる特別企画展へスポンサーとして協賛しています。

詳しくはこちら

RAKU フォトコンテスト 2022 in 洛和メディカルフェスティバル

（応募期間：8/10 ～ 9/30）全応募作品展示

展示場所：第 5 会場 入り口付近

展示の様子（予定）

テーマ　「Green」
緑色をモチーフとした写真

「Smile」
当会や医療、介護、保育の利用者さんや職員の生き生きした笑顔など

特定・認定看護師セミナー

会場：工芸実習室

今年も開催します！

特定・認定看護師のセミナーのほか、コロナ禍において、地域や組織を横断的に活動する感染管理認定看護師の実績報告や感染対策の教育講座も実施します。

2021 年度特定認定看護師誕生！

特定行為研修を修了した看護師が、医師の手順書を元に医療行為を行うことが許される特定看護師がさまざまな分野で活躍しています。医師のタスクシフトだけでなく、看護の視点で患者さん・ご家族にとって良い医療を提供しています。

当会では特定行為研修の実施や受講、認定看護師の資格取得など、教育・研究を後押しする制度を設けたりするなど資格取得を推奨しています。

洛和会ヘルスケア学会
オンライン発表のご案内

まずは学会特設サイトにアクセス

URL：http://www.rakuwa.or.jp/rhac2022/index.php

※ログインにはメールアドレスの登録が必要となります

開催期間

2022 年 10 月 21 日（金）～ 11 月 30 日（水）

《抄録 WEB サイトも活用ください》

演題や演者の検索などに便利です。

パソコンはこちら

URL　http://www.rakuwa.or.jp/rhac2022/abstract/index.php

スマートフォンはこちら

夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®

資料はうまく作れましたか？

洛和会学術支援センターの
研究支援を利用しましょう

相　談
計画する段階での相談が理想的

立　案

倫理審査
重要なポイントです しっかりとアドバイスします

データ取得

解　析

論文指導
完成までサポート

まずはご相談ください

お問い合わせ 洛和会学術支援センター 研究支援部 TEL 075（593）0417

洛和会学術支援センター　セミナー

時間　9：35 ～ 10：35
場所　第１・２会場（第１展示場）

座長：洛和会学術支援センター センター長 長坂行雄

洛和会音羽記念病院　CE 部　古久保政徳
「維持透析のカルニチン欠乏症患者におけるレボカルニチン製剤の補充による心機能・筋肉・貧血改善効果の検討」
洛和会音羽病院　看護部　1D 病棟　丸山道代
「コロナ禍の時間外勤務に影響を与える要因についての検討」
洛和会京都健診センター　柴田彩代
「特定保健指導積極的支援脱落者と特定健診問診票の関連性」
洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　2A 病棟　辰山ひとみ
「神経難病患者に関わる看護師へのグリーフケアに対するデスカンファレンスの効果」
洛和会丸太町病院　看護部　３病棟　前谷朋江
「特発性側弯症の手術を受けた思春期女子患者と家族の退院後の生活における思い」
洛和会音羽病院　薬剤部　菱田啓介
「ロキサデュスタット及びダプロデュスタットによる血液透析患者の甲状腺刺激ホルモン減少頻度の比較」
洛和会音羽病院　呼吸器内科　畑　妙
「Efficacy and safety of immuno-chemotherapy in patients with advanced non-small-cell lung cancer harboring oncogenic mutations : a multicenter retrospective study」

第１・２会場

洛和会学術支援センターセミナー　９：35～

座長　洛和会学術支援センター　センター長　長坂行雄

① 維持透析のカルニチン欠乏症患者におけるレボカルニチン製剤の補充による心機能・筋肉・貧血改善効果の検討
洛和会音羽記念病院　CE 部　**古久保政徳**

② コロナ禍の時間外勤務に影響を与える要因についての検討
洛和会音羽病院　看護部　1D 病棟　**丸山道代**

③ 特定保健指導積極的支援脱落者と特定健診問診票の関連性
洛和会京都健診センター　**柴田彩代**

④ 神経難病患者に関わる看護師へのグリーフケアに対するデスカンファレンスの効果
洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　2A 病棟　**辰山ひとみ**

⑤ 特発性側弯症の手術を受けた思春期女子患者と家族の退院後の生活における思い
洛和会丸太町病院　看護部　3 病棟　**前谷朋江**

⑥ ロキサデュスタット及びダプロデュスタットによる血液透析患者の甲状腺刺激ホルモン減少頻度の比較
洛和会音羽病院　薬剤部　**菱田啓介**

⑦ Efficacy and safety of immuno-chemotherapy in patients with advanced non-small-cell lung cancer harboring oncogenic mutations : a multicenter retrospective study
洛和会音羽病院　呼吸器内科　**畑　妙**

第３会場

口演１　医師　　９：35～

座長　洛和会音羽リハビリテーション病院　　院長　　堀井基行

1　解離性精神障害を有する、人工呼吸管理・血液透析継続中の重症 COVID-19 症例の
ポスト ICU ケアステラテジー　　洛和会音羽記念病院　内科　**平岩　望**

2　洛和会東寺南病院における AVG 症例およびゴアバイアバーンステントグラフト症例の検証
洛和会東寺南病院　京都腎臓病センター　**廣川隆一**

3　救急・災害医療における当院の位置づけと役割　　洛和会音羽病院　救命救急センター・京都 ER　**隅田靖之**

4　心肺蘇生後の高次脳機能障害に対して、長期のリハビリテーションが有効であった一例
洛和会音羽リハビリテーション病院　内科　**福山香詠**

5　当科における急性胆嚢炎に対する手術時期の検討　　洛和会丸太町病院　外科　**山本　翼**

第４会場

口演２　整形・外科疾患・がん　　９：35～

座長　洛和会東寺南病院　　放射線部　　奥村　隆

6　腰椎分離症を対象とした 1.5T MRI 装置における Multi echo GRE 法の検討
洛和会音羽リハビリテーション病院　放射線部　**江口厚寿**

7　肩腱板断裂修復術後患者の夜間痛の軽減に向けた看護　　洛和会丸太町病院　看護部　３病棟　**小村玲加**

8　当院における抗がん剤トレーシングレポートの活用実態調査　　洛和会丸太町病院　薬剤部　**宮本憧子**

9　コロナ禍におけるがん患者・家族の会開催の試み　～ポストコロナを見据えて～
洛和会音羽病院　医療介護サービスセンター　がん相談センター　**相田貴子**

10　緊急輸血時における輸血業務の改善　～重症外傷例を経験して～　　洛和会音羽病院　臨床検査部　**小畑亜理沙**

第５会場

口演３　心臓・眼・歯疾患　　９：35 ～

座長　洛和会丸太町病院　入退院支援相談室　　副係長　　中野匡徳

11　256 列 Dual Energy CT 導入による冠動脈 CT 検査業務効率化への取り組み
洛和会丸太町病院　放射線部　**逆瀬川裕也**

12　丸太町リハビリテーションクリニックでの心臓リハビリテーション導入における取り組み
～包括的心リハ実現に向けて～　丸太町リハビリテーションクリニック　**井村友哉**

13　視覚障害のある外来患者対応における工夫　～アイセンターでの取り組み～
洛和会音羽病院　視能訓練室　**浅野みな子**

14　歯科衛生士の役割と課題　～歯科治療恐怖症患者の１症例～　洛和会音羽病院　京都口腔健康センター　**赤井恵子**

口演４　神経・精神疾患　　10：20 ～

座長　洛和デイセンター四条鉾町　　係長　　藤井彩音

15　認知症、精神疾患、経済的困窮が混在するケースに対する、
多角的な支援体制についての考察。　洛和会医療介護サービスセンター三条会店　**積田和典**

16　見守りカメラを活用した支援とマネジメントについて　居宅介護支援事業所宇治琵琶　**飯尾由矩**

17　認知症独居 A 氏が安心して生活できる環境づくり　～ケアマネとの関わりを通して学んだ事～
洛和ヘルパーステーション坂本　**図師友紀子**

18　機能訓練特化型デイサービスにおける認知症に対する関心度への影響
～認知症予防活動（コグニサイズ）を通して～　洛和デイセンターリハビリテーション音羽　**足立絵里子**

19　せん妄患者に対し日中活動性を向上させる多職種での取り組み
洛和会丸太町病院　リハビリテーション部　**吾妻里紗**

口演５　神経・消化器疾患　　11：05 ～

座長　洛和会音羽リハビリテーション病院　薬剤部　　主席係長　　多胡和樹

20　再アセスメントから BPSD の軽減に努め「安心した」生活へ　洛和グループホーム石山寺　**三好博之**

21　コロナ禍における急性期病棟において、薬剤を使用しない夜間せん妄対応に
対する一考察　洛和会丸太町病院　看護部　４病棟　**松岡裕子**

22　胃透視の腹臥位頭低位撮影における圧迫用クッションの形状及び材質の検討
洛和会音羽病院　放射線部　**大隈智美**

23　腹部座位ポータブル撮影における補助具の検討　洛和会音羽病院　放射線部　**中嶋紗希**

口演6　救急・患者満足・褥瘡　　13：35～

座長　洛和会丸太町病院　救急・HCU　　副主任　　馬越良実

24　プライマリーサーベイ評価ツールを使用した救急部門での重症度・緊急度判定における効果
洛和会丸太町病院　看護部　救急・HCU　**富永優輝**
25　普通救命講習を通じて　洛和会音羽病院　救命救急室　**林　直弥**
26　外来患者支援に関する考察　洛和会丸太町病院　医療介護サービスセンター　入退院支援相談室　**宮下怜子**
27　手術中の待機家族への術中訪問における満足度調査　洛和会丸太町病院　看護部　手術センター　**加藤朋一**
28　褥瘡患者の栄養管理の取り組みと課題　洛和会音羽病院　栄養管理室　**橋本菜月**

第６会場

口演7　透析　　9：35～

座長　洛和会音羽記念病院　CE 部　　主席係長　　吉田久美子

29　シャント PTA における DCB（Drug-Coated Balloon）の有用性について
洛和会丸太町病院　CE 部　**倉本泰志**
30　透析患者のロキサデュスタット錠への薬剤師のタスク・シフト / シェアに関する有用性の評価　洛和会東寺南病院　薬剤部　**大森清孝**
31　ノブリードによる止血効果　洛和会音羽記念病院　CE 部　**新谷七星**
32　HIF-PH 阻害薬の内服効果検討　洛和会音羽記念病院　CE 部　**前田　淳**
33　レオカーナの使用経験　洛和会音羽記念病院　CE 部　**土岐彩華**

口演8　健康増進　　10：20～

座長　洛和看護小規模多機能サービス壬生　　係長　　安部浩希

34　持久系アスリートに対する低圧低酸素室トレーニングの効果
丸太町リハビリテーションクリニック　フィットネス部　**中川　剛**
35　高齢者のペット問題　～うちのワンちゃん・ネコちゃんは家族の一員です～
洛和会医療介護サービスセンター音羽病院前店　**正金浩次**
36　ビューティータッチセラピーを導入したことによる効果　文京大塚みどりの郷　**髙橋志乃**
37　個別機能訓練の取り組みに対する効果と実績について　洛和小規模多機能サービス伏見竹田　**木村智昭**
38　食支援を通じた介護事業所との関わりで感じた総合的な支援のあり方
介護事業部　看護部　リハビリテーション課　**小嶋優子**

口演９　終末期・心　　11：05～

座長　洛和会東寺南病院　１病棟　　主任　　髙田裕子

39　個々により異なる GOOD DEATH を支えるケアとは　洛和会音羽病院　看護部　4C 病棟　**久保風香**
40　がんの終末期患者の退院支援で必要な看護の視点
～退院後の患者の望む生活を実現するために～　洛和会丸太町病院　看護部　２病棟　**西澤梨那**
41　コロナ禍における看取り対応について　洛和グループホーム久世　**小野紳一郎**
42　音楽療法がもたらす関係の変化　洛和小規模多機能サービス山科西野　**川戸夢香**

口演 10　利用者満足　　13：35～

座長　洛和ヘルパーステーション丸太町　　主席係長　　南井淳子

43　「ありがと」の笑顔が続く様に私たちが出来る事　洛和ヘルパーステーション丸太町　**中村ゆかり**
44　デイサービスで旅行気分を　洛和デイセンター百万遍　**小窪英津子**
45　眠りスキャンを活用した夜間の休憩時間の確保　洛和グループホーム醍醐春日野　**鎌田美登里**
46　「私は、いつ家に帰れるのかしら」～狷介な利用者へのアプローチ～　洛和ヴィラサラサ　**天満俊作**
47　音楽療法で大切にしていること　～リモート音楽療法での経験をもとに～
洛和会京都音楽療法研究センター　**佐藤佑香**
48　コロナウイルス感染症隔離期間におけるご利用者に対するケアと職員の意識向上
洛和グループホーム勧修Ⅱ番館　**吉井智恵子**

第６会場

第７会場

口演 11　連携①　　9：35～

座長　洛和会音羽病院　リハビリテーション部　　課長　　吉川晋矢

49　急性期医療から訪問リハビリテーションへの連携促進活動について
洛和会丸太町病院　リハビリテーション部　**関　彩花**

50　保険調剤薬局との事前合意プロトコルの取り組みからみえること　洛和会音羽病院　薬剤部　**小森眞紗代**

51　呼吸ケアサポートチームの発足と実績　～リハビリの視点から～
洛和会音羽病院　リハビリテーション部　**山﨑岳志**

52　訪問看護利用者への生活行為向上マネジメント（MTDLP）を活用した事例検討
～他職種との連携、協業の視点から～　洛和会訪問看護ステーション天王山　**村山雄亮**

53　グループホームとの医療連携の改善　洛和会訪問看護ステーション西京桂　**木全千子**

口演 12　連携②　　10：20～

座長　洛和東桂坂保育園　　課長　　本間芳江

54　協同プランの必要性について　～看護とリハビリテーションの連携により ADL・QOL 改善に繋がった２例～
洛和会訪問看護ステーション東大路　**木谷圭佑**

55　児童館と地域連携　～地域に根づき、住民に愛される児童館活動の充実を目指して～
京都市大塚児童館　**清水　亘**

56　リハビリ職との連携を通して得たもの　～ケアの向上を目指して～　洛和グループホーム伏見竹田　**小宅　章**

57　入退院支援における外来・病棟看護師間の情報共有に関する現状と課題
洛和会丸太町病院　看護部　外来　**中野　遙**

58　「地域に根付いたグループホームになる為に」～見守り隊参加を復活させよう～
洛和グループホーム花園　**北橋　真**

口演 13　TQM・改善①　　11：05～

座長　洛和会 TQM 支援センター　　部長　　伊藤文代

59　職員満足度調査から、職員食堂のメニューを増加した TQM 活動
洛和会丸太町病院　TQM 委員会　**瓦林孝樹**

60　朝礼方法の改善　～本当に朝礼って必要ですか？～　洛和会音羽記念病院　TQM 委員会　**垣谷圭祐**

61　トイレどこですか？　～案内表示がわかりづらい～　洛和会音羽リハビリテーション病院　TQM 委員会　**田村知之**

62　残業時間削減の取り組み　～モチベーション向上を目指して～（5 病院管理課会議より）
管理課モチベーション up 会議　**川崎　学**

63　洛和会東寺南病院共有フォルダの整理　洛和会東寺南病院　TQM 委員会　**杵谷和宏**

口演 14　TQM・改善②　　12：45～

座長　洛和会音羽病院　3D 病棟　　主任　　藤本貴久

64　認知度アンケート結果からの一考察　洛和会 TQM 支援センター　**太田裕也**
65　送信機に使用する院内推奨電池と市販電池の動作時間及び費用削減の検討
洛和会音羽病院　CE 部　**金本　梓**
66　地域包括ケア病棟に勤務する看護師の退院支援への取り組み
～勉強会前後のアンケート結果からみえてきたこと～　洛和会音羽病院　看護部　3C 病棟　**西田真唯**
67　身体抑制に対する医師と看護師の認識について　～急性期病棟におけるアンケート結果より～
洛和会音羽病院　看護部　4A 病棟　**井上陽介**
68　渉外室の役割再考。ある意味これも経費の節減策！
～患者さんや職員の安全・安心を守るもう１つの視点～　洛和会音羽記念病院　渉外室　**笹川隆雄**

口演 15　TQM・改善③　　14：25～

座長　洛和会医療介護サービスセンター右京山ノ内店　　主席課長　　加藤浩樹

69　退院支援から始まる居宅介護支援の現状と課題　大塚介護保険サービスセンター　**伊東浩美**
70　ケアプラン回覧の活用からプラン内容の質の向上を目指す　居宅介護支援事業所山科　**藤田道代**
71　低線量 CT 撮影における画質の評価　洛和会丸太町病院　放射線部　**矢房尚大**
72　新規開設事業所としての苦悩　～選ばれる事業所を目指して～
洛和会医療介護サービスセンター北大路店　**髙木美紀**
73　返却ミス０件を目指して　洛和デイセンター北野白梅町　**佐々木咲乃**

第８会場

口演 16　TQM・改善④・採用教育　　9：35～

座長　洛和会会計・給与部門　財務会計　　次長　　柴田博明

74　服薬ケアに対する私たちの意識の変化　～基本に戻った服薬ケア～　洛和ヴィラアエル　看護介護部　**藤原有紀**
75　未経験者のためのクリニック医療事務職の育成プログラムについて
丸太町リハビリテーションクリニック　管理課　**内田ことみ**
76　新人看護師教育における社会人基礎力育成に向けた教育プログラムの効果
～ PNS 導入後の卒後１～２年目看護師の成長の実感から見えた課題をもとに～
洛和会音羽病院　看護部　5A 病棟　**長野未佳**
77　新人ケアマネジャーの教育体制について　洛和会医療介護サービスセンター東大路店　**山田隼平**
78　外国人雇用に関する取り組み　洛和会本部採用教育課　**山田有里子**

口演 17　働き方　　10：20 ～

座長　洛和会訪問看護ステーション四条鉾町　　課長　　内田倫子

79　訪問看護ステーションの緊急携帯が職員の日常生活に与える影響
洛和会訪問看護ステーション石山寺　**松井靖子**

80　チームで地域へアプローチ！新規獲得を目指して職員個々の強みを活かす
洛和グループホーム守山大門　**田中永一**

81　ICT・介護サポート機器導入による現状の振り返り　～働きやすい職場環境を～
洛和ホームライフ室町六角　**柘　貴宏**

82　卒業前看護技術演習の取り組みと今後の課題　洛和会京都厚生学校　看護学科　**坂井直美**

83　実習開始前における助産師学生の助産診断過程の到達状況　洛和会京都厚生学校　助産学科　**奥村美由希**

口演 18　医療安全　　11：05 ～

座長　トランスポート　　主席係長　　石黒宏一

84　医療安全文化醸成につながる安全活動　洛和会音羽病院　医療安全管理室　**中川朋子**

85　ヒヤリハットからの気付き　洛和ホームライフ御所北　**則武喬介**

86　ヒヤリハットが報告できる環境作り　洛和会訪問看護ステーション北大路　**庄　康余**

口演 19　運営①　　12：45 ～

座長　洛和会音羽記念病院 1 病棟　　師長　　加藤亜由子

87　管理課を見直す取り組み　洛和会丸太町病院　管理課　**安藤彩華**

88　院内メディカルコントロール委員会を創設して、院内救命士の実施できる事
洛和会音羽病院　救命救急室　**中川功基**

89　グループホーム事業所の管理者専任配置による有効性　洛和グループホーム壬生　**犬石慎吾**

90　ショートステイの稼働率向上の取り組み　～空床利用の活用について～　洛和ヴィラ文京春日　**柳館孝行**

91　管理栄養士増員による栄養管理に関する効果　洛和会音羽病院　栄養管理室　**東浦七帆**

口演 20　運営②　　14：25 ～

座長　洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　3A 病棟　主任　　髙田みつ美

92　モニタリングを中心とした予算達成への取り組み　洛和ヘルパーステーション石山寺　**園村田鶴子**

93　コロナ禍でのリハビリテーション会議の工夫とその事例　洛和デイセンターイリオス　**矢野貴士**

94　継続した栄養サポートにつなげる栄養情報提供書　洛和会丸太町病院　栄養管理室　**小畑亜姫**

95　介護老人保健施設でのコロナウィルスクラスターを経験し学んだこと　洛和ヴィライリオス　**富坂有紀**

96　ブラシを使って患者さんを笑顔にする取り組み（病院とホテルで叶える SDGs）
洛和会音羽病院　リハビリテーション部　**篠田　昭**

Web 版

働き方

1　医師の勤務環境改善　洛和会音羽病院　秘書課　**金銅雅美**
2　COVID-19、軽症・中等症患者の受け入れ病棟における長期での対応を行っている看護師へのワークエンゲイジメント　洛和会音羽病院　看護部　4D 病棟　**今西　丈**
3　ER との連携方法変更に伴う救急病棟入室までに要する時間の変化に関する調査　洛和会音羽病院　看護部　2B 病棟　**早川　猛**
4　代行入力業務のボトムアップに対する取り組みと考察　洛和会音羽記念病院　ドクターエイド課　**大木啓太郎**
5　業務の標準化・体制の再構築への取り組み　～外来診察補助業務における休憩交代制の導入～　洛和会音羽リハビリテーション病院　ドクターエイド課　**井﨑亜依**
6　笑顔で気持ちよく働ける環境作り　洛和グループホーム天王山　**阪本幸子**
7　みんなが働きやすい職場をめざして　～コミュニケーションを大切に～　洛和グループホーム右京山ノ内　**徳永泰子**
8　職員の定着を目指して　～施設独自の取り組み～　洛和ホームライフ四ノ宮　**金田　彩**
9　障がい者雇用は「働き方改革」でもあるんです！　障がい者就労支援事業所 らくわ　**中田亘洋**
10　ハッピーサンデーを目指して！　～稼働向上のための日曜日特化アクション～　洛和デイセンター宇治琵琶　**松井幸代**
11　ヘルパーが不足する中での稼働率向上に向けての取組み　洛和ヘルパーステーション醍醐駅前　**金澤路子**
12　返却忘れ減少への取り組みと結果　洛和ヴィラ桃山　**下世幸博**

TQM・改善

13　みんなの事務作業を軽減しよう！　洛和会丸太町病院　医療情報・がん登録統計課　**山田志帆**
14　コロナ禍での環境整備とその一考察　洛和会音羽記念病院　管理課　**林　峻哉**
15　ケアの質を均一にすることを目指した取り組み　洛和デイセンター音羽　**苅田沙津紀**
16　コロナ禍だからこそできた業務改善　～ピンチがチャンスに～　洛和ホームライフ山科東野　**川嶋由紀雄**
17　遅出勤務の導入による時間外勤務の削減　資材センター（TQM 委員会）　**福田尚樹**
18　介護付有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の上下水道料金減免について　環境サービス　**亀井弘文**
19　クラウド型契約書管理システムの導入　洛和会会計・給与部門　財務会計　**松川欣弘**
20　院内掲示物の管理改善、ルール策定について　洛和会音羽病院　総務部　**青木英樹**
21　栄養補助食品“茶碗蒸しゼリー”導入後の現状報告と今後の課題について　洛和会音羽記念病院　栄養管理室　**西川友加里**
22　災害時における給食　洛和若草保育園　**江湖葉子**
23　当院薬剤部による処方提案の現状について　洛和会音羽記念病院　薬剤部　**松井治幸**
24　音羽リハビリテーション病院における睡眠薬の使用に関する実態調査　洛和会音羽リハビリテーション病院　薬剤部　**西堂美砂**
25　院内がん登録の精度向上への取り組みについて　洛和会音羽病院　医療情報・がん登録統計課　**影山愛佳**
26　施設長・職員に対する情報共有の取り組み　子ども未来事業部　TQM 委員会　**橋本陽介**

整形

27　整形外科学会症例登録の取り組みと改善　洛和会丸太町病院　ドクターエイド課　**小林亜矢**
28　人工膝関節全置換術後の炎症管理に対する取り組み報告　洛和会音羽病院　リハビリテーション部　**南　迅人**
29　背屈が困難な患者の手根管撮影の検討　洛和会音羽記念病院　放射線部　**櫻田　廉**
30　整形外科術後患者の DVT の割合とその後の経過について
洛和会音羽リハビリテーション病院　臨床検査部　**大口裕樹**
31　圧迫骨折・左内包後脚梗塞によりサービス付き高齢者住宅での生活が困難となった症例
～食事動作のポジショニングに着目して～　洛和会音羽リハビリテーション病院　リハビリテーション部　**吉田　匠**
32　身体介護以外の業務改善を試みて　～腰痛『ゼロ』を目指して～　洛和デイセンター音羽のさと　**橋本恵美**
33　整形外科における術後疼痛管理プロトコール活用とその効果
～ numueric rating scale（NRS）－を用いて～　洛和会音羽病院　看護部　2A 病棟　**北村裕子**

連携

34　コロナ禍における渉外活動と成果　～ with コロナ時代における地域連携の在り方～
洛和会丸太町病院　医療介護サービスセンター　地域連携課　**北村明宏**
35　もてなすくんが繋いでくれた病院と地域との交流　洛和会音羽病院　経営管理部　**桐生実歩**
36　メール営業の取り組み　洛和会音羽病院　医療介護サービスセンター　地域連携課　**善本紗世**
37　介護支援等連携指導料の算定向上に向けた連携の取り組みに関して
洛和会音羽病院　医療介護サービスセンター　入退院支援相談室　**久世佑己**
38　カンフォータブル・ケアがもたらすスタッフへの効果　洛和会音羽病院　看護部　2C 病棟　**鴨川裕臣**
39　地域医療連携システム導入後の訪問効果について
洛和会音羽記念病院　医療介護サービスセンター　地域連携課　**二宮稔之**
40　紹介件数増加への取り組み
洛和会音羽リハビリテーション病院　医療介護サービスセンター　地域連携課　**木下　茂**
41　回復期リハビリテーション病棟における看護師・リハビリセラピストとの
チームアプローチに関する看護師の認識　洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　4A 病棟　**西田妃菜**
42　居宅介護支援事業所へのバトンパス　京都市音羽地域包括支援センター　**竹部理恵**
43　訪問看護での多職種連携における医療用 SNS の効果
～京都市内の訪問看護ステーションでの現状調査～　洛和会訪問看護ステーション壬生　**山田梨衣佳**
44　癌末期利用者、家族への意思決定支援訪問看護師と他職種連携の重要性
洛和会訪問看護ステーション右京山ノ内　**宮川実樹**
45　グループホームとのより良い連携を目指して　～ロールプレイングを用いた考察～
洛和会訪問看護ステーション醍醐駅前　**山村優子**
46　看護師によるグループホーム職員への「看取りの安心勉強会」前後のアンケート調査結果と
勉強会実施の効果について　洛和会訪問看護ステーション四条鉾町　**青山佳代子**
47　コロナ禍で出来る幼老交流　洛和グループホーム桂　**宍戸美希**
48　コロナ禍における幼老統合ケアの難しさと今後の課題　洛和グループホーム桂川　**森　陽子**
49　コロナ禍における幼老交流の実践　洛和大塚みどり保育園　**浅井はるか**
50　ICU リハビリチーム発足による効果と課題　洛和会音羽病院　リハビリテーション部　**大塚裕太**
51　当院における CCOT チームラウンドと Warried Call システムの現状と今後の課題
洛和会音羽病院　看護部　ICU/CCU　**吉田麻美**
52　「人任せな A さん」から「自ら行動出来る A さん」へと CM の捉え方が変化した事例
～就労継続支援Ｂ型への通所をきっかけに～　洛和会医療介護サービスセンター四条鉾町店　**片山治子**

終末期

53　蘇生困難なCPA症例患者の家族へのグリーフケアの現状と課題
～3次救急医療を担うERスタッフの語りから～　洛和会音羽病院　看護部　救命救急センター・京都ER　**金澤柾人**

54　看取り面会時の看護師の関わりが家族へ与えた影響
～患者に依存的であった家族が受容できた事例を用いて～　洛和会音羽病院　看護部　3D病棟　**佐藤里菜**

55　在宅看取りケアの振り返り　～終末期がん療養者の看取り支援～　洛和会訪問看護ステーション大津　**田中文恵**

56　多様化するターミナルケア　～ご利用者・ご家族に寄り添う看取りとは～
洛和グループホーム右京常盤　**中川文恵**

57　地域連携医との「看取り」に関する事前研修を経て　～新人職員の心の動き～
洛和グループホーム西ノ京　**大槻幹子**

58　家族の思いに寄り添う看取りケア　洛和グループホーム宇治琵琶　**由里さおり**

59　グループホームでの最期を見守る　～チームケアで取り組んだ看取りについて～
洛和グループホーム大津　**吉岡由香**

60　肺がん末期、治療を終え自宅での生活を支援するために　洛和ヴィラ桃山居宅介護支援事業所　**宇野さやか**

神経・精神疾患

61　認知症患者への集団回想法における絵本の読み聞かせについての一考察
洛和会音羽病院　臨床心理室　**外川由佳**

62　学習の困りを主訴に来院した子どものK-ABC Ⅱに見られる認知処理能力と
その後の支援の検討　洛和会音羽病院　臨床心理室　**大杉一葉**

63　知的水準と適応行動水準にディスクレパンシーが見られた中学生の症例
洛和会音羽病院　臨床心理室　**中島陽大**

64　アルコール依存症の疑いを有する患者への久里浜式スクリーニング検査の活用上の
課題と検討　洛和会音羽病院　臨床心理室　**田村紘一**

65　洛和会メンタルサポート室利用者の動向　洛和会メンタルサポート室　**林たみ子**

66　筋強直性ジストロフィー患者への看護アプローチ　～「自分らしさをお手伝い」～
洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　2A病棟　**木下柚希乃**

67　神経難病患者の摂食嚥下機能療法による摂食・嚥下能力の維持に関する効果
洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　2B病棟　**武村真凜**

68　オンラインで結ぶ地域ケア会議　～若年性認知症50代女性が実家に戻って暮らすための支援～
居宅介護支援事業所坂本　**松清洋子**

69　難病利用者へのリハビリテーション　～活動・参加へのアプローチをした一症例～
洛和会訪問看護ステーション坂本　**山田友子**

70　本態性振戦に加えパーキンソン症状を抱える利用者の安心・安全な生活を考える
洛和グループホーム大津若葉台　**水野俊和**

71　新型コロナウイルス感染によるADL・認知機能低下からの回復に向けた取り組みについて
洛和ヴィラ天王山　**川脇鈴花**

72　異食行為のある利用者への関わり
洛和ヴィラ桃山　**金田行司**

糖尿病・透析

73　透析センターの災害時初動対応に対する机上シミュレーション訓練の効果
洛和会音羽記念病院　看護部　透析センター　**桝本茉那**

74　透析専門病院の障害者病棟における事故防止対策での身体抑制に関する現状調査
洛和会音羽記念病院　看護部　1病棟　**水田百恵**

75　透析導入前のシャント造設目的のみで短期入院する患者の想いに関する質的研究
洛和会音羽記念病院　看護部　2病棟　**安井謙成**

76　透析室で勤務するスタッフの医療安全に関する認識　洛和会東寺南病院　看護部　透析室　**山地真由美**

77　糖尿病疾患のある高齢者への食事対応について　洛和看護小規模多機能サービス音羽　**鵜瀬佑也**

感染症

78　好酸球性筋膜炎の診断に超音波検査が有用であった１症例　洛和会丸太町病院　臨床検査部　**北風麻衣**
79　当院における細菌検査による Staphylococcus lugdunensis 分離状況と感染症事例報告
洛和会音羽記念病院　臨床検査部　**小川　隆**
80　新型コロナウィルスに罹患した利用者の対応を通じての学び
居宅介護支援事業所洛和ヴィラ天王山　**岡本隆之**
81　新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式　洛和ヴィラ桃山Ⅱ番館　**曽我幸平**
82　患者搬送時の新型コロナ感染防止策とその効果　洛和会搬送部門【トランスポート】　**森　高行**
83　管理課と新型コロナウィルス　洛和会音羽病院　管理課　**貞弘祐紀**

患者満足

84　コロナ禍におけるオンライン面会の導入　洛和会音羽リハビリテーション病院　管理課　**坂口新奈**
85　療法士を選び拒否が多い患者に対する介入方法の振り返り
洛和会音羽リハビリテーション病院　リハビリテーション部　**平嶋菜央**
86　身体抑制解除に向けた新たな取り組み　～フェイスシールドを活用して～
洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　外来　**古久保侑実子**
87　出血感知センサーの有用性について　洛和会東寺南病院　CE 部　**藤崎正人**
88　手術を受ける患者の手術中の不安軽減に対する音楽の効果
洛和会音羽病院　看護部　手術センター　**木下恵里子**
89　重度の褥瘡患者を抱えた家族の介護力向上につながった看護師の指導・関わりの一考察
洛和会訪問看護ステーション音羽　**大喜田光二**
90　不全対麻痺により歩行困難となった症例に対して社会参加の拡大を図った一例
洛和会音羽リハビリテーション病院　リハビリテーション部　**松永英治**

利用者満足

91　複数の医療処置を必要とする長期療養患者・家族への在宅退院支援についての一考察
洛和会音羽記念病院　看護部　３病棟　**安藤　英**
92　私は外に出かけたいんです　居宅介護支援事業所石山寺　**梅田　裕**
93　徘徊のある利用者への支援について　～介護の対応の限界と課題～
洛和会医療介護サービスセンター西京桂店　**大山小雪**
94　スポーツとしてとらえたレクリエーションの実施について
全ての利用者が参加出来るレクを考える　洛和デイセンター西ノ京　**吉田眞理子**
95　A 氏の排便リズムが整う生活に向けて　洛和グループホーム山科鏡山　**白石貴広**
96　生活スタイルのより良い構築　～「ご利用者を知り、理解する」～　洛和ホームライフみささぎ　**市田志菜**
97　固定観念を取り払ったケアを心掛けよう　洛和ヘルパーステーション山科　**三山晴代**
98　自分で選びたい。情報提供することでの思いの表出
～要介護３の独居利用者への宅配サービス導入を試みた事例～　洛和会訪問看護ステーション桃山　**大西栄里**
99　「神様、今日も一日良い日でありますように」～馴染みある暮らしとホームでの日常～
洛和グループホーム亀岡千代川　**宮脇雅也**
100　できることを継続するために　洛和グループホーム西院　**小谷朱乃**
101　コロナ禍におけるリハビリ、イベントの取り組み　洛和ヴィラ南麻布　**川野千枝**
102　安心して過ごせる学童クラブをめざして　洛和御所南学童クラブ　**占部伶美**
103　I LOVE 人間ドック　～人間ドックで家族を守ろう～
洛和会京都健診センター　洛和会東寺南病院 健診センター　**藤原勝江**
104　定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス　～サ高住の生活に合わせた支援・サービスについて～
洛和ヘルパーステーション音羽　**齋藤久美**
105　高齢者を元気に！商店街も元気に！ウォークラリーでフレイル予防
京都市朱雀地域包括支援センター　**橋元利江**
106　重度化する本人とその家族を支えるための支援　～ F-SOAIP 活用から見えてきたもの～
洛和会医療介護サービスセンター右京常盤店　**東誠一郎**
107　小規模多機能サービス利用による在宅生活の継続について　洛和小規模多機能サービス花園　**山田匡人**

採用・教育

108　教育体制について　～新人教育に向けての取り組み～　洛和会音羽病院　ドクターエイド課　**東嶋　葵**
109　新人看護師が基本的な看護力をつけるためのプリセプターの役割　洛和会音羽病院　看護部　3A 病棟　**加納比菜乃**
110　回復期リハビリテーション病棟における看護師　―リハビリセラピスト間での FIM 評価の差異に関する調査　洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　3A 病棟　**木村知奈美**
111　「看護師の問題解決行動尺度」測定による問題解決能力とクリニカルラダー評価による看護実践能力との比較に関する研究　洛和会東寺南病院　看護部　1 病棟　**武村靖子**
112　登録ヘルパーさんの人材確保へ向けての取り組み　～訪問介護の魅力とは～　洛和ヘルパーステーション桃山　**小林美鈴**
113　新しいかたちへの発展　～クラブ活動を通した児童の変化～　京都市新道児童館　**磯田汐里**
114　児童館、学童クラブにおける将棋と子どもの関わり　京都市花山児童館　**中島遥香**
115　親支援　～さまざまな家庭へのさまざまな支援のあり方を考える～　洛和東桂坂保育園　**横田　愛**
116　主体的に遊べるように…　～生活と遊びのつながり～　守山市立吉身保育園　**吉中弥生**
117　A 病院における入退院支援センター看護師の看護実践の構造　洛和会音羽病院　看護部　入退院支援センター　**稲田由紀子**

情報共有・広報

118　「聞いていない！」を無くしたい　～情報共有の方法の検討～　洛和会訪問看護ステーション山科　**多田明美**
119　映像から広がる保育　洛和みずのさと保育園　**田中友唯**
120　当会の Web マガジンおよび SNS の分析について　洛和会企画広報部門　**垣本知宏**
121　コロナ禍における音楽療法のニーズの高まりについて　洛和会京都音楽療法研究センター　**柴田恵美**

疾患

122　同日に両眼白内障手術を受けた患者の実態調査　洛和会音羽病院　看護部　アイセンター　**松木真紀**
123　TFNT00 と DFR00V 挿入眼の術後成績比較　洛和会音羽病院　視能訓練室　**市村芽瑠茂**
124　発達性協調運動障害に対する作業療法外来の取り組み　洛和会音羽病院　リハビリテーション部　**高間結乃**
125　妊産婦が分娩施設に求めるニーズの実態調査　～ニーズを反映した産科混合病棟ユニットマネジメントに向けて～　洛和会音羽病院　看護部　2D 病棟　**晝川　澪**
126　脳卒中におけるリスク認知向上への取り組み　～再発防止に向けた退院指導を目指して～　洛和会音羽病院　看護部　SCU　**廣林涼佳**
127　外来心臓リハビリテーションに参加した患者の看護外来の効果　洛和会音羽病院　看護部　外来　**榎本あや**
128　敗血症後の廃用症候群により尖足位となった症例　～自宅退院に向けた歩行動作獲得を目指して～　洛和会音羽記念病院　リハビリテーション部　**民谷真理**

1

解離性精神障害を有する、人工呼吸管理・血液透析継続中の重症COVID-19症例のポストICUケアステラテジー

洛和会音羽記念病院　内科
○平岩望

【キーワード】COVID-19、AKI、ARDS、人工呼吸器、血液浄化法、ポストICU、ケアステラテジー

Long-COVIDにはICUでの長期治療のためポストICU症候群の影響も受け長期に苦しむ症例があり、重症COVID-19症例では全身的診療が供与できるかが重要です。

今回、気切下人工呼吸器管理および血液浄化治療を受けているCOVID患者で、さらに解離性精神疾患を有する症例の診療を通じて、ケアの二つの側面、「production line」と「solution shop」とに注意を払うことで透析離脱だけでなく独歩自宅退院に至った症例について報告する。特に後者に関して、empathyを示して頂いた療法士、看護師、CEと患者との信頼確立によりステップ毎に目標値を説明して患者からの協力が得られ、依存過多を避けケアサイドへの信頼性の構築を重視することで解離性障害での治療抵抗なく各ステップクリアが可能となった。

2

洛和会東寺南病院におけるAVG症例およびゴアバイアバーンステントグラフト症例の検証

洛和会東寺南病院　京都腎臓病センター
○廣川隆一・中村智宏・近藤守寛
洛和会丸太町病院　洛和会京都血管内治療センター　心臓内科
有吉真・山口真一郎・浜中一郎

【キーワード】AVG、ステントグラフト、バイアバーン

当院で施行したAVG症例および術後にゴアバイアバーンステントグラフトを使用した症例を報告する。

2018年11月から2021年12月の期間にAVGを施行した323例を調査した。

グラフト静脈側吻合部狭窄や閉塞に対してステントグラフトを使用した症例を調査した。

グラフトは、4-6mm PROPATEN、6mm PROPATEN、7mm PROPATEN、6mm SEAL PTFE、7mm SEAL PTFEを使用した。

ステントグラフトを使用した症例は31例であった。

頻回狭窄や閉塞に対してはPTAやグラフト延長手術で対応してきたが、ステントグラフトという選択肢の登場により更なる治療成績の向上が期待される。

3

救急・災害医療における当院の位置づけと役割

洛和会音羽病院　救命救急センター・京都ER
○隅田靖之

【キーワード】ER型救急、背景人口、地域の砦、高齢化

当院は2012年に救命救急センターに、2015年に災害拠点病院に指定された。人口146万人の京都市内に4つある救命救急センターのうちの1つで、2012年に指定される前から重軽症を問わず救急受け入れ（ER型救急）をしている。救急車受け入れ件数6000台/年で、2021年は京都市内の搬送困難事例の7/19件を受け入れた。災害医療においては人口の多い京都市内中心部と花折断層帯が存在する東山山麓を境にしており、有事の際には市内中心部と隔絶する可能性があり、災害拠点病院として中心的な役割が期待されている。改めてその役割を認識し、当院だけでなく地域及び法人所属の皆様のご理解・ご協力をお願いしたい。

4

心肺蘇生後の高次脳機能障害に対して、長期のリハビリテーションが有効であった一例

洛和会音羽リハビリテーション病院　内科
○福山香詠・山崎武俊・小澤恭子・笠井智晴

【キーワード】リハビリ

高次脳機能障害とは、脳血管障害や脳外傷、低酸素脳症などで起こる注意障害や遂行機能障害、記憶障害などを総称したものである。一般的には回復が乏しく、社会復帰を果たすのは困難な例が多い。

今回我々は、突然の心室細動発作により心肺停止となり、蘇生後の低酸素脳症により多彩な高次脳機能障害をきたした一例を経験した。音羽病院での急性期治療の後、当院回復期リハビリ病棟へ転院し高次脳機能訓練を開始した。180日の入院期間のみならず、退院後は外来リハビリにて切れ目のないリハビリを継続した結果、発症1年2か月後には調理師として社会復帰を果たした。

5

当科における急性胆嚢炎に対する手術時期の検討

洛和会丸太町病院　外科

○山本翼・名幸義仁・内山清

【キーワード】急性胆嚢炎、腹腔鏡下胆嚢摘出術、TG13、TG18

急性胆嚢炎に対する適切な手術時期について様々な報告が散見され議論されてきた。2018 年の本邦の急性胆管炎・胆嚢炎ガイドライン（TG18）において、手術リスクが高くない（CCI 5 点以下かつ ASA-PS2 以下）症例に対しては、発症 1 週間以内の手術を推奨すると新たに記載された。

今回、TG18 を踏まえ、2021 年 4 月～ 2022 年 7 月までの当科における急性胆嚢炎に対して、発症 1 週間以内の早期治療群と保存加療後の待機手術群に分けた。「合併症」「出血量」「手術時間」「全入院期間」「術後在院日数」の項目について、比較検討を行ったのでここに報告する。

6

腰椎分離症を対象とした 1.5T MRI 装置における Multi echo GRE 法の検討

洛和会音羽リハビリテーション病院　放射線部

○江口厚寿・平岩源司・田村知之・岸本淳・村井ユミ

【キーワード】検査

腰椎分離症は主に CT で評価されるが、当院の装置は導入から 10 年ほど経過しており最新の装置と比較して病変部位の評価に、より多くの線量を要する。

そのため分離症の起こりやすい若年者の被ばく量が多いことが懸念されていた。以前より整形外科医から MRI を使用して CT のように腰椎分離症を評価できないかという相談を受けていた。

その相談を受けシーメンスより推奨されている条件で Multi echo GRE 法（CT like image）を利用して、健常者と分離症のボランティアそれぞれ 1 人を撮像した。しかし推奨されている条件では検査時間が長く、患者さんの負担や運用面が課題となった。そこで条件を変更して、いくつかのパターンで再度撮像を行い技師 5 人と放射線科医、整形外科医で比較評価したのでここに報告する。

7

肩腱板断裂修復術後患者の夜間痛の軽減に向けた看護

洛和会丸太町病院　看護部　3 病棟

○小村玲加・大河内麻奈未・川島暁未花
辻野夏海・岩田沙織・薩田由紀

【キーワード】腱板断裂修復術、夜間痛、腱バック・アームスリングの固定、ポジショニング

A 病棟は整形外科病棟で年間 1,549 症例の手術を行っている。そのうち肩腱板断裂修復術は 140 症例ある。肩腱板断裂修復術後の患者は術直後より夜間痛の訴えが多く、術後の苦痛が大きい。

術後の介入として、作業療法士と協働し生活指導や装具の調整、日常生活ケアを行っているが、夜間痛の訴えに対しては夜勤の看護師が冷罨法や鎮痛剤の投与、装具の調整を行っていても苦痛の軽減には至っていない現状がある。

今回、先行研究をもとに術後の看護介入を検討することで、夜間痛の軽減に向けた課題が明らかになったため報告する。

8

当院における抗がん剤トレーシングレポートの活用実態調査

洛和会丸太町病院　薬剤部

○宮本憧子・大上寛子・中村美樹

【キーワード】保険薬局、抗がん剤治療、トレーシングレポート（TR）

当院は保険薬局と病院薬剤部が連携し適切に抗がん剤治療を受けられる環境を整える目的で抗がん剤専用トレーシングレポート(TR) を作成している。今回、経口抗がん剤治療患者を対象に TR の活用実態について調査を行ったので報告する。

2021 年 4 月 1 日～ 2022 年 6 月 30 日の期間における当院へ情報提供された TR について①介入患者数② TR 件数③介入時期④介入事例内容を後方視的に調査した。

① 16 名② 56 件③ d1 ～ d20 ④支持療法に関する介入が 8 例、レジメンに関する介入が 2 例であった。また、保険薬局からの TR は全例主治医に伝えられた。

TR の活用は副作用軽減及び適切な抗がん剤の投与継続に寄与していると示唆された。

9

コロナ禍におけるがん患者・家族の会開催の試み
～ポストコロナを見据えて～

洛和会音羽病院　医療介護サービスセンター　がん相談センター

○相田貴子・藤田かおり・小畑未央

【キーワード】がん患者・家族支援、患者会、オンライン開催、がんピアサポーター

がん対策推進基本計画では、がん患者のこころの苦悩に関し、患者が求める情報や支援の第1位は体験談、同病者との交流であり、患者と家族にとって大きな助けとなっている（第2期）、患者同士が体験を共有できる場の存在は重要（第3期）とし、がん患者・家族会の開催意義と必要性が明文化されている。当院がん相談センターではがん患者・家族の会を2011年から開催している。しかし、新型コロナウィルス感染対策のため対面形式での開催が困難となった。そこで、今回ZOOMを利用したオンラインでの患者会開催を試みた。

開催に向け、がんピア・サポーターと協働し、オンライン交流におけるコミュニケーションスキルの学習会とリハーサル、倫理的配慮と個人情報保護対策として参加利用規約の作成等を行った。その後患者会を開催し、参加者アンケートの内容、また参加が困難だったがん患者さんの声などから今後の患者会開催の可能性を検討した。

10

緊急輸血時における輸血業務の改善
～重症外傷例を経験して～

洛和会音羽病院　臨床検査部

○小畑亜理沙・芋川亮大・荻野真由・西藤雅美・金羽美恵

【キーワード】検査

救命救急センター･京都ERは今年で10周年を迎え、三次救急を受け入れる基幹病院としての体制を整えてきた。同時に輸血検査室では、血液型不明時の緊急血液製剤払い出し件数（ノンクロス輸血）も年々増加している。今回、夜間帯に発生した重症外傷の緊急輸血対応を検証した結果、緊急時には省略できる手順があることや、スタッフ間の連携が不十分であることが分かった。これらについて業務改善を行うことで、血液製剤提供までの時間を短縮することができ、医師や看護師にも緊急時の輸血に対する認識を再確認することができた。今後も輸血検査室として安全で迅速な輸血を提供できるよう、多職種と連携し、業務改善に取り組んでいきたい。

11

256列 Dual Energy CT 導入による冠動脈CT検査業務効率化への取り組み

洛和会丸太町病院　放射線部

○逆瀬川裕也・上田千智・藤川優志

【キーワード】冠動脈CT、業務効率化

冠動脈CT検査では安定した心拍数での撮影が必要である。そのため、患者への前処置や撮影後の画像処理に時間を要していた。

今年3月に当院のCT装置を更新した。この装置を導入した事による業務効率化の取り組みについて報告する。

〈方法〉

機器の更新前と更新後の検査手順を工程ごとに比較する。

患者への前処置及び撮影から再構成にかかる時間が削減され、業務の効率化が図れた。

機器の性能向上により、不整脈や高心拍の患者に対して更新前の装置で時間を要していた画像処理に対する工程が削減され、放射線技師への負担が軽減されたと考える。また高心拍に対する薬剤による前処置が必要なくなり、患者及び看護師への負担も軽減されたと考える。

12

丸太町リハビリテーションクリニックでの心臓リハビリテーション導入における取り組み
～包括的心リハ実現に向けて～

丸太町リハビリテーションクリニック

○井村友哉・松井知之・福嶋秀記・平本真知子・橋本留緒
東善一・前芝邦昭・有吉真・山口真一郎・森原徹

【キーワード】心臓リハビリテーション、多職種連携

心臓リハビリテーション（以下心リハ）では包括的心リハが重要と言われているが、整形外科クリニックである当院では患者教育や疾患管理への介入の不足が課題であった。本発表では当院での包括的心リハに向けた取り組みについて報告する。

丸太町病院の心不全カンファレンスに出席し、心不全チームと外来心リハ患者の情報を共有している。指導の際は入院・外来で共通した資料を用いて患者指導の統一化を図っている。また、必要に応じて栄養指導等を依頼している。

上記の取り組みで多職種との情報共有や指導の統一化を図ることができたが、患者さんそれぞれの背景･生活に応じた介入には不十分な部分もある。今後も丸太町病院心不全チームとの連携強化を図りたい。

13

視覚障害のある外来患者対応における工夫
～アイセンターでの取り組み～

洛和会音羽病院　視能訓練室
○浅野みな子・中村精吾・中岡久志・田邊由紀・栗山晶治

【キーワード】改善、接遇、視覚障害

視覚障害を有する患者への説明・対応の向上を目的として手術パンフレットの作成、誘導・声かけの見直し、視覚補助具の利用などを行った方法と結果を報告する。

パンフレット作成により、対面での説明中や待ち時間に患者が積極的に手に取り、質問・感想を話すなどの患者からの主体的な言動が増し、非対面である電話回答においても良好な反応が多く感じられた。誘導・声かけにより患者の移動時間の短縮・不安解消からの笑顔、感謝の言葉が見られた。補助具利用により、読み書きの際の快適さの発見・体験により、笑顔や好意的な反応を多く引き出せた。

結果、患者の満足度が向上したと思われる声が聞けた。

14

歯科衛生士の役割と課題
～歯科治療恐怖症患者の１症例～

洛和会音羽病院　京都口腔健康センター
○赤井恵子・福岡亜沙子・杉江真美・久保田実侑
小島優子・中村舞也・西原千香・白子美和
洛和会音羽病院　歯科麻酔科
渡邉俊宏・竺珊・星豪・吉田好紀・中尾晶子

【キーワード】歯科治療恐怖症、歯科衛生士、コミュニケーション

昨今、歯科治療の技術や機器は格段に進歩している。しかしながら過去の歯科治療がトラウマとなり、精神疾患のようなレベルで「歯科が苦手だ」「歯科治療は行いたくない」という恐怖症と言うべき患者は少なくない。このような患者は簡単には歯科を受診できず、口腔内の状況が崩壊している場合が多いので広範囲に渡る治療が必要となる。

明確な定義こそないが、これらの患者を歯科治療恐怖症患者と位置付け、当センターでは全身麻酔を軸に治療を行っている。しかし、より大切なことは患者とのコミュニケーションであり、ほんの少しの配慮であると考えた。

今回、歯科治療恐怖症患者の１症例をとおして、歯科衛生士が果たすべき役割と今後の課題を検証したので報告する。

15

認知症、精神疾患、経済的困窮が混在するケースに対する、多角的な支援体制についての考察。

洛和会医療介護サービスセンター三条会店
○積田和典・樋口千裕・井上千代・平野桂子・梶田知佳子

【キーワード】経済的困窮、生活保護、障害者施策、多職種連携、ケアマネジャーの役割

うつ病と認知症を抱える利用者が、金銭管理が出来ず、生活費の捻出が行き詰まっていた。知的障害者の娘との関係もあり、生活が破綻しかけていたが、様々な支援者の介入により、少しずつ生活の見通しが持てるようになったケースについて考察する。

生活困窮に対して、日常生活自立支援事業の取り付け、障害者施策の就労継続支援の利用、当面の食事確保、医療、介護保険サービスによる健康管理と生活の支援を計画し、それぞれの支援者をつなぐ調整を行った。

カードローンや障害者支援事業所からの借り入れ、公共料金の未払い等、課題は山積しているが、医療、介護サービスによる健康管理を行いながら、僅かずつ状況を改善できる体制が整いつつある。

このような複雑な要因が混在するケースでは、ケアマネジャーは、介護保険サービスだけにとどまらず、幅広い保健福祉その他の資源を知り、活用し、それらが連携して、効果的に支援が展開されるように調整する役目が求められると考える。

16

見守りカメラを活用した支援とマネジメントについて

居宅介護支援事業所宇治琵琶
○飯尾由矩・大畑実・神元清子

【キーワード】高齢化社会、家族支援、見守りカメラ、介護支援の視える化

高齢化が進む中、居住環境においては独居や高齢者世帯人口が増加している。就労時や離れて暮らす家族の心配を解消する目的で見守りカメラを導入するケースや相談も増えてきている。安否確認として活用する一方、サービス支援のチェックや監視のために使用されるケースもみられる。ケアマネジャーとして見守りカメラを活用する上での課題を明らかにし、今後の支援やマネジメントに活かしていくことを目的とした。

① 洛和会居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象に見守りカメラの利用実態や問題点などアンケートから情報を収集。
② 実際身近に起きている見守りカメラにかかる情報を収集。
③ ①②から得られた結果から考察を行った。

17

認知症独居A氏が安心して生活できる環境づくり
～ケアマネとの関わりを通して学んだ事～

洛和ヘルパーステーション坂本

○図師友紀子・岡田美鈴

【キーワード】ケアマネとの連携、改善、認知症ケア、独居

A氏は幻覚や被害妄想から「お金を盗られた、知らない人が入ってきた」と警察を呼んだり、ヘルパーの交代で混乱が増え安定しない日々が続き、訪問しても不在や鍵を開いていない頻度も増えてきた。

ケアマネに緊急用にキーボックスの設置、医師との連携の必要性を報告。キーパーソンである甥への働きかけを依頼したが、状況は好転しなかった。サ責としてはA氏への声掛けの統一や、少人数での関わりに努めた。

担当ケアマネの退職に伴い、内部ケアマネへ変更となった結果、これまでの経緯と工夫を伝えたところ次々と問題が解決していった。

前ケアマネに対して情報を提供、働きかけがもっとできたのではないかと考える。どんなアプローチの仕方が良かったのかを検討した。また、ケアマネだけではなく、周りの関連している他事業所との連携も踏まえ、利用者様の生活改善につなげていきたい。

18

機能訓練特化型デイサービスにおける認知症に対する関心度への影響
～認知症予防活動（コグニサイズ）を通して～

洛和デイセンターリハビリテーション音羽

○足立絵里子・赤井啓一・滝川太康・池野弥加子・義積一生
谷口治正・津根鹿岳伸・宮本健太・加藤里未奈・川嶋緩奈
人見由江・三戸弥生・清水多恵美

【キーワード】認知症、コグニサイズ、新オレンジプラン、認知症予防活動

短時間型機能訓練特化の事業所としてサービス提供している。その中で、ご利用者から機能面だけでなく認知面への不安の声を多く頂いた。

また、新オレンジプランでは認知症の人が2012年の462万人から、2025年には約700万人に達すると予想されている。令和3年度版の高齢社会白書において介護が必要となった主な原因では、認知症が最も多い結果を踏まえて、昨年の7月より認知症予防の一つとしてコグニサイズを開始した。

利用者に対し10ヶ月間コグニサイズを実施。その前後にアンケート調査を行い、認知能力や認知症に対してどの程度理解や関心を深めることが出来たのかを調査した。

改めて健康に自宅での生活を続けるためには、機能面だけでなく認知面でのアプローチも同じくらい重要であることについて発表する。

19

せん妄患者に対し日中活動性を向上させる多職種での取り組み

洛和会丸太町病院　リハビリテーション部

○吾妻里紗・尾形恵・石束友輝・河本由美

【キーワード】せん妄、作業活動、多職種協働

今回、入院当初から妄想や不穏を伴う過活動型せん妄を生じた症例に対し、多職種で日中の活動性向上へ取り組むことでせん妄の改善を認めたため報告する。

リハビリ介入頻度を増やし生活リズムの構築を図った。さらに日中の離床時間を設け、塗り絵や歌唱の提供、病棟看護師に排泄誘導や病棟内歩行を依頼した。

入院当日ICDSC8点とせん妄状態であり、投薬や抑制が必要であった。第7病日には休薬し抑制解除となった。退院時にはICDSC3点となり、日中穏やかに塗り絵や歌唱を楽しむ様子を認めた。

せん妄の発生頻度や期間の減少において、早期の積極的離床や四肢体幹運動、視覚や聴覚への介入が推奨されている。多職種で日常生活を取り戻すような取り組みがせん妄軽減に繋がったと推察する。

20

再アセスメントからBPSDの軽減に努め「安心した」生活へ

洛和グループホーム石山寺

○三好博之・高橋麻里子・藤井哲・豊永香・珠久博文
松本明美・辻光子・福家絹子・西川美穂

【キーワード】認知症

90歳代女性。認知症の進行に伴い見当識障害、不眠が見られるようになった。昼夜問わず、徘徊や放尿が目立ち、職員が近づくとびっくりしふらつきや転倒することも見受けられた。

センター方式から排泄状況や、本人の行動の把握など再アセスメントを実施。

眠前薬についても医療職と連携し調整した。また適宜カンファレンスを実施、情報の共有に努めた。

本人の発言から「お便所」と言っていることに気づき、トイレ表示を「お便所」に変更すると場所の認識が出来た。そのキーワードから結果、夜間の安眠に繋がり徘徊や転倒リスクが軽減できた。

センター方式を活用し問題点を抽出することで職員間での共通認識が深まり統一したケアにつなげることができた。利用者にとって安心できる環境という点においても多面的にとらえることが必要であると再認識できた。

21

コロナ禍における急性期病棟において、薬剤を使用しない夜間せん妄対応に対する一考察

洛和会丸太町病院　看護部　4病棟

○松岡裕子・太田宏美・大野文・本城由紀子・井川桃花
表田実那・服部さと・河岸実唯菜・今川明江・河本由美

【キーワード】急性期病棟、コロナ禍、夜間せん妄、薬剤不使用

認知症患者は環境の変化に対応できず、夜間を中心にせん妄状態に陥る事が多い。急性期病棟では、急変の対応とせん妄患者の対応を同時進行する現状があり対応に苦慮する事が多い。現在、コロナ禍による制限が多く、刺激不足により症状の増悪を助長させていると考える。そこで、この1事例について様々な介入を行い、その前後での対象の睡眠状態、日中の過ごし方、症状の経過から、コロナ禍での急性期病棟における薬剤を使用しない、夜間せん妄の対応について検討した。

方法：事例介入

入院時間の短さと易怒性が強く十分な介入は行えなかったが、早期介入によりせん妄症状を改善するための方法は導き出すことはできた。

面会や写真の活用などの刺激、特に家人とのつながりは非常に有効であると考える。

22

胃透視の腹臥位頭低位撮影における圧迫用クッションの形状及び材質の検討

洛和会音羽病院　放射線部

○大隈智美・木月麻綾・植田遼・菊元力也

【キーワード】胃透視バリウム検査、腹臥位頭低位

胃透視バリウム検査において腹臥位頭低位撮影時は腹部と寝台の間に腹部圧迫用

クッションを挟み撮影する事が推奨されており、体格に応じて使用するクッションの厚みを変更するとより良いとされている。そこで体格に応じた形状及び撮影に適した材質のクッションの作成を行う。

材質：CT 装置を用いてクッションの撮影を行い、得られた CT 値を参考に材質を検討する。

形状：MRI 装置を用いて、実際に腹臥位で面積や厚みを変化させたクッションを腹部に挟み撮影を行い、胃とクッションの関係性を評価する。

CT や MRI の画像を参考にして実際の使用に耐えうるクッションを複数作成することが出来た。

診断の妨げにならない材質のクッションを作成し、形状に関しても複数作成する事で胃の形状、体格に合わせた選択ができるようになり、検査の質が向上したと考える。

23

腹部座位ポータブル撮影における補助具の検討

洛和会音羽病院　放射線部

○中嶋紗希・山口瑞木・岡本織人・菊元力也

【キーワード】腹部座位撮影の体位改善、ポータブル撮影、補助具

当院ではポータブル腹部座位撮影時にお尻の下に敷く補助具を使用している。しかし、現在使用している補助具ではポジショニング時に座っている位置が滑ってずれてしまい、自身で体位保持することが難しい患者さんの撮影は困難であった。そこで、腹部坐位撮影のポジショニングの質を向上させるため、補助具の改良を行った。

患者さんの体が補助具からずれずに坐位を保持させるために、発泡スチロールを用い、お尻がはまる「くぼみ」が出来るように補助具を作成した。

今回作成した補助具の形状により、患者さんの体勢を坐位で保持することが容易になったため、ポータブル腹部座位撮影時のポジショニングの質が向上した。

滑りにくい補助具を作成できたことで、体位の再現性が良くなり画質の向上につながったと考える。

24

プライマリーサーベイ評価ツールを使用した救急部門での重症度・緊急度判定における効果

洛和会丸太町病院　看護部　救急・HCU

○富永優輝・西山裕子・竹村恭平・細田彩花・塚野愛・福田文子

A 部署では、救急患者に対してプライマリーサーベイとバイタルサインを評価し、日本緊急度判定システムを用いて患者の重症度および緊急度の判定を行っている。しかし、プライマリーサーベイは、担当した看護師の経験値に左右され、経験年数に関わらず統一した患者評価を行うための可視化された指標がない。本研究は、新たにプライマリーサーベイ評価ツールを作成・使用し、救急部門での重症度・緊急度判定における効果を明らかにすることを目的とした。プライマリーサーベイ評価ツールを用いて看護師が行なった救急患者 154 症例の評価と医師の診察結果との比較、治療・ケア内容から評価ツールの重症度・緊急度判定における効果を分析した。

25

普通救命講習を通じて

洛和会音羽病院　救命救急室
○林直弥・田野克海・中川功基
本部危機管理部
山田俊哉・古川徹

【キーワード】救命、救護

今までは、本部危機管理部が主体として洛和会職員対象の普通救命講習を実施していたが今年度より、救急救命士が洛和会職員へ普通救命講習の指導を実施している。

救急救命士が主体となって、救命講習のテキストや、パワーポイントを活用して救命講習の指導を行っている。

介護事業や保育事業など、幅広い分野の職員と〈顔の見える関係〉を作ることが出来た。

これからも洛和会職員対象の普通救命講習を実施し、その他、一般市民等にも普及活動を行うことで、地域に根差した病院づくりをしていきたい。

26

外来患者支援に関する考察

洛和会丸太町病院　医療介護サービスセンター　入退院支援相談室
○宮下怜子・中野匡徳・髙野結子・奥島栞・徳永結月花

【キーワード】院内連携、外来患者、社会的支援

当部署では各病棟に担当相談員を配置し入院患者への支援を行うだけでなく、外来患者に対しても支援を行っている。外来支援件数は近年増加しているため、令和４年上期は「外来患者に対する介入を月９件実施する」という明確な目標をセグメントとして掲げ、入院外来問わず患者・家族へ必要な支援が出来るよう意識している。

令和３年４月から令和４年６月は累計132件の外来介入実績があり、うち67件は外来スタッフからの声掛けが起点となっている。内訳は、医師36件、看護師21件、ドクターエイド７件、クラーク３件であり、診察している医師からの声掛けが多いことは勿論、看護師や事務員からも多くの依頼がきていると判明。

外来の要支援ケースへ介入するには外来スタッフと相談員間で相互理解を深め連携を強化していくことが重要であるため、今回は外来看護師と外来担当クラークへ相談員との連携に関して意見を聴取し、課題と改善点を考察する。

27

手術中の待機家族への術中訪問における満足度調査

洛和会丸太町病院　看護部　手術センター
○加藤朋一・麻田皐月・橋本志織・菱田和之・武内未来子

【キーワード】術中訪問、待機家族、満足度調査、周術期看護

新型コロナの影響で家族の面会を制限しており、手術患者家族の不安軽減のために術中訪問を導入した。よりよい術中訪問の実施に向けて、家族への満足度調査を行った。

術前看護師外来を受けた、全身麻酔手術患者の手術中待機家族を対象に、満足度調査を実施し、単純集計を行った。

アンケート結果は、不安について「軽減した」93%、術中訪問のタイミングは「ちょうど良かった」70%、手術室退室までのおおよその時間を伝えたことで「安心した」が91%であった。

術中訪問の効果は概ね良好であったが、「詳しい手術の経過」や「トラブルがなかったか」などの情報を知りたいという意見もあり、今後の課題が明確になった。

28

褥瘡患者の栄養管理の取り組みと課題

洛和会音羽病院　栄養管理室
○橋本菜月・大西かおり・山根宏子・石橋悠・南條弘貴
尾崎佳菜恵・廻神朱里・東浦七帆・久世佳奈・坂口暁子
平山紫帆・馬塲崎仁美・石田のりこ・長谷川由起

【キーワード】褥瘡、栄養管理

〈背景・目的〉管理栄養士は多職種で行われている褥瘡回診に参加しており、褥瘡回診対象患者の栄養状態や喫食量についてリスト作成を担っている。また今年度から褥瘡対策に関する診療計画書に栄養管理に関する情報を盛り込むことが必須となった。従来、褥瘡回診担当管理栄養士がリスト作成を行っているが、回診の情報が栄養管理に活かせていない状況であった。令和４年６月から病棟担当管理栄養士が褥瘡リスト作成に関わり、褥瘡患者により早期から栄養管理に取り組めるように改善を図ったため取り組みと今後の課題を報告する。
〈方法〉リスト作成方法の変更前後の作成時間や褥瘡患者への栄養管理状況を確認した。
〈結果〉褥瘡担当管理栄養士はリスト作成時間の短縮が可能となった。病棟担当管理栄養士がリストを作成することにより、病棟褥瘡患者を把握し栄養管理に取り組めるようになった。
〈考察〉病棟管理栄養士がリスト作成に関わること、入院時に褥瘡の有無を確認することにより、早期に褥瘡患者の栄養管理に取り組める体制となった。今後は褥瘡の状態に応じた栄養管理が必要であると思われる。

29

シャントPTAにおけるDCB（Drug-Coated Balloon）の有用性について

洛和会丸太町病院　CE部

○倉本泰志・麻生葉子・十亀夏実

【キーワード】透析、シャントPTA、DCB（Drug-Coated Balloon）

シャント狭窄に対して、従来のバルーンのみでの治療と再狭窄抑制を行う薬剤溶出型バルーン（DCB）での治療を比較し、DCBの有効性を検討したので報告をする。

DCB導入以前にシャントPTAの既往があり、かつDCB保険適応後にDCB治療を行った患者35名を対象とした。DCB使用前にシャントPTAを施行した日数を平均化したものをA群、DCB使用後の再シャントPTAを施行するまで日数と予後良好である日数（2022/09/09まで）の2群を平均化したものをB群とした上で、T検定を用いて有意差を求めた。

A群の平均日数が131.7日でB群の平均日数が210.4日であった。（P<0.01）

今回の統計では当院における再狭窄を繰り返す患者さんに対してのDCB治療において、再狭窄までの期間を延長することに有効的であることが証明された。

30

透析患者のロキサデュスタット錠への薬剤師のタスク・シフト / シェアに関する有用性の評価

洛和会東寺南病院　薬剤部

○大森清孝

【キーワード】タスク・シフト / シェア

ロキサデュスタット錠の投与量調整はHb値と投与歴の確認が必要で煩雑。今回、当院COVID-19クラスター禍、医師の業務軽減のため実施した薬剤師の処方支援業務を評価。

支援業務はHb値と投与歴から添付文書上の投与量調整の有無をカルテ記載、必要時処方提案。調査は薬剤師介入内容、処方歴、検査値。薬剤師介入前後の添付文書上の投与量調整の有無をχ^2検定で比較。

19名対象。薬剤師の処方提案5件、内増量4件が処方へ反映。介入前後の投与量調整の有無に有意差はなかった。

薬剤師の処方支援業務は医師の添付文書上の投与量調整の有無の確認業務を軽減。又、投与量調整が必要な症例に介入し薬物療法に寄与する。

31

ノブリードによる止血効果

洛和会音羽記念病院　CE部

○新谷七星・北川流加・古久保政徳・高橋良知

【キーワード】ノブリード、止血困難

2021年3月にニプロ社より発売した救急絆創膏ノブリードは、カチオン化セルロースが原料として使われており、通常のガーゼ圧迫止血より止血時間短縮の効果が期待できるため、実際に当院でも使用し、その効果を検証することとなった。

止血困難患者10人のガーゼ圧迫止血法の止血時間･皮膚トラブルの有無を5回測定後、ノブリードを使用して止血時間・皮膚トラブルの有無を5回測定する。

ガーゼ圧迫：平均33分、ノブリード：平均14分となった。

通常の止血に使用するには有用であり、止血困難症例に関しては止血時間の短縮が見られたが、止血確認の際に血餅を一緒に剝がし、再出血する事例が一定数発生したため取り扱いには注意が必要であった。また、物品の接着面にかなりの粘着性があり、皮膚の弱い患者には不適応であると考えられる。

32

HIF-PH阻害薬の内服効果検討

洛和会音羽記念病院　CE部

○前田淳・古久保政徳・佐伯佳帆子・岡田晃一
野村祥久・覚知泰志・藤野文孝・細川典久

【キーワード】HIF-PH阻害薬

当院ではロキサデュスタット、ダプロデュスタット、エナロデュスタットを使用している。今回、貧血改善効果および副作用について比較検討した。

HIF-PH阻害薬内服患者61名を対象とし、投与24週までの採血項目（Hct、Hb、CRP、TSAT、フェリチン、Tshなど）と副作用（消化器症状、甲状腺ホルモン低下、血栓症）を比較した。

すべてのHIF-PH阻害薬においてHbを低下することなく維持出来ていた。副作用は、

消化器症状：エベレンゾ3名、ダーブロック1名、エナロイ0名

血栓症：エベレンゾ2名、ダーブロック0名、エナロイ0名

甲状腺ホルモン低下：エベレンゾ8名、ダーブロック0名、エナロイ0名であった。

HIF-PH阻害薬は貧血改善に有効であるが、副作用を理解して使用する必要がある。

33

レオカーナの使用経験

洛和会音羽記念病院　CE 部

○土岐彩華・松原邦彦・沖田壮太・吉田樹

【キーワード】CLI、ASO、レオカーナ、創傷治療

令和 3 年 3 月より CLI における潰瘍改善のために新しい吸着型血液浄化器であるレオカーナが保険適応になった。当院では 4 月よりレオカーナを用いた創傷治療を積極的に行っており、当院でのレオカーナを使用した創傷治療の所感を報告する。

下肢潰瘍を有する透析患者 5 例にレオカーナを透析日週 3 回の内の週 2 回、HD 前に実施し、24 回を 1 クールとした。1 回目と 24 回目の施行前後の SPP 検査および、1 回目・12 回目・24 回目施行前後の血液検査を実施した。

数例においてはレオカーナの使用により潰瘍の改善及び症状改善、SPP 値の改善が見られた。また、血液検査の結果においては LDL-C や Fib の減少が見られる症例もあった。

レオカーナ使用により潰瘍の症状・所見の改善が期待できる。しかし、治療過程においては急激な血圧低下や回路凝固も数件起こっており、ヘパリン使用量の調整などを行い観察の強化が必要である。また、レオカーナによる治療が困難な場合は LDL アフェレーシスによる治療に切り替え治療の継続を検討していきたい。

34

持久系アスリートに対する低圧低酸素室トレーニングの効果

丸太町リハビリテーションクリニック　フィットネス部

○中川剛・山中喬司・起塚美典・西山伸吾・大西拓也・神﨑芽実
福嶋秀記・平本真知子・橋本留緒・松井知之・森原徹

【キーワード】トレーニング、特殊環境

持久系スポーツでは酸素の運搬能力を高めるトレーニングが重要である。しかし、高地トレーニングなど低酸素下でのトレーニング効果に関する報告は少ない。今回われわれは、当クリニックの低圧低酸素室を使用し、トレーニングを行ったのでその効果について報告する。

低圧低酸素室を利用したトレーニングを週 2 回、3 週間実施した。運動前・中・後の SpO2、HR を測定した。トレッドミルでは Borg スケール 13 程度で走行できる速度に設定した。

全ての試行において、運動中の SpO2 は概ね 85% であり、HR も変化を認めなかったが、3 試行以降の走行速度が 11km/h から 14km/h へ上昇した。

低酸素環境でのトレーニングを繰り返したことで同一の Borg スケールで走行速度が上昇したことは、低圧低酸素室でのトレーニング効果と考える。

35

高齢者のペット問題
～うちのワンちゃん・ネコちゃんは家族の一員です～

洛和会医療介護サービスセンター音羽病院前店

○正金浩次・伊藤仁史・楠本綾・佐々木眞由美
米田啓子・廣田有里子・樋口誠

【キーワード】高齢者のペット問題

昨今のペットブームにともない、単身者や高齢夫婦でもペットを飼う人が増えている。しかし、その反面、高齢者ならではの問題があるのが現状であり、安易にペットを飼うことが社会問題にもなっている背景がある。

ケアマネ課のケアマネジャーを対象に高齢者のペット問題に関するアンケート（本人やペットに課題を抱えている等）を実施する。

アンケート結果に基づき研究発表を行う。

高齢者にはペットを家族同然に思い、共に生活をすることで生きがいを感じている人も多い実情がある。ケアマネジャーとして利用者の思いに寄り添い、その利用者や家族とどの様な関わりを持つべきなのか、ペットの問題を通じてその人がその人らしく生きる為にケアマネジャーとしてどの様に関わるか、事業所の事例を通じてケアマネジャー自身が抱える葛藤や課題に向き合い支援してきた内容を検証したのでここに報告する。

36

ビューティータッチセラピーを導入したことによる効果

文京大塚みどりの郷

○髙橋志乃

【キーワード】触れるケア

手や顔など肌に直接触れながらスキンケアやメーキャップをする事がセラピーとなり、

高齢になっても「キレイの気持ち」を続ける事で認知症の悪化を遅らせ、老いてもその人らしく生きる事を支援することを目的に導入する。

主に短期入所生活介護利用者に利用中の楽しみとして実施する。

肌と肌の触れ合いによるコミュニケーションから心地よさや不安緩和につながるオキシトシンの分泌を促し化粧も行う事で「心のわくわく」を惹き出す施術を行う。

普段自身で鏡を見る事がない方がまじまじと顔を見て、自身で肌に触れ、モチモチした感触を感じ変化を実感して頂けた。他の利用者様からも「きれいになった」「いいじゃない」と声をかけられ、昔の自分に戻り若返ったような気持ちで喜びを感じ、表情も明るくなる様子が伺えた。また、マンツーマンで対話が出来る事で、穏やかな時間が過ごせることも満足感につながっている。

37

個別機能訓練の取り組みに対する効果と実績について

洛和小規模多機能サービス伏見竹田

○木村智昭・石野和宣・宮脇直子・古川恵子
宇野敦・西村俊亮・藥師川侑子・宇野友浩

【キーワード】個別機能訓練

当事業所では令和２年より「安心して暮らせる在宅生活の確立」と「事業所登録者数の安定化」を目標に個別機能訓練の取り組みを開始し現在まで継続している。

看護師と介護職が協働し、個別プログラムや起立着席運動を実施。毎月、行っている計測会にて筋力の維持向上を示唆するデータが得られ、設定した目標を上回る運動量を実施できるまでに至っている。必要時はSTやPTと連携し個別性を重視した支援を学び実践に活かした。

個別機能訓練を開始した令和２年から現在まで転倒骨折件数、重大事故発生件数共にゼロ件を継続している。また、取り組み内容をブログや渉外チラシに掲載し外部に発信することで、問い合わせ件数が増加し契約にも直結、目標の登録者数達成につながった。

２年間に及ぶ活動内容と実績を報告し今後の展望を考える。

38

食支援を通じた介護事業所との関わりで感じた総合的な支援のあり方

介護事業部　看護部　リハビリテーション課

○小嶋優子・榊原学

【キーワード】食支援、多職種連携、摂食・嚥下障害、リスクマネジメント、QOL、エンパワメント

当会介護事業部では平成30年度から保険診療外で利用者の生活の質向上のために理学療法士・言語聴覚士の介入を開始した。介護事業所から言語聴覚士への相談は食事に関することが大多数である。評価・指導後、多岐に渡る対応手段の多くを介護職等が担う必要があるため、職員のエンパワメントを目的に食支援の研修を実施した。研修を通じた職員支援がいかに利用者支援につながったか、研修参加職員対象のアンケート調査にて検証する。

アンケート結果から、利用者個々の機能を見る視点が深まり、根拠に基づくアセスメント力や対応力が向上していることが分かった。また、個々の力量のみでなく事業所としての質向上につながり、リスクマネジメントや利用者のQOL向上に寄与したと考えられる。

39

個々により異なるGOOD DEATHを支えるケアとは

洛和会音羽病院　看護部　4C病棟

○久保風香

【キーワード】GOOD DEATH、緩和ケア

GOOD DEATHとは終末期医療について重要と考える要素であり、患者にとっての望ましい死という概念である。A氏のGOOD DEATHを考察し、今後関わる患者やその家族が大切にしている「望ましい最期」の領域を知り、ケアに活かす。

A氏は希望していた一時退院から帰院後、自宅での様子を楽しそうに話していたが、徐々に気力が低下していった。そっとしておいて欲しいという発言もあり、静かに生活出来るように環境調整を行い、A氏にとって安楽にケアできるよう工夫した。

A氏にとってのGOOD DEATHとは、家族との時間を過ごすこと、自分で出来ることは自分ですること、そうすることが出来なくなってきた時には静かに穏やかに過ごすことであったのではないかと考える。患者の数だけGOOD DEATHがあることを知りケアを行う。

40

がんの終末期患者の退院支援で必要な看護の視点
～退院後の患者の望む生活を実現するために～

洛和会丸太町病院　看護部　２病棟

○西澤梨那・髙橋映美・衣笠佳恵・塚脇由理
北山琴葉・岡本彩香・三木結・田中さえ子

【キーワード】がん、終末期患者、退院支援

終末期がん患者にとって、在宅移行の選択は人生最期の場所の選択であり、家族にとっては患者の介護を担うことの選択である。癌の告知を受けた時点や余命宣告された時点から、今後の過ごし方について患者の意思を確認し、早期に多職種と連携をとることで、患者自身が望む場所や望む過ごし方で最期をむかえることができるように支援していく必要がある。そのため、がんの終末期患者の退院支援で必要な情報や視点を明らかにすることを研究目的とした。

がん末期患者の退院支援に関わる往診医、訪問看護師、MSWを対象に、半構成的面接法にて、がんの終末期患者の退院支援を行う上で必要な情報や視点についてデータ収集し、内容分析を用いて分析した。

41

コロナ禍における看取り対応について

洛和グループホーム久世
○小野紳一郎・岡崎高広

【キーワード】看取り

感染拡大防止の為、人の交流が制限されている環境の中で、日々感染予防対策を徹底しながら、日々のケアを行っています。その中で、看取り時期になられた利用者さんについて、家族さんが延命治療を希望されず、住み慣れたグループホームで最期を迎えたいとの思いで、看取りが開始となる。

「訪問経路」「防護方法」「家族さんが訪問された時の対応」「緊急時の対応」等、コロナ禍であるがゆえに、事前に決めておく事も多く、他職種と連携を密に図りながら、検討を行っていった。

ご利用者が「その人らしく」最期の時を迎えるために、家族さん・親族さん・他の利用者さんとの関わりを尊重しつつ、他職種・職員がどのように携わったかを発表する。

42

音楽療法がもたらす関係の変化

洛和小規模多機能サービス山科西野
○川戸夢香・小規模西野職員一同

【キーワード】認知症、改善、リラクゼーション

認知症の進行に伴いこだわりが強くなり、価値観の違いを受け入れられず衝突されることが増え、支援が困難になりつつある。ある時、対象者が音楽を聴いて表情がほころんでいる様子を目の当たりにしたことを契機に、音楽で穏やかな感情を引き出すことで周囲への接し方に変化をもたらし、認知症症状の改善、ケアの関わり方に役立てられないかと考えた。

対象者が音楽を聴くことでの感情の変化を観察する。焦点情報シートを用いて、音楽療法の開始前後で認知症の行動に変化が現れるかを検証する。

43

「ありがと」の笑顔が続く様に私たちが出来る事

洛和ヘルパーステーション丸太町
○中村ゆかり・清水千裕

【キーワード】利用者に寄り添う　～チーム連携～

80 代女性、独居。多くの疾患や下肢筋力の低下により自身で出来ることが限られてきた為、ヘルパーの利用開始となった。必要最低限の中で訪問していたが、自宅内での転倒転落が増え全身状態悪化し、訪問看護導入、ヘルパー増回となった。

昼夜逆転に妄想、こだわりや好き嫌いも激しく受け入れも悪くヘルパー交代も多かったが、状態変化に応じて本人の意思を尊重しながら、事業所として課題などの提案しながらヘルパーとして出来ることを実施した。

本人の思いに耳を傾け、寄り添いながら日々人が出入りする事で、ヘルパー受け入れも良好となり、何事に対しても「ありがと」と言われる様になった。

家族、ケアマネジャー、訪問看護、他サービス等と密に情報共有し連携を取りながら、サービス提供責任者として自宅で過ごしたい本人の思いに寄り添った質の高いサービスを提供する事の大切さを考察する。

44

デイサービスで旅行気分を

洛和デイセンター百万遍
○小窪英津子・中島英貴・松本佐久良・三田地一弘
尾形愛華・堀泰子・竹田裕子・須田美知子
大道久美子・岡森直美・山口香澄・岩田希己子

【キーワード】行事活動

コロナ禍により、デイサービスなどの介護保険サービス以外で自宅から外に出ることが減ったとの声を利用者から聴き、「デイサービスを利用して日本をめぐる」をコンセプトとし、デイサービスで旅行気分を味わってもらいたいと考えた。

普段の行事で提供しているものとは違い、各地方で有名は郷土料理やその地方の温泉に見立て、フロアや脱衣所に雰囲気がでるようポップなどで飾りつけをし、毎月実施。実施後にはアンケートを行った。

独居の利用者も多く、行事当日に利用した方からは「コロナになってから外出ができなくなったし、デイに来たらいろんなところの食事や温泉が味わえるしうれしい」と評価も良く喜んでもらえたが、入浴をしない利用者は食事だけになり、反応はよくなかったとアンケート結果からわかった。

コロナ禍でも旅行や外出がしたいという利用者の想いに寄り添えたと考えられる。入浴のない利用者でも他府県への旅行気分が味わえるような、雰囲気作りが必要であると考えられる。

45

眠りスキャンを活用した夜間の休憩時間の確保

洛和グループホーム醍醐春日野

○鎌田美登里・桝本麻衣子・和田康子・香川光造・大野椿
鈴木優子・藤井幹子・高岸由美子・浦辻史恵・野村久美子
秋庭美佐子・辻元麻路・谷田麻也子・山本舞・松井昌美

【キーワード】休憩促進

夜勤帯勤務者は各ユニット1人体制のため、まとまった休憩がとれていない現状がある。眠りスキャンが導入されたことを契機に、体制を整えることで夜勤帯の休憩時間の確保を目指した。

〈方法〉

課題を分析し①休憩場所を確保すること②利用者情報を可視化すること③眠りスキャンを読み解く力を身につけデータ分析・検討を行い、休憩の確保に繋げる。

職員満足の向上や業務の効率化に繋がった。また、各ユニットの利用者と普段から関わりをもつようにしたことや、眠りスキャンを使って普段の睡眠リズム等を把握できたことから、ユニットごとの夜勤者同士で連携協力し、まとまった休憩時間を確保することができた。普段のケアに活かせるヒントをみつけることができた。

その結果からみえてきた課題と展望を考察し、今後普段のケアに活かせるヒントを見つけていく。

46

「私は、いつ家に帰れるのかしら」
～狷介な利用者へのアプローチ～

洛和ヴィラサラサ

○天満俊作・溝田大和・森山僚香・戸田竜二・栗橋文
渡邉晃子・有坂典子・長谷川瑛子

【キーワード】在宅復帰

80歳代の独居で、認知症自立度Ⅰ、障害自立度A2の女性。急性硬膜下血腫で急性期病院へ入院。1か月ほどの入院で、病院食の拒否や入院生活のストレスから食思が落ち、体力やADLの低下がみられ療養型病院への転院が検討された。生活の場である老健に入所された本氏が、在宅復帰できるようになった経緯を考察した。

狷介な氏と都度相談しながら在宅生活の練習を実施し、強い食事の拘りに合わせた食事を提供した。

その結果、療養型病院を検討された氏が、入所から約5か月で在宅復帰し、独居生活を送っている。

拘りが強く、嫌なものは断固拒否される利用者が、ユニットケアという場で本人の強い意向に生活をどれだけ近づけていけるかを柔軟に考え、サポートしていった。その結果、意欲やADLが向上し、在宅に戻ることができた。ユニットケアならではの老健として、本人の強い意向にサポートしていくことの大切さを、今後に生かしていきたい。

47

音楽療法で大切にしていること
～リモート音楽療法での経験をもとに～

洛和会京都音楽療法研究センター

○佐藤佑香・和田義孝・柴田恵美・安達紗代
堀内美里・北脇歩・井上明香・矢野ひとみ

【キーワード】音楽療法、リモート音楽療法、介護現場、高齢者、高齢者施設

2020年より猛威を振るった新型コロナウイルスにより、医療や介護現場でもさまざまな影響を受けた。人との関わり、やりとりが重要視される音楽療法も、全ての福祉・介護現場で休止を余儀なくされた。

当法人内でも多くの施設において、家族面会や外出に制限がある生活が長期間に渡り続き、入居者や利用者はストレスや不安を感じていた。この問題に対して「なにかできることはないか」と施設から相談があり、リモートでの音楽療法の実施が検討され、実施している。

その様子とそこから見えた課題について報告し、改めて音楽療法で大切にしていることを提示したい。

48

コロナウイルス感染症隔離期間における
ご利用者に対するケアと職員の意識向上

洛和グループホーム勧修Ⅱ番館

○吉井智恵子・小飯塚直子・小林佳子・片山瑞月
石塚彰吾・森口うめ子・松田加奈子・魚津さゆり

【キーワード】コロナウイルス感染症隔離体制、関わり、コミュニケーション

職員のコロナウイルス感染により突然始まった隔離体制。最初は対応指示を守るだけで精一杯であったが、唯一感染されたA氏の「もう（職員が来るのは）食事ばっかりや」という言葉を聞き、隔離されているA氏へのケアを職員全体で考えるようになった。

隔離中は「感染を拡げない」と言う事が徹底され、感染されたA氏は居室の中に居なくてはならず、職員も防護服などの関係で必要最低限以外は訪室しない状況であり、訪室の機会である食事時等を基本に、「顔を見せる」という事を大切にコミュニケーションを行なった。

職員同士で一体感が生まれ、問題点も話しやすくなり、利用者とのコミュニケーションの機会の少なさに気付き、早急に話し合うことができ、利用者は笑顔で全員解除日を迎えることが出来た。

感染対策の中でも利用者を中心としたケアを各職員が同じ方向を向いて取り組むことが大切であるということを実感した。

49

急性期医療から訪問リハビリテーションへの連携促進活動について

洛和会丸太町病院　リハビリテーション部

○関彩花・木村孟浩・富田直希・髙井弘誠・中田真菜美・尾形恵

【キーワード】急性期病院、訪問リハビリ、連携

当訪問リハビリテーション（以下訪問リハビリ）部門は急性期医療を主体とする洛和会丸太町病院を事業所としている。2018 年度まで院内からの新規相談・新規利用者が少なく、医療と訪問リハビリ間の連携が不十分であった。2019 年度より院内からの新規相談・新規利用者増加に向けての活動を行い、今年度飛躍的に向上したため報告する。

リハビリ部内での訪問リハビリについての勉強会実施や毎月の新規相談・新規利用者の進捗状況の共有、相談員との連携強化等を行った。

院内からの新規相談は月平均 2018 年度 3.4 人に対し、2022 年 6 月時点は 24.3 人に増加。新規利用者も月平均 2018 年度 2.3 人に対し、2022 年度 6 月時点は月平均 6.6 人に増加。

連携促進活動が新規相談・新規利用者増加に寄与したと考える。

50

保険調剤薬局との事前合意プロトコルの取り組みからみえること

洛和会音羽病院　薬剤部

○小森眞紗代・伴具也・尾濵直子・三浦誠

【キーワード】事前合意、地域連携、保険調剤薬局、残薬

外来患者の残薬状況の実態を把握するため、保険薬局からの情報提供書の内容について精査した。

院外処方に関する事前合意プロトコルに基づき、情報提供内容を調査（2021 年度）し、2019 年度と比較した。

残薬調整件数は、254 件から 483 件と約 2 倍。診療科別では、心臓内科が最多で 100 件を超えた。また、薬効別では降圧薬、高脂血症薬などが多く、抗凝固薬、抗てんかん薬、糖尿病薬などのハイリスク薬も散見された。また、2 回以上残薬調整を受けた患者が 20% 以上あり、最高は 6 回であった。

残薬調整されてもアドヒアランス改善までは言及できていない可能性があり、保険薬局と医療機関で残薬理由を共有し、アドヒアランス向上に向けて、医師－薬剤師で協働していきたい。

51

呼吸ケアサポートチームの発足と実績
～リハビリの視点から～

洛和会音羽病院　リハビリテーション部　○山﨑岳志・太田恭子・吉川晋矢
洛和会音羽病院　看護部　2B　浅井磨智子
洛和会音羽病院　看護部　ICU/CCU　山口剛史
洛和会音羽病院　看護部　救命救急センター・京都 ER　西北浩敏
洛和会音羽病院　看護部　入退院支援センター　勝本孝子
洛和会音羽病院　CE 部　石岡佳記・岡本悠史
洛和会音羽病院　京都口腔センター　村田恵美・西原千香・白子美和
洛和会音羽病院　管理課　中村泰一
洛和会音羽病院　呼吸器内科　土谷美知子

【キーワード】呼吸ケアサポートチーム、他職種連携、リハビリ

今年 4 月より呼吸ケアサポートチーム（RST）を発足し、一般病棟での人工呼吸器管理患者さんのサポートを開始した。今回、活動報告と RST 介入が機能改善・退院支援の一助となった症例を報告する。

7 月時点で、15 名の患者さんに延べ 38 回介入した。その中で、脳腫瘤患者さんに本研究の参加同意を得た。初回介入時は、人工呼吸器下でベッドサイドでのリハビリを行っていた。主治医と RST で検討し、日中人工呼吸器離脱時間を設けることとなり、徐々に身体・嚥下機能の改善や活動範囲の拡大が可能となった。

RST は各専門性を活かした他職種連携が、病棟やリハビリでの課題をサポートすることが可能である。本症例も、笑顔で退院されていったことがその成果を物語っている。

52

訪問看護利用者への生活行為向上マネジメント（MTDLP）を活用した事例検討
～他職種との連携、協業の視点から～

洛和会訪問看護ステーション天王山

○村山雄亮

【キーワード】訪問看護利用者、生活行為向上マネジメント（MTDLP）、他職種、介護支援専門員、協業、連携

利用者本人が「やりたい、する必要がある」と思っている生活行為に焦点を当てた生活行為向上マネジメント（MTDLP）を活用した訪問リハビリを行った事例を、他職種との連携、協業の視点から考察した。

訪問リハビリ利用者 3 名を対象に、MTDLP を活用し、対象の満足度、実行度、身体および精神機能面の変化や思い、他職種の発言から介入による質的変化を検討した。

3 事例ともに満足度は向上したが、実行度の向上は伸び悩んだ。実行度を向上させる（継続する）には、ケアプランへの反映が不可欠である。MTDLP を活用した事例を増やし、担当者会議で MTDLP を用いた介入、評価を提示することで、ケアプランにつながり、他職種との連携・協業がスムーズになると考える。

53

グループホームとの医療連携の改善

洛和会訪問看護ステーション西京桂

○木全千子・宮田エミ・佐藤由美子・岡本千絵・渡邉美希

【キーワード】改善、可視化、連携

当会は医療連携でグループホームへ１週間に１回訪問看護師が訪問している。訪問時に処置や状態についての申し送りを行っているが、次回の訪問で連携・改善されていないことが多い。申し送りとは情報を共有しケアを円滑に行う事である。申し送りの内容を可視化することにより、改善に取り組んだ。

申し送りの用紙を作成し、グループホーム職員に看護師との申し送り時に記載してもらう。１ヶ月分を１枚にし、職員の目につくところに貼ってもらい処置・ケア・連携の確認をグループホーム職員にしてもらう。

用紙を使うことにより職員の意識の変化があり、申し送っていたことが次回の訪問時には解決できており、報告がくるようになった。グループホームの職員一人一人に説明をしなくても継続できるようになった。

可視化することの利点として、現状を把握しやすくすることで作業効率を上げることがあげられる。継続した処置が必要である場合、いかに伝えられるかが焦点になってくる。取り組みを繰り返しふりかえることが重要である。

54

協同プランの必要性について

～看護とリハビリテーションの連携によりADL・QOL改善に繋がった２例～

洛和会訪問看護ステーション東大路

○木谷圭佑・伏田裕理

【キーワード】協同プラン、訪問看護利用者、リハビリテーション、他職種、協業、連携

藤田ら[1]は、「利用者の意欲に働きかけながら、効果的な訪問看護サービスを提供するためには、看護職員と理学療法士等がそれぞれの視点を持ちながら連携することによる包括的なアセスメントが重要」と述べている。

当事業所は、４年前、最初に理学療法士が配属されたステーションで、2022年６月の協同プラン率は約73％と高値となっている。看護師と療法士との協同を大切にしている。

今回、訪問リハビリテーションの利用者２名を対象に、協同プランにて介入を行う事で、利用者のADL・QOL維持・向上に繋がった為、ここで報告する。

訪問リハビリテーション利用者２名を対象に、協同プランの介入で、利用者のADL・QOL維持・向上に繋がった事例を検討する。

協同プランで介入する事で、同事業所内で情報共有し連携する事で利用者の緊急事態やADL・QOL向上に繋げる事ができた。

協同プランで介入する事は、利用者の緊急事態の対応やADL・QOL向上に繋がると考えられる。

55

児童館と地域連携

～地域に根づき、住民に愛される児童館活動の充実を目指して～

京都市大塚児童館

○清水亘・岩本隆・中山佳菜・小竹肇子・今井翔太

【キーワード】夢、誇り、信頼、持続可能、安心・安全、包み込む、協働

児童館の役割・目的の一つとして、子育て支援への環境づくりの促進や、地域の方々が共に助け合える環境づくりへの貢献が挙げられる。

大塚児童館は、大塚小学校の敷地内に立地しており、児童館前にある大塚茶園も小学校から借用していた土地だが、これまで上手く運用・活用する事が出来ずに、荒れ地のまま放置された環境であった。そこで、小学校と昔から交流のある東総合支援学校の実習生や地域の農家の方々等のお力添えをいただきながら、大塚のシンボライズ的な憩いとなる場所の設置を目指して、再利用に取り組んできた。

関係者を交えた「お披露目式」も無事終了し、現在、児童・地域関係者・学校関係者を包み込んだ本格的運営に着手できている。

今回の土地の活性化活動を通して、地域連携の在り方や地域の方々との輪を広げていく児童館活動の重要性について、再認識できたので、ここに報告したい。

56

リハビリ職との連携を通して得たもの

～ケアの向上を目指して～

洛和グループホーム伏見竹田

○小宅章・大村信行・田村恭子・吉田文和・山田のり子
伊藤美智子・本多真希・山本美佐緒・乃村かおる・鈴木美保

【キーワード】他職種との連携

当グループホームでは高齢の方が多く、少しずつADLの低下が見られていた。その中で、リハビリ職と連携を図り、介助方法や食事形態などのアドバイスを頂くことでケアの向上、介助や業務負担の削減に繋がるのではないかと考えた。

リハビリ職に相談し、介助方法や食事形態だけではなく、外的要因についてもアドバイスを頂き、実践する。

アドバイスを頂いたことを取り組み、摂取量の増加や介助の負担軽減、業務時間の削減に繋がった。

介護者だけで判断せず、他職種に相談することで専門的な視点からアドバイスを頂くことができた。気軽に相談ができる環境を作ることによって、少しの変化や疑問に思うことに対応することで利用者さまが安心、安全に過ごすことができると思われる。

57

入退院支援における外来・病棟看護師間の情報共有に関する現状と課題

洛和会丸太町病院　看護部　外来

○中野遙・松下愛子・梶理紗・小林啓子
桑原加那子・吉良真知子・森田友香里・二町恭子

【キーワード】入退院支援

2018年の診療報酬改定、入院時支援加算の新設に伴い、入院前看護師外来を開設した。外来看護師、クラーク、ドクターエイドが協働して患者選択を行い、医療ソーシャルワーカーの多職種で、患者・家族の入院前の生活に合わせた支援を行えるよう努めている。

入院前看護師外来開設後4年経過しても、退院支援に役立っていると実感なく「外来看護師として入院前に十分な支援ができているのか」「入院前に得た情報が入院後に活用できているのか」等の不安や疑問が生じた。

そこで、外来看護師、病棟看護師を対象として、入院前看護師外来に関するアンケートを実施したところ、入退院支援に関する知識不足と外来－病棟看護師間の連携不足が明らかとなった。

58

「地域に根付いたグループホームになる為に」
～見守り隊参加を復活させよう～

洛和グループホーム花園

○北橋真・川嶋真理子・三好由紀子・小原多寿子・狩野太洋
岡田渉・宇佐美裕大・田中和美・谷口愛美

【キーワード】地域交流

以前、地域連携・交流の一環で近隣小学生の通学時にご利用者と職員とで地域見守り隊に参加していた。コロナ影響もあり、見守り隊自体から一時撤退する運びになった。そんなコロナ禍ではあるが大学生との産学連携などを通して、若い世代ともタッグを組み、地域全体で認知症高齢者を支えていくために、そして地域貢献・連携に繋がる取り組みとして、再び活動を復活させて地域との交流を図り、地域への認知症の理解を深めるきっかけにもつなげたり、ご利用者の日々に新たなやりがいやいきがいとなるようなきっかけとしたい。

地域関係者、近隣小学校にも事前に相談の上、見守り隊に再参加依頼を行う。地域の方からもぜひとのお声をいただき、具体的にどのような見守り方、連携を行っていくのかを含めて、地域関係者と打合せ、顔なじみとなり、今後の連携を話し合い、9月からの再開に向けて準備を始める。

59

職員満足度調査から、職員食堂のメニューを増加したTQM活動

洛和会丸太町病院　TQM委員会

○瓦林孝樹・石束友輝・北風麻衣・平川香織・榊容子・明石理之

【キーワード】TQM活動、職員満足度調査、職員食堂のメニュー

丸太町病院のTQM活動として、職員の満足度向上を目的とし、職員の満足度調査を実施した。職員の満足度を向上する要因として食堂のメニュー増加が挙げられたため、その活動を推進した成果を報告する。

丸太町病院の職員に対し、満足度調査を実施した。また満足度を高める要因である食堂のメニュー増加について職員の投票によって決定した。

投票で人気のメニューから導入し、月別でメニューを変更した。また丸太町病院の日清医療食品が特別メニューを独自に提供するサービスが開始された。

職員の満足度調査から、職員の満足度を高める要因を明らかすることができた。また調査や投票を通じて職員個々の意見を反映する機会が得られ、職員の満足度を向上する一助となった。

60

朝礼方法の改善
～本当に朝礼って必要ですか？～

洛和会音羽記念病院　TQM委員会

○垣谷圭祐・林綾子・笹川隆雄・吉田久美子・阿南謙汰
民谷真理・植優衣・中川渉・森藤百華

【キーワード】TQM活動、時間外、連絡

朝礼にはメリットもデメリットもある。今回、朝礼の実態調査を行い朝礼が本当に必要なのかを精査し朝礼廃止を目的とした。

朝礼が長年続いている部署へ朝礼を無くすための切っ掛け、連絡方法の変更、就業規則に基づく職場風土の変化の3つを方法として取り組みを行った。

就業前朝礼を廃止し連絡方法は回覧板やメールを使うことで一本化した。また、就業前朝礼は時間外として計上されにくい部分であるが職員の時間外削減にもなった。

朝礼廃止後調査では朝礼を廃止して良かったの声が圧倒的であった。しかし、朝礼廃止が部署内のコミュニケーション不足にも影響する部分があり文字だけでは伝わらない、感情を入れた伝達事項も重要であることがわかった。

61

トイレどこですか？
～案内表示がわかりづらい～

洛和会音羽リハビリテーション病院　TQM 委員会
○田村知之・村井ユミ・大口裕樹・森下悠貴
志賀みやび・西川桃恵・間嶋希依・清水元幸

【キーワード】TQM 活動

リハビリテーション病院の放射線受付に「トイレどこですか?」と尋ねてくる患者さんがいる。すぐ斜め前にトイレがあるにもかかわらずである。これは偏に案内表示が見にくいことが原因であると思い、院内１階の案内表示を見直した。

その結果、患者のみならずスタッフもトイレ表示だけでなく他の部屋名などの案内表示のわかりづらさに不便さを感じていることがわかった。

TQM 活動の一環として、患者の不便さ解消とスタッフがより簡便に患者案内が出来るようにするために、他職種のスタッフと共働して、わかりやすい部屋表示板を設置する。

62

残業時間削減の取り組み
～モチベーション向上を目指して～（5 病院管理課会議より）

管理課モチベーション up 会議
○川崎学・増本隆弘・鷲見晴永・加藤忠・金野栄一・河原亜弥

【キーワード】TQM 活動

従来、管理課の残業は多く、モチベーション及び生産性の低下要因であり、改善すべくレセプト残業削減は大きな課題であった。

【外来】【入院】【在宅】の部門に分けられる。各部門での業務運用の精査・見直しを実施し改善を実施した。

成果が出た事により課内にて自発的な次のアイデアが生まれており【改善を意識つける】要因となり課員のプラス思考に繋がったと考える。

残業時間削減は課員へのモチベーション向上へと繋がった。

今後、課内での部門変更（ジョブローテーション）を実施しさらに個々のレベルアップを目指していきたい。

63

洛和会東寺南病院共有フォルダの整理

洛和会東寺南病院　TQM 委員会
○杵谷和宏・仮屋浩太

【キーワード】TQM 活動

院内パソコンデータの共有に使用している「東寺南共有フォルダ」内への無秩序なデータ保存や利用者不在の過去在籍者作成データの放置によりファイル数が増加し、利便性が低下しているため整理する。

共有ファイルの階層分けを実施。第１階層（大分類）、第２階層（中分類）等に分け、ルールに則り名称付けする。フォルダ作成は階層ごとの権限範囲内で行うことにより不要にファイルが増えることを防止する。また、放置されたファイルは一定期間を経た後、削除する。

運用ルールの策定及び権限を明確にすることにより、共有フォルダの検索性の向上、不要ファイルの放置防止等の利便性向上が期待される。

64

認知度アンケート結果からの一考察

洛和会 TQM 支援センター
○太田裕也・伊藤文代

【キーワード】TQM

〈背景〉

イントラアンケートを用いた認知度調査の結果多くの回答があり、その結果は TQM ホームページに公開したところである。今回はそのデータと自由記載による回答を熟考し、今後の TQM 活動をさらに良いものにしていくための考察を行った。

〈方法〉

職員アンケート（対象 5,774　回答 1,386）の結果から、改善に関わる内容を分析した。

〈結果〉

回答者の半数以上が改善意識を持っていることがわかったが、『上司に進言できない』、『昔からやっていることはやめられないという固定観念』、『あきらめ』という感情が障害となっていた。

〈考察〉

多くの職員が改善を求めていたり、気づきがあったりするが、それらの思いや声を可視化できる方法や、相談の窓口を広げる施策を講じる必要があると考えられる。

65

送信機に使用する院内推奨電池と市販電池の動作時間及び費用削減の検討

洛和会音羽病院　CE 部

○金本梓・伊野部仁完・神田貴庸・岡村悠史

【キーワード】院内推奨電池の使用によるコスト検討

洛和会音羽病院では電池駆動の医療機器に関して、院内推奨品である安価な乾電池を使用している。しかし、通常のメーカー品である乾電池とは価格差が大きいことから、駆動時間が短い可能性がある。同時に、送信機動作時間における費用、院内での入院日数に合わせた最小限の電池交換回数の検討を行うことでコスト削減に繋がるのではないかと考えた。

生体情報モニターの送信機（ZS-630P）を用いて、酸素飽和度、心電図を連続測定し、セントラルモニター（WEP-5204）へ情報を送信した際の電池別の駆動時間の計測を行い、院内推奨電池の使用によるコスト検討を行った。

66

地域包括ケア病棟に勤務する看護師の退院支援への取り組み
～勉強会前後のアンケート結果からみえてきたこと～

洛和会音羽病院　看護部　3C 病棟

○西田真唯・林里紗・田尾章子・伊藤浩武・伊藤洋子

【キーワード】地域包括ケア病棟、看護師、医療ソーシャルワーカー、退院支援、勉強会

A 病棟は、地域包括ケア病棟であり、退院支援や調整が重要な位置づけをなしている。しかし、経験年数や退院支援に対する知識不足、介護保険など社会資源についての熟知度の差など能力格差があり、誰もが同じ水準で早期に退院支援に関わることができていないと感じていた。

そこで、退院支援に対する知識を高める為に勉強会を開催し、前後で実施したアンケートから見えてきた課題を明確にし、今後の退院支援に繋げる。

対象者は A 病棟の看護師 23 名で、勉強会前後にアンケート（質問紙法）を実施・集計し、分析する。勉強会は MSW（MSW の役割／社会資源／介護保険・施設の特徴）、病棟看護師（退院支援のプロセス／退院支援に必要な情報／プリセプターの役割）で行った。

67

身体抑制に対する医師と看護師の認識について
～急性期病棟におけるアンケート結果より～

洛和会音羽病院　看護部　4A 病棟

○井上陽介・寺尾美和子・木戸茜・丸尾香澄・藤井理奈
田中綾華・前村有香・築地原寛典・橋村緋香里

【キーワード】身体抑制、医師と看護師、認識、急性期病棟

抑制使用・解除について医師と看護師の考えに相違が生じた事例があり、身体抑制の認識を双方で調査し相違の違いを明らかにすることを目的とした。

期間は令和 4 年 2 月～ 9 月であり、対象者は医師 31 名看護師 34 名の合計 65 名。アンケート調査により t 検定、χ 2 乗検定で分析。

医師よりも看護師の方が抑制に対する不安や悩みが大きい。倫理的葛藤・危険行動の回避・危険因子の減弱の 3 項目で有意差が見られた。また、責任による重圧・周囲からの評価の 2 項目では有意差がなく平均値は低かった。

看護師は患者の日常生活に関わり、患者の思いに気づく場面に遭遇することが多いことから、積極的に抑制を行いたくないという考えが強いことが研究結果から推測される。医師も看護師も自己の評価のために抑制について不安や悩みを抱えているわけではなく、患者自身の人的尊厳を優先していることがわかる。

68

渉外室の役割再考。ある意味これも経費の節減策！
～患者さんや職員の安全・安心を守るもう 1 つの視点～

洛和会音羽記念病院　渉外室

○笹川隆雄

【キーワード】改善

「渉外室」は、患者さんや職員の安全・安心を守る役割がある。苦情対応に始まり、落とし物対応や警察・検察・弁護士対応、医療訴訟や職員や患者さん・ご家族からのご意見・相談対応、医療メディエータ的な立場で間に入る事もある。これらは全て「何かが起きてからの対応」だが、本当にそれだけで患者・職員の安全・安心が守れるのかと思うことがある。「予防に勝る治療無し」という言葉もある通り、予防（危険予知）の視点が今後の渉外室には新たに必要であるのではないかと考える。

危険箇所や危険事象について発見・考察後、検証・分析を行い、上層部へ報告・提案し、承認を得た上で関係各部署と協力して改善を図る。

継続的な改善により、現時点でおよび将来的に患者・職員の安全・安心につながる。

設備面や物事の運用面を中心に、様々な角度・視点で今後危険に発展しそうな箇所の指摘・分析・提案、その後の修理や撤去、改変や変更が行え、直近または将来的な安全・安心を守れる。長い目で見れば経費節減や患者満足度・職員満足度の向上により業績の向上にも効果があると考える。

69

退院支援から始まる居宅介護支援の現状と課題

大塚介護保険サービスセンター
○伊東浩美・古田万寿代

【キーワード】病院・本人・家族との連携、家族の受け入れ体勢、病院の入退院部門との関係

〈背景・目的〉
退院支援から新規ケースを担当すると家族との協働関係が良好になる。反面、入院中から、かなりの時間をかけている。より効率的・効果的な係りはできないかと考えた。
〈方法〉
病院訪問ができず、自宅への訪問も限定的になったコロナ禍での退院支援から始まる新規ケースとコロナ禍以前の支援を比較し、より効果的・効率的な支援のポイントを探る。
〈結果〉
回復期の退院なのか否かにもよるが、過去に複数回退院支援を協働した病院退院調整部門とは効率的・効果的な支援が行なえる。
〈考察〉
結局はMSW退院支援Nsとの良好な関係構築。日頃からの協働の積み重ねが大事。

70

ケアプラン回覧の活用からプラン内容の質の向上を目指す

居宅介護支援事業所山科
○藤田道代・中村泰雅・小松裕美

【キーワード】業務の質の向上、改善

新たにケアプランを作成する際には、利用者に提示する前に所内でケアプラン回覧を行う。ケアレスミスを見つけるだけではなく、視点のズレや利用者が抱える課題と支援内容の整合性について多面的に捉えることを目的としている。しかし回覧後の振り返りの機会を持てておらず、ケアマネジャー自身のスキルアップ、ケアプラン内容のブラッシュアップを目的として研究テーマとすることとした。
回覧後のケアプランについて、記入されたコメントの内容の分類、修正に際してどのような影響が出たのかを検証。各職員で共通の認識、欠落しやすい視点はどこかなどを分析。それらをふまえてケアプラン作成に取り組み、どのような効果が得られたかを確認し考察する。

71

低線量CT撮影における画質の評価

洛和会丸太町病院　放射線部
○矢房尚大・小林侑里・藤川優志・荒賀裕之・前田通博

【キーワード】低線量CT撮影、ファントム

当院では今年3月にCT装置を更新し、従来の装置と比べ低線量での撮影が行えるようになった。しかし、低線量で撮影すると通常線量に比べノイズが増える為、病変の検出や診断に支障をきたす可能性がある。そこで今回、線量を抑えながらも、診断に支障をきたさない撮影条件の検討を行った。
撮影パラメータを変えファントムを撮影し、画質にどのような影響がでるのかを調べた。
低線量で撮影した画像でも、再構成方法や後処理を調整することにより、診断に支障をきたさない画像を提供出来るようになった。
今回の結果が得られたのは、装置の性能およびアプリケーションの向上によるものと考えられる。以上の結果を踏まえ、今後は臨床に応用していきたい。

72

新規開設事業所としての苦悩
～選ばれる事業所を目指して～

洛和会医療介護サービスセンター北大路店
○髙木美紀・堀川玲子・西村由美

【キーワード】改善

医療介護サービスセンター北大路店は令和3年2月1日に洛和会初の北区開所の訪問看護ステーション北大路とともに開所した。開所後一年以上経過し、地域にも周知されつつあり、相談件数も増えてきている。
開所当初から、この間スタッフと共に協力し、励ましあいながら走り続けてきた。令和3年2月開所時23件であった給付管理数は令和4年4月時点で76件となった。
配属されたスタッフの身体的・精神的な負担の大きい新規事業所開設としての苦悩や課題、そのために業務改善できることはないのか、さらに地域の中で選ばれる事業所として発展していくための道筋について考察した。

73

返却ミス０件を目指して

洛和デイセンター北野白梅町

○佐々木咲乃・松下裕子・楠見恭弘・宮田祐司
竹本美紀・坂井君枝・土田奈希咲・浅野紗弥香
増井小鈴・石田萌衣子・田尻幸江・中石幸子

【キーワード】業務改善、TQM 活動

令和２年度の延べ返却ミスは 68 件だった。結果、返却ミスの対応に追われ本来行うべき業務に支障が発生し、職員も再発防止策により返却ミスが減少しない事に疲れがみられていた。返却ミスとは何かから考え直し、事業所保管･利用者保管の在り方を手順化し、返却ミス０件を目指した。

預かるから返すまでを再度マニュアル化し、マトリックスを活用して事業所保管・利用者保管の区別を行った。事業所が保管するものについて、現状の保管方法を全て洗い出し物品の変更を含めて見直した。

令和３年度の延べ返却ミスは 25 件となった。変更に伴う、苦情・要望も発生していないことから良い結果と考え、行った内容について発表します。

74

服薬ケアに対する私たちの意識の変化
～基本に戻った服薬ケア～

洛和ヴィラアエル　看護介護部

○藤原有紀・上野翔太・延明義家・山本美紀
坂井直人・上野慎太郎・橋本皇次・中山賢一

【キーワード】取り組み

薬のセットミスによる服用時間の間違いの事故が多く、事故の減少の為に様々な手順を作成し、職員間でのチェック体制を整えた。しかし手順を増やした事で、職員の業務負担から服薬ケアに対する意識の低下が見られ事故件数がより増加した状態になった為、見直しを行った。

看護師と介護士によるダブルチェックの実施。看護師が薬台帳を基に確認した後に、介護士が名前･日付･服用時間の確認を行う。

服薬ケアに関する事故が発生する度に、手順に加筆し、手順ばかりに意識が向いてしまい、本当に確認するべき必要事項を見逃してしまう結果になった。初心に戻り手順を見直した結果、服薬ケアに関する事故が減少した。

本当に必要な事項は何か、服薬ケアの目的を話し合う事で事故の減少、服薬ケアに対する職員の意識にも変化が見られた。時間が経つと意識が薄れミスに繋がる為、適宜の振り返りが必要である。

75

未経験者のためのクリニック医療事務職の育成プログラムについて

丸太町リハビリテーションクリニック　管理課

○内田ことみ

【キーワード】業務改善、医療事務、中途採用、離職

医療事務の離職率は高く、洛和会内（5 病院、丸太町リハビリテーションクリニック）では勤続３年未満の離職率は 61.3%である。特に、丸太町リハビリテーションクリニックでは 80%であり、すべて１年以内に離職している。

本件は１年間の教育プログラムを作成し、個人の職務意欲の向上を目的とした職務環境を整えた。また、レセプト減点目標を高く設定し、新人職員でも理解が出来る方法について討論し、毎月フィードバックをした。

2020 年度の１年未満、退職者は３名。2021 年度の退職者は０名である。又、2021 年度８月のレセプト請求では減点０件と個々の請求能力も向上した。

クリニック医療事務業務は診療科目も手技も範囲が狭く、比較的請求内容は簡単である。簡単であるからこそ、高い目標と、個々ではなく全員が理解できる減点回避方法を取り入れることにより職務意識向上に努め、離職者の減少に繋げた。

76

新人看護師教育における社会人基礎力育成に向けた教育プログラムの効果
～PNS 導入後の卒後１～２年目看護師の成長の実感から見えた課題をもとに～

洛和会音羽病院　看護部　5A 病棟

○長野未佳・久司真琴・加藤喜丈・福本美紀・肥後浩子

【キーワード】社会人基礎力

令和３年度に行った研究において、新人看護師は入職３～４か月の時期には、「自分から積極的に人間関係を構築することが難しい」「主体性が不足しており目標を明確に設定できない」という社会人基礎力の低下が示唆された。

そこで、令和４年度に入職した新人看護師を対象に、社会人基礎力の育成に向けた教育プログラムを実施し、その効果を明らかにすることを目的とした。独自に考えた社会人基礎力育成教育プログラムに従って、研修を行い、社会人基礎力評価表を用いて、経時的に変化を分析し、教育プログラムの効果を評価した。今回は、６月末までに行った教育プログラムの効果として、対象者の自己評価をもとに分析した結果を報告する。

77

新人ケアマネジャーの教育体制について

洛和会医療介護サービスセンター東大路店
○山田隼平・上嶋眞貴・森川久美子・児玉純子・舌一恵

【キーワード】新人教育、自己研鑽、利益、教わる作法、教える技術が質をあげる、信頼につながる

東大路店には60代で採用になった、ケアマネジャーが在籍している。採用後1年が経つが、悩みを抱えながら業務をこなされるなかで、教育体制について今のままでいいのか、もっとシステムが見直せないかと感じた。

この3年間で未経験のケアマネが配属になった法人内の事業所で、教育担当者や管理者と、その採用になったケアマネジャーの両者に新人教育についてインタビューし、教育体制の在り方について検証したい。

教育体制を振り返り見直すことで、今まで以上に教わる側も教える側も質が向上し、採用された人が職員を紹介できるようになればと考える。

78

外国人雇用に関する取り組み

洛和会本部採用教育課
○山田有里子・大谷雅江
洛和会本部
黒田満博
介護事業部 人事採用課
長谷忠志

【キーワード】雇用に関する新たな試み

はじめに厚生労働省の「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数」によると、2025年には当法人のある京都府では2,356人、滋賀県では3,218人、東京都では30,949人の介護職員が不足すると公開されている。

当会では令和元年より新たな介護職員として特定技能外国人、技能実習外国人の雇用、留学生派遣を進めており、今年7月末時点では、28人の外国人を含め、介護職員必要人数は充足している。

しかしながら、医療部門の慢性的なナースパートナー不足や、今後予想される介護職員不足に備えるため、さらなる外国人雇用拡大を促進し、定着のための研修、並びに共に働く職員の理解を深めていく必要がある。今回、外国人雇用の取り組みの現状を報告する。

79

訪問看護ステーションの緊急携帯が職員の日常生活に与える影響

洛和会訪問看護ステーション石山寺
○松井靖子・中津方宏・山口映子・赤松優希・中西和恵

【キーワード】訪問看護、緊急携帯、精神的負担、身体的負担

当訪問看護ステーションでは夜間や休日に常勤スタッフが緊急携帯を交代で持っている。対応回数や内容の現状、緊急携帯を持つ事の影響は明らかでは無い。

当ステーション常勤者5名（緊急携帯対応者）に対しアンケート調査を実施。

実施記録や経過記録から訪問回数や内容を抜粋（令和4年6月までの過去1年3カ月、夜間、休日分のみ）。

実施記録から全体で訪問回数は98件、電話回数は172件。回数が共に多かった時間帯は17時15分～21時であった。内容は訪問、電話共に病状についてが一番多く、電話では病状以外に排便や精神面の相談が多かった。アンケート結果より全スタッフが精神的、身体的に負担を感じており、また緊急携帯を持つ事で本人や家族に大きく影響する事が明らかになった。

今回の研究で時間外に緊急携帯を持つ事でスタッフの様々な負担が認められた。

80

チームで地域へアプローチ！新規獲得を目指して職員個々の強みを活かす

洛和グループホーム守山大門
○田中永一・大島麻泰・田中智也

【キーワード】新規利用者獲得、地域連携

令和3年度5月より徐々に目標稼働率96.5%を割り込み利用者の体調不良による入院、看取り対応が相次いだ。入居があっても間もなく入院、その後退居となるケースもあり、安定した稼働に至らなかった。新規利用者獲得に向けて事業所で取り組める事はないか考えた。

〈方法〉

GH守山大門を外部へアピールする方法の検討、会議の実施。地域の事業所との関り方を見直し。

4か所でパンフレット設置して頂けることになった。ブログの写真撮影や利用者の様子を記録することを職員全員で意識でき、結果4名の入居に繋がった。

新規利用者獲得という目標に向けて職員の意識が高まり、積極的に事業所の魅力を発信することが大切であると再認識できた。

81

ICT・介護サポート機器導入による現状の振り返り
～働きやすい職場環境を～

洛和ホームライフ室町六角
○柘貴宏・松岡英輝・松藤徹・橋本恭明

【キーワード】ICT・業務負担の軽減・業務効率化・連携

洛和ホームライフ室町六角は開設から5年が経過した。開設当初に比べると、業務効率化・業務負担の軽減に繋がるICT・介護サポート機器が増えてきている。記録では「紙カルテ」から「ちょうじゅ」への変更、情報共有・連携では「インカム」の導入、見守りシステムでは「眠りSCAN」の導入、介助負担軽減では「支え手」の使用などである。導入以降業務効率化・業務負担の軽減・職員間の連携向上が見られている。今回導入・使用してきた機器に関しての振り返りを行い、見えてきた課題と今後の取組について報告する。

82

卒業前看護技術演習の取り組みと今後の課題

洛和会京都厚生学校　看護学科
○坂井直美・三森佳奈・本郷千草・上村真紀・古川翔也

【キーワード】厚生労働省、卒業前技術到達度、実践に即した、看護実践力

卒業時到達府度が低い看護技術経験項目が複数あり、夜間実習を経験する機会もなかった。そこで卒業前に実務に即した看護実践力を養うことを目的に卒業前演習を実施した。

1）厚生労働省が定める卒業時看護技術到達度で低い項目を明らかにし、技術演習を実施した。

2）複数患者の身体状態や治療環境を確認する夜間の巡視を実施した。厚生労働省が定める卒業時看護技術到達度を達成し、入職後の看護実践をイメージすることができ、自己の課題の発見にもつながった。

卒業前演習を実施したことで、実務に即した看護実践力を養うことができたと考える。今後、看護基礎教育から現任教育にシームレスに移行できる体制を整えていくことが課題である。

83

実習開始前における助産師学生の助産診断過程の到達状況

洛和会京都厚生学校　助産学科
○奥村美由希・本郷千草・樋口昌代・高橋悦子

【キーワード】助産師学生、分娩期、助産診断過程、初期診断

2022年度のカリキュラムより助産診断・技術学が10単位へ増加。学生が初期診断でどの情報を優先的に収集し診断に繋げているのかを明らかにし、教育内容・方法の改善に繋げると共に実習に向けた課題を考察する。

正常分娩事例展開後、急速分娩事例の分娩進行の初期診断及び助産計画立案迄を展開。実習記録記述内容から助産診断過程の到達状況を明らかにした。

初期診断にて、殆どの学生が概ねどのような分娩経過を辿るかまで分析していた。しかし、分娩進行に伴う評価・修正と進行に伴う異常の早期発見の予測・予防に対しての分析が不足していた。

実践能力と実践を支える思考力・判断力を備えた助産師育成の為、学生の診断プロセスを確認していく対応が実習指導者及び教員に求められる。

84

医療安全文化醸成につながる安全活動

洛和会音羽病院　医療安全管理室
○中川朋子・阿波谷妙子

【キーワード】医療安全文化調査、安全文化の醸成、医療安全活動

医療の最優先は安全であり、事故防止には全職員が安全意識を持つことが必要である。医療安全の推進には安全文化の醸成が不可欠であり、様々な啓発や取り組みに対する客観的評価が課題であった。

3年前から実施している医療安全文化調査結果から、改善や取り組みが適切であるか振り返るとともに、課題を考察した。

院内の情報伝達やコミュニケーションの項目で肯定感が低く、職種や部門を超えて情報共有を強化する課題が明らかになり、職種を越えた意思疎通の活性化につながる活動が有効であることが分かった。

今年度から取り組んでいるリスクマネージャー会は多職種で検討する機会となり、医療安全の醸成につながる。

85

ヒヤリハットからの気付き

洛和ホームライフ御所北
○則武喬介・伊藤隆太・吉田綾・木崎靖子
菊地泰明・澳悠希・山本淳子

【キーワード】意識改革

常日頃から事故はいつ起こるか判らないと考え入居者様が安全で安心した生活を送ってもらえるように努めているが、多忙な業務の中で「これくらい」「いつもの事だから大丈夫」「昨日大丈夫だったから今日も大丈夫」と軽視し見逃し事故に繋がるヒヤリハットがあったかもしれない。

実際事故発生時には「今日に限って」「なにか前兆はなかったか?」「何か気付く事はなかったか」とささいな行動と思われる出来事を振り返る事が多い。

その予兆を拾い上げるのが「事故報告書(ヒヤリハット)」、過去の「事故報告書(ヒヤリハット)」を振り返り。

職員が入居者様の危険や事故に繋がると意識し対策や実行に移した事例を元に、再度重要性を認識し今後の業務にどのように活かしていったかを検証し報告する。

86

ヒヤリハットが報告できる環境作り

洛和会訪問看護ステーション北大路
○庄康余・森典子・山内あゆみ・瀬戸清里
後藤隆宏・釜田雅俊・真野梨菜

【キーワード】ヒヤリハット報告

訪問看護ステーションでは、ヒヤリハット報告は毎月1人1枚提出と決められている。しかし、必ずしも行えている状況ではなかった。そこで、ヒヤリハット報告についての考えを共有し、報告できるようにしたいと考えた。

ヒヤリハット報告の考え方、分類と事例、リスクマネジメントと心理的安全性との関わりについて、リーダー会議で学習し、各訪問看護ステーションに持ち帰った。その後、ヒヤリハット報告を書く時の気持ちについてアンケート調査を実施した。

結果は全訪問看護ステーションのヒヤリハット報告は、月1件未満ではあるが増えた。ヒヤリハット報告を書く時の気持ちは肯定的なものが多かった。肯定的な気持ちへの変化もあった。

ヒヤリハットの経験が報告されるには、個人のリスク感性と、「リスクへの気付きができていた」といった肯定的な気持ちを持てることも大切である。報告が増えた一つの要因として、そうした考えを共有できたのではないかと考えられる。

87

管理課を見直す取り組み

洛和会丸太町病院　管理課
○安藤彩華・久世梨紗子・山口佳菜子

【キーワード】患者満足度向上、業務改善

若手スタッフが増えた事をきっかけに新しい目線や視点で管理課について見直す機会を作ろうと考えた。患者満足度向上、業務効率化、部署環境改善案等を提案し、提案するだけでなく実際に実行し、改善を習慣化できる環境作りを目的とした。

令和3年4月より毎月職員1人1つの問題点・改善案・期待できる効果を挙げ、問題改善に取り組んだ。

令和3年度は計295件の改善案があがり、そのうち158件を改善することができた。

改善案に対して平均53%改善する事が出来た。また始めは自分で問題点を考え、改善していく事に抵抗がある職員もみられたが、今では何か改善できる所はないか?という視点で業務に取り組むことができている。

88

院内メディカルコントロール委員会を創設して、院内救命士の実施できる事

洛和会音羽病院　救命救急室
○中川功基・田野克海・中川凌平

【キーワード】タスクシフト、タスクシェア

令和元年の救命士法改定で今迄は院内での処置は出来なかったが、院外から入院迄条件をそろえれば可能となった。これから病院内では救命士は必要な存在になる。

どうして委員会を始めればよいがわからず、経営管理部などと話合い組織的に委員会発足して頂いた。又救急医への相談もし、質の担保を図った。

結果はこれから出ると考えるが、熟練した救命士が出てくるとERは救命士で任せられる様にしていきたい。

令和元年の法改正は大きく、なおかつ、今まで外でしか活躍できかったがこれからは病院内でも活躍できる事で業務の幅が広がる。

89

グループホーム事業所の管理者専任配置による有効性

洛和グループホーム壬生

○犬石慎吾・東村美恵・静間梨絵・奥智香・海道知子
中村綾那・蒲池由佳子・大網直樹・稲荷雅都・山田慎治
大瀬玄也・山田あすか・中川圭子・松本潔美

【キーワード】TQM 活動

管理者が介護職兼務で、夜勤従事することも月の大半を占める。合わせて管理業務を行う事は、慢性的な人材不足、現状の人員配置からも容易でない状況となっている。管理者専任配置を敷くことでその有効性を判断したい。

7/1 より管理者が日勤従事のみとして、2 ユニットを一元的に管理し、月に数日、管理者専任日を設定し、チーム連携強化、業務改善に努める。

7/1 ～の 6 か月間の使用期間で有効性検証を行っている状況であるが、発表となる 4 か月目の進捗状況を含めて、メリット、デメリットを精査し、今後に繋げられる体制か否かを判断する。

今まで、夜勤入り、明けで、連絡連携が遅れも発生していたが、日中のみの勤務であるため、関係各所との連携も取りやすく、常に責任者が日中に常駐しているということで職員にも安心感を与える影響も大きいと考える。また新入職員への対応としても指導しやすい体制と考え、今後も有効性があると捉え、この体制を継続していきたいと考える。

90

ショートステイの稼働率向上の取り組み
～空床利用の活用について～

洛和ヴィラ文京春日

○柳館孝行

【キーワード】業務効率化、連携

開設より、徐々に利用者数を伸ばし、100%前後の稼働率を保ってきた短期入所であったが、空床利用がなかなか出来ない状況が続いていた。特養職員への説明の困難さや、介護現場の負担が理由であった。しかし、特養入所者の重度化や新型コロナウィルスの流行もあり、令和 3 年度は退所者数が例年の約 1.5 倍と急増した。これにより、空床数が増え全体の稼動率も低下した事から、空床利用を実施する事となる。

空床利用を実施した事で、コロナ禍ではあるものの、年間平均 120%の稼働率を達成する事が出来た。

空床利用を行なう上で実施した、介護職員への説明や、実際の受け入れ、生活相談員や、介護職員、専門職の連携などを振り返り、考察･評価するとともに、今後の課題についても検討していく。

91

管理栄養士増員による栄養管理に関する効果

洛和会音羽病院　栄養管理室

○東浦七帆・大西かおり・山根宏子・石橋悠・南條弘貴
尾崎佳菜恵・廻神朱里・橋本菜月・久世佳奈・坂口暁子
平山紫帆・馬場崎仁美・石田のりこ・長谷川由起

【キーワード】個別栄養食事指導、栄養管理情報提供書、増員

令和 2 年 4 月から管理栄養士は段階的に増員し、令和 2 年 10 月からは一部の病棟で管理栄養士の病棟配置を開始した。その結果、ミールラウンドや個別栄養食事指導、栄養管理情報提供書の作成が行う機会が増加した。今回､増員後の成果について検証した。

管理栄養士の増員後の個別栄養食事指導や栄養管理情報提供書の件数推移及び病棟配置の影響を調査した。

令和 2 年 4 月は管理栄養士 7 名だったが、令和 4 年 4 月は管理栄養士 14 名に増員した。個別栄養食事指導は令和 2 年 4 ～ 6 月の合計は 195 件、令和 4 年同時期は 447 件と 2.3 倍に増加した。管理栄養士が病棟配置で関わった病棟での栄養指導件数増加が顕著だった。

病棟配置により患者の摂取状況や栄養状態を把握しやすくなったことで栄養指導件数が増加した。栄養食事指導疾患が多い病棟を中心に、病棟配置を行ったことが効果的だったと考えられる。

また 2 回目の栄養食事指導が少ないため、介入のタイミングを検討することが必要である。

92

モニタリングを中心とした予算達成への取り組み

洛和ヘルパーステーション石山寺

○園村田鶴子・旭浩子・山﨑美子

【キーワード】業績回復、予算達成、ニーズの把握

昨年度、当事業所のヘルパー訪問件数は予算を大きく上回る結果となった。R4 年度の予算は大幅に引き上がり大変厳しい状況に陥った。訪問件数獲得のための取り組みを発表する。

管理者は新規獲得のため渉外を行い、サービス提供責任者はモニタリングとヘルパーから気づきの吸い上げを行い、増回の必要性がないか検討し、提案に繋げていく。

モニタリングにより状態の変化に気づき、ケアマネジャーに増回の必要性を提案したことで訪問件数も増加、またニーズを捉えたサービスの提供にも繋がった。

サービス提供責任者が活動状況を把握する事で、ヘルパーの精神面のサポートができ、またヘルパーからの気付きを吸い上げることによって、ニーズを的確に捉えることで利用者が安心できるサービスの提供に繋がった。

93

コロナ禍でのリハビリテーション会議の工夫とその事例

洛和デイセンターイリオス

○矢野貴士・浅野航平・渋谷建太・田中美佳・反保智寛

【キーワード】リハビリテーション会議、リハビリ、多職種連携

当通所リハビリテーションでは、退院直後などで生活機能が低下した利用者において、リハビリテーションマネジメント加算を算定している。この加算は、リハビリテーション会議（以下リハ会議）の開催を算定要件の一つとしている。

リハ会議は、医師、リハビリ専門職が専門的な見地から利用者の状況に関わる情報をサービス担当者と共有し、支援することを目的としている。

これまでは、サービス担当者全員に参加を募り、リハ会議を開催し、利用者・家族の目標などの情報共有を図ってきた。しかし、コロナ禍で多人数が集まることが難しい状況となった。

今回は、当施設でのコロナ禍におけるリハ会議の工夫とその事例を報告する。

94

継続した栄養サポートにつなげる栄養情報提供書

洛和会丸太町病院　栄養管理室

○小畑亜姫・柏木瑠莉・榊容子

【キーワード】栄養管理、栄養情報提供書

入院中は多職種連携にて栄養管理に取り組んでおり、退院後も継続して栄養サポートができるように栄養情報提供書を提供している。当院では退院後施設に入所される患者を対象に提供してきた。2022 年 4 月より提供の幅を広げ、新たに特別治療食を必要とし、かつ個別栄養食事指導を行った患者を対象に他の保険医療機関へも情報提供を行った。アンケートを配布し、当院での栄養情報提供が退院後の栄養サポートに有用とあったため報告する。

栄養情報提供書に返書を同封し、内容についてアンケートを実施した。内容が「参考になった」などの声が多く寄せられた。アレルギー情報や適切な食形態、疾患に対する栄養管理など、今後の食生活に必要と思われる情報を栄養情報提供書に記載し、退院後の栄養サポートにつなげることができていると考える。

栄養情報提供書を提供したことにより、退院後の栄養管理に関わる職種と情報共有ができ、入院中から退院後へ切れ目のない栄養管理をすることができた。

95

介護老人保健施設でのコロナウィルスクラスターを経験し学んだこと

洛和ヴィライリオス

○富坂有紀・高山典子・高橋秀行・細野徳子・達富知子
加登脇久実・山本敦史・藤井麗香・宮村美由紀・大久保好美

【キーワード】業務改善

当施設では感染対策の徹底を目標に挙げ、看護師が主体となりイリオス独自のマニュアルに基づいてコロナを持ち込まない・拡大させない対策を行ってきた。

2022 年 1 月、施設内で利用者のコロナウィルスに感染が発覚。しかし入院ができず施設の大部屋での療養を余儀なくされるという想定外の事例となった。

早期に感染対策チームが始動し対応にあたったが、1 フロア利用者 25 名中 20 名、司令塔となるべき看護師 5 名中 3 名が感染し、施設内クラスターが発生する結果となった。

この経験から、再び感染者が発生した際、他職種と連携し統一した初期対応・ケアを行うことが必要であると感じた。

施設の看護師として求められている役割として、大部屋で感染者の看護・介護にあたる想定でのマニュアルを検討し追加する必要があると考え、取り組みを行った。

その過程と結果　今後の課題について報告する。

96

ブラシを使って患者さんを笑顔にする取り組み（病院とホテルで叶える SDGs）

洛和会音羽病院　リハビリテーション部

○篠田昭・リハビリテーション部一同

【キーワード】SDGs、企業連携

リハビリテーション部の中で作業療法士は日常生活動作を主にリハビリテーション介入を行い、患者さんの日常生活動作獲得と自宅復帰を推進している。しかし、B 型肝炎リスクからブラシによる整髪動作訓練は行えずにいた。

洛和会音羽 CSR 会議を発端にホテルオークラ京都と連携して使用済みのブラシ・櫛を回収して適切な洗浄消毒作業を行い、院内で再利用できる手順を整えた。ブラシ・櫛は患者さんに渡して回収しないこととした。

院内利用や他所管リハビリテーション部への配布を含めて月に 100 本程度運用された。ホテルオークラ京都からも廃棄物の削減に繋がったと報告を受けている。道具があれば患者さんの動きを引き出しやすく、生活のリズム作りにも役立った。

1

医師の勤務環境改善

洛和会音羽病院　秘書課

○金銅雅美・小林牧・増井宏美
サンドゥヨノツ・月岡政司・佐々木孝尚

【キーワード】改善

秘書課は、医局秘書・院長秘書の人員構成となっている。各医師のスケジュール管理業務から行政への報告業務、教育研修に関する業務、医師の入退職にかかる手続き、また院内・外での会合や行事への対応業務など多岐にわたる。今回は初めて当直医より当直室のベッドマットレスが硬すぎて眠っても翌日体が痛くなってしまい業務に支障をきたすため使用したくないとの改善要望があり、さらに医局内休憩スペースのソファで仮眠をとっている医師を見かけることがあるが理由を確認すると同様の意見だったため改善に向け動き始めた。

①マットレスのみ変更②ベッドフレーム＋マットレスの交換のどちらかで検討したところ、マットレスのみの交換は市販のサイズでは合わず、ベッドフレームから変更する方が今後経年劣化に伴う買換えになった際もマットレスのみの交換で済むということから②の案になった。

今後も医師の勤務環境改善に向けて取り組んでいきたいと考えている。

2

COVID-19、軽症・中等症患者の受け入れ病棟における長期での対応を行っている看護師へのワークエンゲイジメント

洛和会音羽病院　看護部　4D 病棟

○今西丈・野原恵美子・佃聡行・野老敬太
三宅美穂・前田紀子・中橋結希

【キーワード】COVID-19、ワーク・エンゲイジメント、バーンアウト、看護師、看護ケア、メンタルヘルス

昨年度の研究結果より、COVID-19 病棟で働く看護師のワーク・エンゲイジメントに与える影響として、3つのカテゴリーが導出された。実際の臨床現場での具体的な取り組みを明確にすることで今後のワーク・エンゲイジメントの向上に繋がると考えた。

昨年度の研究を基に 3 つのカテゴリーに対する具体策を洗い出した。

適切な PPE 着用によりスタッフの感染はなく感染に対する不安の軽減に繋がった。病棟の稼働状況により、不安定な勤務体勢となることがあり、精神的負担となっていた。看護ケアカンファレンスに加え病棟運営や応援時の協力体制についても行うことで、スタッフ間で不安を共有し、同僚や上司から解決に向けての助言を得られた。

スタッフ間での関わりや取り組みにて、感染の不安が軽減されより良い看護ケアを提供する意欲が湧き看護ケアの広がりに繋がった。しかし他部署から応援に来たスタッフのメンタルへサポートに対する取り組みが今後の課題になると考える。

3

ER との連携方法変更に伴う救急病棟入室までに要する時間の変化に関する調査

洛和会音羽病院　看護部　2B 病棟

○早川猛・西村芳野・前出美穂

【キーワード】救急病棟、ER との連携、入院までに要する時間

救急病棟の緊急入院は ER を経由することが多く、ER との連携は重要である。しかし、夜勤との勤務交替時に、入院待ちの患者が発生することが多く、患者の負担増大や救急受け入れが滞ることが考えられる。救急病棟と ER の連携方法を変更し、ER での滞在時間の短縮を図る必要がある。そこで、本研究は救急病棟と ER の連携方法を変更し、救急病棟に入室するまでに要する時間の変化を明らかにすることを目的とした。

2019 年および 2021 年の 1 月～3 月の月～土 16 時～18 時に入院となった患者を対象に、2019 年と ER との連携方法を変更した 2021 年の ER から救急病棟入室までに要した時間を調査し、Mann-Whitney の U 検定を用いて 2 群間での差を検討し、ER との連携方法の効果を検討した。

4

代行入力業務のボトムアップに対する取り組みと考察

洛和会音羽記念病院　ドクターエイド課

○大木啓太郎・北川奈己・西川香織・長﨑美幸

【キーワード】医師事務作業補助者、代行入力、教育、OJT

当院の医師事務作業補助者（ドクターエイド　以下、DA）は業務ごとで担当制を採用している。そのためか、DA 内でも業務能力の格差がみられた。今回業務能力のボトムアップを目的とした取り組みを行ったのでこれを報告する。

担当業務外 3 名を対象に当院で頻回に実施している検査 7 項目を挙げ、実務にて代行入力を行った。入力後、教育担当者が内容を確認。問題なく出来るようになった段階で完了とした。進捗表に施行回数と完了したかどうかを記入して掲示した。

開始当初は 2022 年 5 月までの完了を目標としたが、NEAR 法検査や心電図の事後オーダーは全員が完了できたものの、他項目では一部の者しか完了に至らなかった。

今回入力対象を実務上発生したもので行ったため、対象とした入力項目の発生する頻度やタイミングに差があり、その結果施行できた回数にばらつきがみられた。そのため各人の入力施行回数に差があり、結果として完了と言えるまでの評価に至らなかったと考える。

Web版

5

業務の標準化・体制の再構築への取り組み
～外来診察補助業務における休憩交代制の導入～

洛和会音羽リハビリテーション病院　ドクターエイド課

○井﨑亜依・村江佑依・西川桃恵・酒見美紗子
安藤奈穂子・坂田磨美・長谷真里

【キーワード】改善

当院整形外科外来の業務再編に伴うドクターエイド（以下 DA）の担当業務拡大により、外来診察補助業務担当者の業務量・拘束時間が増加し、規定の休憩時間の取得が困難となった。業務の標準化・体制の再構築により、休憩取得時間の適正化へ取り組んだ。

業務の整理、標準化、マニュアルの作成により、業務手順を課内で共有し、外来業務を担当可能な人員を増強した。柔軟に休憩を取得できる病棟業務担当者等を休憩交代要員として配置し、外来業務担当者の休憩時に業務を引き継ぐことで、定時に規定時間の休憩を取得できる体制を構築した。

医師や他部署への負担なく、DA の業務の質を担保したまま規定の休憩時間を取得できる体制が構築され、各課員の休憩取得時間も適正化した。

6

笑顔で気持ちよく働ける環境作り

洛和グループホーム天王山

○阪本幸子・赤尾潤美・大和寛子・小川恵子
佐々木真優美・南條淳子・緑谷英子

【キーワード】しっかりと休憩して笑顔のチャージ

更衣室として、小さな倉庫を代用している。またロッカーは個人個人にはなく、共用で使用する状態であった。休憩に関しては、事務所で、電話・来客対応、ご利用者対応含を行いながら休憩といった形で、休憩した気持ちになれない現状であることから改善に繋げたいと考えた。

休憩室が無ければ作ればいい！と言う発想からユニット内にいくつかある倉庫の内一つを更衣室兼休憩室へ環境改善に繋げることにし、整理整頓、片付けから始める。

要る、要らないの整理が出来た上に自分たちの寛ぎのスペースを確保する事ができた。

休憩室を手に入れることができるかと模索した結果、職員で工夫し、形になり、自然と笑顔になることに繋がった。休憩時間には気兼ねなくゆっくりと足を伸ばして寛げる空間の確保の必要性を再確認でき、少しの職場環境改善であるが、笑顔で気持ちよく働ける環境づくりを今後も考えていきたい。

7

みんなが働きやすい職場をめざして
～コミュニケ―ションを大切に～

洛和グループホーム右京山ノ内

○徳永泰子・宮本由美子・井野有佳・横山千尋・塩津幸也
大久保千歳・南裕之・藤松奈緒美・五十子奈美

【キーワード】業務見直し、TQM 活動

今年に入り、ユニット内メンバーの約半数が入れ替わった。既存職員から配属職員に対して、仕事を覚えてもらうにあたり、シフト制が関係し、特定の職員のみで指導・教育する難しさが課題と捉える。色々な人から教えてもらうことにより、良い面・悪い面もみられる。この機会に今まで以上により良いケア、良い雰囲気をめざして働きやすい環境作りを目指したいと考える。

職場の雰囲気も少し変化が見られ、お互いの思いや考えを知るには良い機会である。チームとして人とのつながりは大事だと捉え、業務（記録の時間の確保と見守り）を見直し、お互いにどうすればよりよい連携に繋げることができるか？個性も尊重しながら、職員間で話し合う場の確保も行いながら、その場だけではキャッチしにくい本音も含めて、今回はアンケートをとり、みんなの意見を聞いて思いを互いに知り、今後のケア・サービス提供に繋げる。

8

職員の定着を目指して
～施設独自の取り組み～

洛和ホームライフ四ノ宮

○金田彩・齋藤淳史・嶋田杏里奈・中上司・尾山華子・酒井土志

【キーワード】教育、育成

当施設では、介護職として入職した新人職員だけでなく中途採用職員に対してもプリセプター制度を取り入れている。その目的は、採用職員個々に合わせた業務習得や精神面でのサポートをするためである。施設独自に作成したカリキュラムに基づき、業務内容や、利用者個別の介助上の注意点をわかりやすく表記したものを使用し、プリセプターだけでなく全職員が採用職員の業務習得の進捗状況を把握できるようにしている。プリセプターが不在の時でも教育体制が保たれている事で採用職員が安心して成長し職場に定着できる環境が維持されている。

開設から 8 年目を迎え、この間に入職した職員 13 名中、退職した職員は 4 名しかおらず、洛和会内の特定施設では定着率が高いと言える。そうした働きやすい環境を維持するための独自の取り組みや業務習得から独り立ちへの過程について振り返り考察したものを報告する。

9

障がい者雇用は「働き方改革」でもあるんです！

障がい者就労支援事業所 らくわ

○中田亘洋・谷本公子・上岡智子・田中久臣・大前貴裕

【キーワード】障がい者雇用、ノーマライゼーション、職場定着、発達障害、連携、働き方改革

障がい者雇用は、障がい者の自立と社会参加の促進にとって事業主ができる社会貢献である。その根底にはノーマライゼーションの理念がある。障がいのある人もない人も互いに支え合い、職場で活躍できる環境を整える工夫を行い、職場定着を目指した。

当事業所では本年４月より発達障害の障がい者を１名雇用したが、コミュニケーション面で苦慮したり、障がい者が問題をうまく理解できないこともあった。そこで外部機関等と連携し毎月面談を行った。

面談を通して成長できたことや悩みを共有し、少しずつ自分で問題解決が図られるようになった。

障がい者雇用は既存の働き方を見直し、本当の意味での働き方改革を進めるいい機会になった。

10

ハッピーサンデーを目指して！
～稼働向上のための日曜日特化アクション～

洛和デイセンター宇治琵琶

○松井幸代・久下洋子・間瀬貴子・田辺和美
福岡真理子・朏摂子・鎌由紀子・白田智佳子
河野和美・菅原真帆・北睦・西坂由起・吉田裕子

【キーワード】稼働率改善への取り組み

稼働率低下の大きな要因のひとつとして日曜日の利用数減少があげられる。日曜日に特化したイベントを開催することで、登録者数や臨時利用の増加及び新規利用者獲得し、稼働向上のための取り組みを行った。

デイサービスでニーズの高い、入浴、食事、おやつに焦点をあて変わり湯や特別食の提供を実施した。臨時利用獲得にあたりイベントの事前告知のチラシやポスター作成、やご本人、ご家族へ呼び掛けや電話案内を実施した。

開催日合計で57名の臨時利用があった。その後、イベントをきっかけにした増回利用者３名、新規利用者２名を獲得することが出来た。

レクリエーションの内容が利用者に満足感を得るものであれば、次の臨時利用にもつながり、更には利用増回につながる結果となった。今後も日々のレクリエーション内容を工夫し用者満足度の向上につなげ、新規獲得へのアピールとする。

11

ヘルパーが不足する中での稼働率向上に向けての取組み

洛和ヘルパーステーション醍醐駅前

○金澤路子・宮木香澄・太良京子・笠間信子

【キーワード】改善、コミュニケーション、不安の解消

ヘルパー不足、高齢化が続く中、体力や能力に自信が無くなり、離職も考えるようになったヘルパーに対しての不安解消への取組みについて発表する。

ヘルパーが意欲的に活動を受けられるよう、またご利用者にヘルパーの良い所がアピールできるように説明や伝え方を工夫し同行訪問を繰り返した。

利用者個々のニーズの違いや、関わり方を伝えていく事で、少しずつ対応の変化が見られ自信に繋がった。

ヘルパーが自信を持てる様な伝え方、アピールが出来るよう、サービス提供責任者がヘルパー個々と向き合いながら責任感を持って今後も意欲向上に努めていきたいと思います。

12

返却忘れ減少への取り組みと結果

洛和ヴィラ桃山

○下世幸博・岡浩史・堀田希・岡村一恵・藤原実香
荒川智雄・衣川拓哉・酒井眞衣・板倉祐子
寺岡真代・大西啓子・井田妙・中坊宏美

【キーワード】業務改善、返却ミス、マニュアル、環境

〈背景・目的〉

返却忘れが減らない、または増加傾向にあることは、施設の信頼やサービスの質の低下につながり、利用登録者数にも影響する。そのため、安定した業務運営に向け、問題点を明らかにし、多面的にアプローチを行い改善を図ることが早急の課題であった。

〈方法〉

・事例検討（返却ミス事象の要因分析）

①現地調査（持参物の現状・手順・環境）から要因分析を行う

②要因に対して解決策の実施・評価を行う

Web版

13

みんなの事務作業を軽減しよう！

洛和会丸太町病院　医療情報・がん登録統計課
○山田志帆・平川香織・新多智美

【キーワード】業務改善、負担軽減、提案、DWH、Excel、タスクシフト、DX、時間短縮

職種に関わらずパソコンでの事務作業は存在する。しかし、苦手な人も多い。そこで当課として、DWHやExcelを用いて各部署の事務作業を軽減できないか考えた。

各部署へ事務作業に関するアンケートを実施した。回答結果をもとに実際の作業をヒアリングし、検討・提案した。

従来の作業方法からDWHやExcelに移行することにより、作業工程を減らすことができた。結果、作業時間の短縮だけでなく、さらに質の向上にも繋がった。

今回の取り組みにより、本来の職種業務に注力できる時間を増やすことができた。当課としても、DWHやExcelのスキルアップに繋がり、双方共に良い結果となった。今回はアンケートを取ったが、困った時、悩んだ時、気軽に頼れる関係を築きたいと考える。

14

コロナ禍での環境整備とその一考察

洛和会音羽記念病院　管理課
○林峻哉・関ひとみ・竹下友菜・小松里香

【キーワード】新型コロナウイルス感染症、環境整備、感染予防策

当院は透析病院であることから患者さんの大多数が基礎疾患を持った高齢者であり、新型コロナウイルス感染症を含めた感染症を院内に持ち込まないことが強く求められた。

そのため職員同士で新型コロナウイルス感染症の情報を共有し、感染予防策に対する意識を高め合い、日々の中で受付付近の清拭をはじめ、来院者の方に対してマスク着用、検温の呼びかけを積極的に行った。

感染予防に取り組む中で受付の検温にて発熱を認めた患者さんが検査を行った結果、新型コロナウイルス感染症の陽性者と判明し、結果として感染症の侵入を水際で防ぐことが出来た。

個々の職員の感染症に対する意識を高めたことで、有事の際に正しい感染予防策を実行することができた。そのことが患者さんと職員を守ることに繋がったと考えた。

15

ケアの質を均一にすることを目指した取り組み

洛和デイセンター音羽
○苅田沙津紀・高橋涼・長島知暁・野上千穂・西川直美
中畑美子・清水忍・黒川由香・佐々木尚哉・中森夕子
国藤はるか・佐藤奈実・大畠加奈代・盛岡里美・井添雄輔

【キーワード】記録状況の改善

当事業所の課題のひとつとして、同一利用者へのケアが統一されていないという現状があった。その課題の要因が、「利用者に関するケア記録の乏しさ」にあると考え、「ケアの質を均一にすること」を目標に、介護職員による記録入力の推進を開始する。

記録の必要性について勉強会を実施し、記録進捗表を作成・掲示することで意識し合い記録入力を推し進める。

令和2年度において、記録入力を行っていた職員で差があったのに対し、令和3年度では、全員が記録入力1件以上を達成。また、現在は、月間5件以上での記録入力を継続して行えている。

サービス提供における状況や方法、結果についての記録意識が不足していたと考えられ、記録に対する認識・理解に加え、記録の量を増やすことができた結果、必要な方への必要なケアへと繋げられたと考える。

16

コロナ禍だからこそできた業務改善
～ピンチがチャンスに～

洛和ホームライフ山科東野
○川嶋由紀雄・加護純一・馬場千代美
土屋知栄子・伊庭直美・大西杏華

【キーワード】業務改善

職員の離職や休職による人員不足の中、職員のコロナ陽性者が発生。更なる人員不足が加速し業務を圧迫する事となった。少ない人員でどうすれば業務を行うことができるのか摸索し実践することとなった。

濃厚接触者の隔離に伴い、すべての業務をフロア完結とした。

業務改善というと深刻に考えがちであり、躊躇してしまう傾向にある。今回のように、やらざるおえない状況下の中で、実際に行ったことが職員の業務負担軽減に繋がった。

「無理」「出来ない」という先入観に囚われず、何事においても「どうすればできるようになるのか?」「まずやってみよう」へ考え方をシフトすることが重要である。

そこから問題点、課題を抽出し、改善していく事を日常化する必要がある。

17

遅出勤務の導入による時間外勤務の削減

資材センター（TQM 委員会）
○福田尚樹・井上悠佑・衣川ゆかり・木村透・田中仁子・
中村善幸・西村敬至・山本匠・村上恵美・山地智也・田中真
TQM 支援センター
太田裕也・伊藤文代

【キーワード】業務改善、TQM 委員会

〈背景・目的〉
資材センターの薬品チームでは恒常的な時間外勤務が発生（16 時間 / 月）していた。
毎日調剤薬局からの発注があり、月曜～木曜日は 17 時 15 分を超えてから受注することがほとんどである。作業、発注は顧客都合の事情であり、変更は難しい。
〈方法〉
①フレックスタイム（遅出勤務）の導入。
②変則勤務の課員への情報共有のため、朝礼・終礼の見直し。
③進捗管理・効果測定には TQM 目標管理シートを活用。
〈結果〉
・有形効果：発注担当者の残業時間が 4 時間 / 月減少した。
・無形効果：発注担当者がいることで、他の課員が帰りやすくなった。

18

介護付有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の上下水道料金減免について

環境サービス
○亀井弘文・大原永吉・大江茂樹・中村久乃・岡﨑澄江・宇野綾真
洛和会施設管理部門
菊池一弘・大門宏之・四宮孝史・三浦康弘・石井達也・櫻井淳仁・奥田茂
田中善一郎・松浦清二・梶竜太・桑南伸行・田中樹・廣瀬拓海・成田豊重・小出水義孝
洛和会本部開発課
上田将嗣

【キーワード】経費削減

令和 4 年 3 月にとある水道コンサルタント会社から介護施設の水道料金の削減提案があった。出入りの水道業者の協力を仰ぎ自社で調査を行ったところ介護付有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅について集合住宅扱いの水道料金計算、通称アパート計算と呼ばれるものが適用できることが分かった。
その後京都市上下水道局に出向いて対象建物の確認、申請を行った。
コンサルタント会社を介さずに申請を行うことができたため費用負担を発生させることなく対象建物の水道料金を約 50%抑えることができた。
コンサルタント会社の提案をヒントに減免に成功した。そのことから情報を収集し考察することの重要性を学ぶことができた。

19

クラウド型契約書管理システムの導入

洛和会会計・給与部門　財務会計
○松川欣弘

【キーワード】改善報告

これまでサーバー型の契約書システムを利用し特定の管理者により賃貸借契約書を管理していたが、更新に多額の費用がかかるため、他の契約書システムを検討した結果、令和 4 年 4 月よりクラウド型の契約書システムを導入した。本システムについて①価格面では、ソフトウェア・サーバーの購入・更新や保守にかかる費用がかからず一定の月額使用料のみの負担になるため、大幅にコストを抑えることができたこと、②運用面では、ライセンス数が無制限で各担当者がシステムに登録可能になったため、賃貸借契約書の登録や更新などを効率的に管理できるようになったことについて報告する。

20

院内掲示物の管理改善、ルール策定について

洛和会音羽病院　総務部
○青木英樹・杉本浩規

【キーワード】院内掲示の整理

院内掲示物の現状は、掲示許可印が押されていないものや破損・掲示期間が過ぎているものが多い。また掲示板以外の場所にも掲示されている状況が散見される。これは、掲示物の管理不備、掲示過多による院内美観の悪化、患者へ本当に伝えたいものが伝わらないといった問題に繋がっている。
総務部にて、下記調査を行い、調査結果から、掲示物の管理、美観保全を行うための改善をどのようにしていくか考察していった。
①院内の掲示板の現状調査（調査項目 5 項目）を実施し、掲示物の現状把握を行った
②京都府下の他院の掲示状況の調査を実施した
調査結果から「院内掲示に関するルールが定められていない」「掲示期間終了後の撤去管理が行えていない」「掲示板が古い」ことが判明した。
院内掲示に関する管理部署の明確化を行い、院内掲示に関するルール（掲示サイズ、掲示場所の徹底等）を策定した。掲示申請の方法においても、現行の総務部へ持参する方法からメールでデータ申請（申請書 PDF 作成）できる方法へと変更した。また、総務部にて院内掲示のラウンドを継続実施および期間の終了している掲示物の管理（撤去）を行い院内掲示の管理・運用を行っていくこととした。

Web版

21

栄養補助食品“茶碗蒸しゼリー”導入後の現状報告と今後の課題について

洛和会音羽記念病院　栄養管理室

○西川友加里・小寺舞・岡﨑奈津代

【キーワード】栄養、食欲不振、透析

食欲不振や嚥下困難等によって食事摂取量が低下している方には栄養補助食品を付加して摂取栄養量を補う場合がある。自施設は減塩が必要な透析患者が大半を占めており、食塩の少ない甘いゼリーを導入していたが、甘いゼリーを好まれない患者対象に2021年4月からだしの旨味をきかせた“茶碗蒸しゼリー”を導入することにした。茶碗蒸しゼリー導入後の現状と今後の課題を報告する。

2021年4月～2022年3月の1年間に提供した茶碗蒸しゼリーや他の栄養補助食品の推移及び傾向を調べた。

特に嚥下困難で甘い物を好まれない患者に茶碗蒸しゼリーは好評であった。従来のゼリーに比べ、副食の代わりとして喫食する患者もいたが、一定期間のみ提供することが多かった。このゼリーの導入で、他の栄養補助食品の提供に変化はなかった。

茶碗蒸しゼリーの導入で、選択の幅が広がり、食事提案もしやすくなった。

食欲不振や嚥下困難の患者に嗜好にあった物を提供したことで食思向上に繋がったと考える。

22

災害時における給食

洛和若草保育園

○江湖葉子・嶋田真美・大槻香奈恵・上阪香緒里
三上栞・松藤美帆・高道洋子

【キーワード】保育・給食

保育園内で備蓄している非常食を喫食したり、食器を使用せずに食事を提供できるのかを実践しようと考えた。

昼食は日ごろ食べ慣れているおにぎり、おやつは非常食のビスコをそれぞれに食器を使わない方法で園児に喫食してもらった。

非常食を園児に提供した際の反応は良好であったが、提供の仕方、職員間での連携、衛生面での手指の消毒や食具の扱いなどで改善点がみつかり、それぞれに関して改善策を考察した。

改善策を踏まえての再度実践を行い、いかに改善されたかを報告する。

23

当院薬剤部による処方提案の現状について

洛和会音羽記念病院　薬剤部

○松井治幸・飯嶋千帆・植優衣・田村友香
米澤彩・内海美果・岡田悠子

【キーワード】処方提案、処方適正化

当院は高齢かつ透析患者が大半を占めるため、多剤処方となる傾向がある。薬剤部では検査値や患者の状態、投与量を確認し、処方適正化への提案を積極的に行っている。処方適正化への薬剤師の関与・貢献の実態把握のため、提案内容と薬効分類を調査した。

2021年4月から2022年6月の処方提案内容と薬効分類を調査した。

薬剤師による処方提案数は1266件であり、98%が処方変更された。内容の内訳は服薬中止が最も多かった。提案を行った薬剤の薬効分類は、下剤・鎮痛剤が多かった。

提案内容は中止だけでなく、投与量調整や追加、他剤への変更といった提案もされており、より患者に適した処方提案を行うことで処方適正化に貢献しているといえる。

24

音羽リハビリテーション病院における睡眠薬の使用に関する実態調査

洛和会音羽リハビリテーション病院　薬剤部

○西堂美砂・多胡和樹

【キーワード】睡眠薬

高齢者へのベンゾジアゼピン系睡眠薬（以下BZ系薬）の投与は転倒や骨折の副作用のリスクも高く、可能な限り使用を控えることが推奨されている。また、オレキシン受容体拮抗薬（以下ORB）は筋弛緩作用を持たないとされており、安全面に優れていると考えられている。そこで今回、当院でのBZ系薬及びORBの使用状況を調査した。

当院の入院患者を対象とし、2021年4月～2022年6月までの期間における各月の睡眠薬処方患者数を調査し、処方率を算出した。

BZ系薬の処方率が減少しORBの処方率が増加した。

院内においても、安全性を考慮しORBを処方する傾向にあると考えられる。

25

院内がん登録の精度向上への取り組みについて

洛和会音羽病院　医療情報・がん登録統計課
○影山愛佳・小幡夏希・櫻田明日香・中川愛里
助川敦司・石原佳奈・豊本沙織・山川和之

【キーワード】院内がん登録

年々増加傾向にある当院の院内がん登録件数について、昨年登録した2020年症例に関しては1012件となった。しかし詳細な部分を見てみると、術前ステージが不明となっている件数も少なくはない。登録件数が増加している中、精度の高いデータ提出を行う事を目標に、新たな取り組みを行った。

課内の新しい取り組みとして、今年度より『がん登録通信』の発信を始めた。カルテを記載していただく医師を始めとした方々に、当院のがん登録の現状と登録している私達がどのような情報を必要としているかを知っていただく為、医局メールでの発信や医局への掲示を実施した。

26

施設長・職員に対する情報共有の取り組み

子ども未来事業部　TQM委員会
○橋本陽介・阿部直哉・八木信代・西岡麻美・鈴木沙由梨

【キーワード】TQM活動

子ども未来事業部経営管理課より施設長へ伝えたい情報は施設長会議やイントラネットの一斉メールで発信しているが、その場だけの共有になっており、施設長が交代した場合や施設長を新規採用した場合、過去の情報が共有できていない状態となっている。

今回、子ども未来事業部職員への情報発信として「子ども未来事業部通知」を作成。また施設長の細かなルールを記載した「施設長ガイダンス」を作成して情報共有を行った。

「子ども未来事業部通知」を発信し、管理することで、過去に発信した重要な情報を新しい職員も把握することができ、「施設長ガイダンス」を発行することで、施設長から経営管理課への細かな問い合わせも減少し、業務量減少にもつながった。

新しい施設長だけでなく、施設長歴の長い職員も古い情報を再認識することができ、全施設長に有効であった。ただし、「施設長ガイダンス」は情報量も多く、日々更新されるため、今後の情報更新が課題と考えられる。

27

整形外科学会症例登録の取り組みと改善

洛和会丸太町病院　ドクターエイド課
○小林亜矢・中川久美子・徳永恵里佳

【キーワード】業務改善

当課の整形外科担当の業務内容には、外来補助、診断書作成等がある。そこに2020（令和2）年度より学会登録業務が加わった。

2020（令和2）年4月1日に新設された日本整形外科学会症例レジストリーへの症例登録開始に当たり、医師と協議のもと登録の手順を考案した。

当初は電子カルテ内の文書作成に基づき症例登録用紙を作成していたが、医師の増員による手術件数の増加や、登録内容が細分化されたことで入力項目も増え、症例登録が遅滞していた。

そこで、医師に詳細項目を学会のデータベースに直接入力してもらい、登録の効率化を図った。また、人員を補充し、滞っていた症例登録に注力した。

症例登録用紙の作成自体も減らすことにより、効率的な登録を進めることができた。

28

人工膝関節全置換術後の炎症管理に対する取り組み報告

洛和会音羽病院　リハビリテーション部
○南迅人・金悠哲・小林靖典・吉川晋矢

【キーワード】人工膝関節全置換術、炎症管理、リハビリ

人工膝関節全置換術（以下、TKA）後の患者さんは、患部に熱感、腫脹、発赤、疼痛と炎症所見が見受けられる。また炎症管理を行うことで、リハビリが円滑に行えたという報告もある。当院でもTKA後患者さんに対しリハビリと看護師が協働し、早期から炎症管理を導入し、炎症所見の改善を図っている。しかし患者の認知度は低いことが散見された。

そこで炎症管理を導入する方法を検討し、入院時より配布する新たな取り組みを開始した。内容として、下肢静脈還流量を増進させる高挙位・患部炎症に対するアイシング・筋ポンプ率を高める自動運動の3項目で指導書を作成した。

入院時より配布した指導書の導入経過を追い、考察し報告する。

Web版

29

背屈が困難な患者の手根管撮影の検討

洛和会音羽記念病院　放射線部
○櫻田廉・相井勝・中川渉

【キーワード】一般撮影、透析、手根管、改善

背屈が困難な患者に対して通常の撮影方法では手根管が描出する事が困難であった。患者は手根管の治療のために年に1回手根管の撮影が必要となるため、患者の負担が少なく、手根管の描出が出来る撮影方法の検討を行う。

補助具を使用する方法と補助具使用しない方法での撮影を行う。撮影による画像の描出の比較と患者に対する負荷の比較を行う。

補助具を使用していない場合と比較すると補助具を使用したときの方が、描出できる範囲は広くなり、患者の負荷も少なくなった。

背屈が困難な患者に対して補助具と用いた撮影を行うことで、背屈の角度が不十分でも描出出来る範囲は広くなったため、補助具を用いた撮影は有用であると考える。

また、健常者の場合に対しても、補助具を使用することにより再現性の向上にもつながると考える。

30

整形外科術後患者のDVTの割合とその後の経過について

洛和会音羽リハビリテーション病院　臨床検査部
○大口裕樹・関利加

【キーワード】整形外科、術後、DVT、超音波検査、下肢静脈、深部静脈血栓症、D-ダイマー、ADL

当院は病床数186床のうち104床が回復期リハビリテーション病棟である。臨床検査部で実施している下肢静脈エコーの約8割が整形外科の術前検査と回復期リハビリテーション病棟の患者で深部静脈血栓症（以下DVT）の有無の確認のために行っている。当院では整形外科の術後患者においても入院時に下肢静脈エコー検査を実施しているが術前、術後にDVTが確認されていない患者の一定数に入院時検査でDVTを認めている。ADLやD-ダイマーの結果とともに、入院時検査で新規にDVTを指摘した患者を対象に、その割合など、DVTに対する経過を調査したので報告する。

対象期間を2021年4月1日～2021年9月30日とし、その期間に当院検査室にて実施した整形外科術後患者の下肢静脈エコー検査の結果を調査した。

31

圧迫骨折・左内包後脚梗塞によりサービス付き高齢者住宅での生活が困難となった症例
～食事動作のポジショニングに着目して～

洛和会音羽リハビリテーション病院　リハビリテーション部
○吉田匠

【キーワード】食事動作、ポジショニング、多職種連携

本症例は圧迫骨折、左内包後脚梗塞を発症後に食事の自己摂取が困難となりサービス付き高齢者住宅への退院が困難となった80歳代の女性である。当院では早出、遅出介入によりADL動作に対して積極的に介入を行っており、食事姿勢のポジショニングについて多職種間で連携を図ることで退院に至ったためここに報告する。

車椅子での食事姿勢に対してポジショニングの情報共有を行った。

ポジショニング実施後、骨盤後傾位の軽減、食事中の体幹崩れ、口からの食べこぼしが減少した。

ポジショニングにより体幹の崩れを軽減し摂食動作を行いやすい環境に変更したことで単独での食事摂取が可能になったと考えられる。

32

身体介護以外の業務改善を試みて
～腰痛『ゼロ』を目指して～

洛和デイセンター音羽のさと
○橋本恵美・川瀬葉子・原田有子・図師吉将・藤本由里子
奥田ひとみ・松井和子・関野美幸・濵口駿・橋本美砂子
橋本恵美子・岡井忍・後藤洋子・川島恵子・奥田昌子

【キーワード】業務改善

介護には、腰に負担が掛かる動作が多い。現在、DC音羽のさとの介護職10人中、全員が腰痛を持ち、それぞれが腰痛ベルトを着用しながら業務を行っている。そのため、腰への負担を少しでも軽減できないか、業務上の動作の見直しを行なった。

「入浴」に視点を置き、入浴においての負担部分のアンケートを実施。アンケートを元にした業務改善を試みた。

介護職の聞き取りにより、足浴時に自力では足を上げられない利用者の補助をしながら足浴バケツを移動させる動作に負担を感じていることがわかった。

さらに詳しく「負担」についてのアンケートを実施し、足浴時の動作改善を考え、数パターンを実施することで腰に負担なく動作が行なえる方法を見出した。

33

整形外科における術後疼痛管理プロトコール活用とその効果
～ numueric rating scale（NRS）－を用いて～

洛和会音羽病院　看護部　2A 病棟

○北村裕子・小谷由奈・諸永ひかる・新澤かなえ・堀井寿美子

【キーワード】整形外科術後、術後疼痛管理プロトコール、numeric rating scale（NRS）

A 病棟では NRS 評価にて疼痛評価を行いクリティカルパスの医師指示をもとに疼痛管理を行っている。前回の研究において、医師と共に術後疼痛管理のプロトコールを作成し、統一した基準をもって疼痛管理を行っていく事で疼痛軽減に繋がるのではないかと考え実践した。結果、NRS 値の軽減やリハビリ遅延の防止に繋がったという結論に至ったが、対象患者が少なく研究の正当性において疑問が残った。今回は継続して統計をとり、疼痛プロトコールを使用することで疼痛軽減に繋がるか明らかにする。

34

コロナ禍における渉外活動と成果
～ with コロナ時代における地域連携の在り方～

洛和会丸太町病院　医療介護サービスセンター　地域連携課

○北村明宏・蜷川実紗・石田侑奈・前田一
北田景子・松山あど・宅間広幸・伊藤優

【キーワード】地域連携、渉外活動、コロナ禍

2019 年 11 月 1 日に京都民医連中央病院が中京区から右京区へ新築移転した。同じ中京西部医師会の急性期病院が移転したことにより、近隣の開業医（中京西部、西陣、京都北医師会）からの紹介件数増加は必然項目である。2019 年末頃から新型コロナウイルス感染症が全世界に急拡大したことを契機に、医療を取り巻く環境は大きく変遷を遂げた。今回はコロナ禍における渉外活動内容とその成果を検証し、今後の“with コロナ”時代に向けた渉外活動や取り組むべき課題を抽出する。

35

もてなすくんが繋いでくれた
病院と地域との交流

洛和会音羽病院　経営管理部

○桐生実歩

【キーワード】感謝、地域交流、繋がり

コロナ渦において、地域の皆さんからたくさんの励ましや応援の声、感染予防へのご協力をいただいた。そこで、今度は病院側から地域の皆さんへ「感謝」の気持ちを伝えようと企画した。

〈方法〉
- 山科区のキャラクター「もてなすくん」とコラボレーションした
- 音羽 3 病院の職員から「感謝」のメッセージカードを募った
- 院内掲示、巡回バスラッピング、ホームページなどで発信した

〈効果〉
- 地域の方々や職員から反響があった
- 病院と地域との交流の輪をさらに広げることができた

コロナの影響で人との距離が疎遠になりがちであったが、今回の企画を通じて「感謝」や「思いやり」など“心の繋がり”を感じるきっかけとなった。そして、それはアフターコロナにおいても今後の地域交流に活かせると考える。

36

メール営業の取り組み

洛和会音羽病院　医療介護サービスセンター　地域連携課

○善本紗世・平島正基・吉田純・倉田明人
東浦まどか・森田真一郎・林可奈子・片山翔也
宮田達行・木村あゆみ・中前則江・井上京子

当課では日々、紹介患者獲得のために様々な営業活動を行っている。今般、新たな取り組みとして電子メールを用いた営業を開始した。このメール営業には2つの目的がある。1つ目は“営業の効率化”。タイムリーな情報を一斉に配信できるため、訪問と比較して時間効率は圧倒的に高い。その分、営業担当者は面談が必要な訪問に注力できる。2 つ目は紹介受け入れ部門の事務員が営業に参画することである。これにより部署全体の意識が高まり、開業医の先生方の満足度につなげることができる。地域の開業医の先生や他病院からの紹介患者の獲得、および密接な連携を構築する新たな営業の手法として当課が取り組んでいるメール営業についての現状の結果や工夫しているポイントを発表する。

Web版

37

介護支援等連携指導料の算定向上に向けた連携の取り組みに関して

洛和会音羽病院　医療介護サービスセンター　入退院支援相談室

○久世佑己・伊達豊・深田悠紀・岩木友加
岡本愛佳・梅田さつき・佐々木貴大・三並美紗
小林陽一・大串友見・栗原勇介・上白土景子

【キーワード】診療報酬、連携の質

退院支援連携の一つに介護支援専門員（通称：ケアマネジャー）と連携指導を行うことで加算がとれる介護支援等連携指導がある。対面で本人・家族、ケアマネジャー、社会福祉士が共同指導を行うことが条件とされている。

しかし、コロナ禍での連携指導の機会の確保が難しく、加算実績数は激減していた。

新たな連携の方法を柔軟にとり入れることで、安定した算定と連携の質を重視した退院支援の確立を目指したい。

コロナ禍での介護支援等連携指導料の加算実績数を参考に、3年間の推移を分析する。

令和元年に比べるとコロナ禍を経験していくにつれて、加算実績数は以前の水準近くまで回復してきた。

連携指導の場において、指導内容をiPadで事前撮影したりオンライン面会をしたりと対面以外の代替手段を複数用意しておくことで、面会制限に関わらず、滞りなく一定の質を担保した退院調整と加算実績数の維持・向上が望めることが判明した。

38

カンフォータブル・ケアがもたらすスタッフへの効果

洛和会音羽病院　看護部　2C病棟

○鴨川裕臣・水上愛里・大西伶於・江口由美子・辰巳弥生

【キーワード】認知症、カンフォータブル・ケア、効果

スタッフは認知症患者の同じ訴えに対応しきれず、粗末な対応となり、行動・心理症状等を憎悪させ、更にスタッフもイライラするという悪循環に陥っている。カンフォータブル・ケアを取り入れ、患者に丁寧に対応することで、双方のストレスが軽減し、患者とスタッフがより良い関係を築きけるのではないかと考えた。

上記を行い、課題を明確に出来たので発表する。

39

地域医療連携システム導入後の訪問効果について

洛和会音羽記念病院　医療介護サービスセンター　地域連携課

○二宮稔之・坂井良幸・廣瀬広徳

【キーワード】DX（デジタルトランスフォーメーション）

当院では、2022年5月より地域医療連携に特化した連携活動サポートツール「foro CRM」の導入をした。以前は別々で管理していた医療機関や介護施設への訪問実績と紹介実績が一元管理できるようになった。分析作業の時間削減と効果的な訪問を実現する狙いがある。

日々の訪問活動で得た営業情報を入力。また、入院紹介、外来診察紹介、通院透析紹介、オペ件数の実績データを「foro CRM」へ反映させる。

個々のエクセル管理から組織としてのシステム管理に一元化できた。

システムを活用し、ターゲットを絞ったり、効率的に訪問予定を計画しやすくなった。

訪問前と訪問後の効果検証が素早くできることで、PDCAサイクルを高速で回すことができた。

40

紹介件数増加への取り組み

洛和会音羽リハビリテーション病院　医療介護サービスセンター　地域連携課

○木下茂・家入寛享・宗清正晃

病床稼動を安定させるには、その状況に見合う紹介件数が必要である。当院が目指すのは「選ばれる病院」である。そのためには紹介をもらう関係機関に当院の魅力をより伝える必要があった。

営業でメディカルスタッフ（リハビリ、看護師、MSWなど）と同行訪問を行い、関係機関にリアリティのある説明を行った。

紹介件数が増えた（紹介がある関係機関だけではなく、紹介がなかった関係機関からも）。営業で地域連携課が担う役割が明確になった。関係機関が必要とする情報を具体的に伝えられた。

当院の魅力を伝えるには関係機関に具体的なイメージを持ってもらう必要があり、メディカルスタッフが対応することで良い効果が得られた。同行営業ができるようメディカルスタッフとの関係性を構築することが地域連携課にとって重要である。

41

回復期リハビリテーション病棟における看護師・リハビリセラピストとのチームアプローチに関する看護師の認識

洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　4A 病棟

○西田妃菜・寺川香・小森やよい・馬野いずみ

【キーワード】チームアプローチ、回復期リハビリテーション、連携

回復期リハビリテーション病棟は、リハビリで獲得した日常生活動作を、病棟の入院生活場面でも安全に行えるように支援する役割を持っている。そのためには、セラピストと看護師との連携が必要である。そこで、A 病棟では 2021 年 8 月より、リハビリ訓練とは別にセラピストが病棟の早出遅出勤務を行うという形で、患者の生活場面に介入する取り組みを開始した。今回、本取り組みに対して看護師がどのように認識しているのかを明らかにすることを研究目的とした。

A 病棟で夜勤勤務をしている看護師 5 名を対象に、半構成的面接法を用いてデータ収集を行い、内容分析したので報告する。

42

居宅介護支援事業所へのバトンパス

京都市音羽地域包括支援センター

○竹部理恵・五十棲美佳・牧優子・中野隆行
森本法恵・梅野愛澄・上田恵理子・松田栄美子

【キーワード】連携

地域包括支援センター（以下、包括）では、圏域の高齢者の相談窓口業務を行っている。要支援・要介護認定を持っていない方から困難ケースなど様々なケースに関わる中、包括では担当できない「要介護」認定を持っている方の相談を居宅介護支援事業所へ引き継ぐ。

直近半年の相談記録を元に振り返り、法人内部・外部それぞれ相談先である居宅へのケース相談数を数値化する。

上記の方法により調査した結果、偏りが生じていることに気付き、居宅介護支援事業所との連携について包括内で検討した結果を報告する。

圏域内の居宅とより良い関係性を築き、利用者へ質の良いマネジメントを経て介護サービスに繋げるにはどのようにしたらよいか考察した。

43

訪問看護での多職種連携における医療用 SNS の効果
～京都市内の訪問看護ステーションでの現状調査～

洛和会訪問看護ステーション壬生

○山田梨衣佳・渡邉清江・柴崎美登子

【キーワード】訪問看護、多職種連携、情報共有、在宅医療、医療用 SNS

本研究では京都市の訪問看護ステーションにおいて、医療用 SNS が多職種連携にもたらす効果を明らかにすることで、地域の在宅医療連携の強化を検討する際の基礎資料とする。

医療用 SNS を活用している訪問看護師および管理者を対象に、半構成的面接法にて、医療用 SNS が多職種連携にもたらす効果についてデータ収集を行い、内容分析を用いて分析した。

結果、【速やかなでリアルな情報共有と意思決定】【時間や場所にとらわれない情報交換】【スムーズな運用のための環境整備の必要性】【普及率の低さによる使いづらさ】の 4 カテゴリーが抽出され、医療用 SNS の効果と課題が明らかになった。

44

癌末期利用者、家族への意思決定支援
訪問看護師と他職種連携の重要性

洛和会訪問看護ステーション右京山ノ内

○宮川実樹

【キーワード】癌末期利用者、訪問看護、意思決定支援、他職種連携

癌末期の新規利用者は、最期をどこでどのように迎えるか決定していない事が多く、利用者、家族は不安や戸惑いから気持ちの揺らぎがある。訪問看護師は意向を確認しながら様々な可能性を提示しているが、病状が進行していく焦りから、利用者、家族と認識のずれが生じることがある。今回、丸太町病院の外来看護師、相談員、ケアマネジャーと情報共有や連携を図ることで意思決定支援につながったため、その経過を考察する。

癌末期利用者とその家族の訪問開始時の反応や言動と、他職種連携しながら在宅生活を続ける中での変化について 2 事例あげ、それぞれ比較、考察する。

2 事例それぞれに、症状悪化に伴い思いが変化していった。訪問時の状況を医師、外来看護師、相談員と共有し、往診の導入の提案や緩和ケア病棟の紹介、訪問看護でアプローチしきれない部分を他職種よりアプローチし、連携を図った。また、ケアマネジャーや訪問介護と連携し介護サービスの充実を図り、利用者、家族の介護負担軽減につなげることができた。

Web版

45

グループホームとのより良い連携を目指して
～ロールプレイングを用いた考察～

洛和会訪問看護ステーション醍醐駅前

○山村優子・堀江祐子・久保田延恵
阿部真木子・佐名木勇・木村春美

【キーワード】 ロールプレイング、電話対応、訪問看護師
介護職

当ステーションでは3箇所のグループホームと医療連携をとっているが、GHスタッフからの電話連絡において、入所者様の状態把握に苦慮することがある。同時にその時の看護師の対応が適切だったのかと不安が残ることもある。今回実際の電話対応について、振り返りをするためにロールプレイングを用いて検証を行った。

電話対応について出来るだけ細かに書き取り、ケース型ロールプレイングとして実施する。看護師と介護職の配役を決めて演技し、気づきと振り返りを行い看護師の対応で改善できる点について検証する。

ロールプレイングを通して受け手が欲しい情報を引き出すにはどう誘導すれば分かりやすいか意識づけができ、電話のやり取りがこうなってほしいという理想を考えるきっかけとなった。他者の対応を見て「なるほど」や、「自分ならこうしたかな」とイメージする機会になった。

ロールプレイングは自身の振り返りと共に他者の実践の良いところを学ぶ事ができ、同じような場面に遭遇したときに焦らずに対処する潜在的な力になっていくと考える。

46

看護師によるグループホーム職員への「看取りの安心勉強会」前後のアンケート調査結果と勉強会実施の効果について

洛和会訪問看護ステーション四条鉾町

○青山佳代子

【キーワード】 看取り、グループホーム、教育、多職種連携

近年国の政策や社会情勢により、在宅や施設での療養や看取りが増加しており、その場所のひとつにグループホーム（以下GHと略す）がある。

担当GHも看取りの経験があるが、不安の中ケアを行っているのではないかと感じ、看取り期における支援の質向上につなげるためには、GH職員が知識や技術を身につけることで不安の軽減や、訪問看護師との連携がはかりやすい環境をつくることが重要ではないかと思い、今回勉強会やアンケートを実施した。

当訪問看護ステーションが定期訪問している事業所のGH職員に対し、看取り勉強会前後に看取り期の支援についてアンケートを実施。

勉強会実施前のアンケート結果では、看取り期の支援に不安があるスタッフが80％おり、内容としては支援の方法や看取り時の対応についての不安が多かった。

そのアンケートを基に勉強会を開き不安が軽減する結果となった。

看取り期に関わるスタッフは常に不安を抱えている。看取り期に必要な視点を習得することで不安の軽減ができると考える。

医療連携を行っている看護師が看取り期の課程を段階的に指導し、連携しやすい環境をつくらなければならない。

47

コロナ禍で出来る幼老交流

洛和グループホーム桂

○宍戸美希・井上多代・中村徹也・今岡一哉
福本ゆか・竹内瑞貴・福田信子・前嘉代

【キーワード】 交流活動

当事業所は小規模保育園と併設しており、幼老交流で園児の存在は利用者にとって笑顔や元気をくれる大きな影響力がある。感染予防の観点から交流が少ない状況であった。感染対策を万全に講じながら、交流をする為の方法を模索した。

保育園と管理者でお互いの活動可能時間を検討。直接交流が難しい為ICTを活用し、お互いに画像を通して交流が出来ないか。ライブで繋がる事で会話も楽しめると考え、準備を整えた。

1階ユニットは菜園側に大きな窓があり、日常的に園児と交流が図れるが、2階ユニットは交流が難しい為Skypeを使用した。画面からの園児の姿にとても素敵な表情や笑顔を見せて下さった。

コロナ禍で家族との関わりもままならない中で、園児との交流で利用者さんの感情が豊かになり、温かな空気感にユニットが包まれた。

制限のある中で交流できる環境を整える事が、利用者さんの望み・求められている事と考える。

48

コロナ禍における幼老統合ケアの難しさと今後の課題

洛和グループホーム桂川

○森陽子・陰山いづみ・黒木しずか

【キーワード】 コロナ禍、幼老ケア

コロナウィルス感染拡大により、感染予防対策を徹底している。その中で幼老統合ケアは以前まで直接の交流を行っていたが、交流を中止せざるおえなくなった。保育園、グループホームでの幼老統合ケアをどのように継続する事が利用者さんにとって有益なのか検討して取り組んだ。

直接的な交流を中止してからは、非接触にて交流を行ってきた。（プレゼントの作成やクリスマスオーナメントやフラワーアレンジメントの作成など）

利用者さんにとって保育園の園児に会う事が、幼老統合ケアの交流の最大の楽しみであった。非接触での交流では、顔を見る事も少なく、何かを作成しても普段のレクレーションの延長線でしかなく、利用者さんの反応は思ったほど良くなかった。

スカイプなど直接ではなくても顔を見て一緒に何かをする時間を持つ事が、利用者にとっての楽しみやADLの向上に繋がると考える。今後検討、実践していく。

49

コロナ禍における幼老交流の実践

洛和大塚みどり保育園
○浅井はるか・髙橋めぐみ

【キーワード】幼老交流、幼老統合ケア

当園は緊急事態宣言が発令された2020年4月に東京都文京区で開園した。コロナ禍において高齢者と乳児の健康・安全を守りながらどのように幼老交流を行っていくのか、併設する文京大塚みどりの郷とともに摸索してきた。ニューノーマルな洛和式幼老統合ケアの実践について報告する。

〈方法〉

①共同制作やフラワーアレンジメントを介した交流
②動画のプレゼント
③ZOOMでのおやつ交流

手探りの状態で始めたが、様々な交流を重ね2年半が経った現在では、子どもと利用者のみだけでなく、多職種（多世代）職員との関わりも増え、子どもたちが人見知りすることなく利用者や職員に挨拶をしたり話しかけたりするようになった。

回を重ねるごとに見えてきた課題を相互に改善し工夫を続けたことで、オンライン上でも積極的な交流を促すことが出来た。また、施設全体での多職種連携が生まれたことで、子どもたちと利用者の福祉向上にも繋がり、当会の目的である「洛和式幼老統合ケア」に一歩近づけたと感じている。

50

ICUリハビリチーム発足による効果と課題

洛和会音羽病院　リハビリテーション部
○大塚裕太・坂本恭矢・川勝陽平
倉壮二郎・山﨑岳志・吉川晋矢

【キーワード】リハビリ、多職種連携、ICU

ICUでの早期リハビリテーション（リハ）は強く推奨され、ICUリハビリチームを発足しその効果と課題を検証・検討した。

ICUから令和3年4～6月に処方された患者76名と令和4年4～6月の患者103名の2群間で比較した。評価指標は在院日数やリハ期間、リハ単位数などとした。統計処理はマンホイットニーのU検定を用い、有意水準は5%とした。

令和4年群おいて在院日数とリハ期間が有意に短縮し、リハ単位数は有意差を認めなかった。

勝山らは早期リハに影響を与える多職種連携として、①チーム内連携②教育・訓練③情報共有④他職種理解を挙げている。カンファで患者情報を共有することで①②③が充実し、安定した早期リハ介入が在院日数短縮の一要因となったと考える。

51

当院におけるCCOTチームラウンドとWarried Callシステムの現状と今後の課題

洛和会音羽病院　看護部　ICU/CCU
○吉田麻美・長谷川智子・倉本真智子
船田紗葉・兼田知弥・鬼束直希

【キーワード】CCOT、RRS、チームラウンド

当院では、患者が呼吸停止または心停止状態など発令基準に該当した場合にコードブルーシステムを導入しているが、あくまで急変時に発令されるもので、状態変化を未然に察知し対応できる体制が十分でなかった。そこで、患者の状態変化を未然に防ぎ、院内急変やコードブルーの件数を減らすために、ICUメンバーをもとにCritical Care Outreach Team（以下、CCOT）を結成し、ICU退室患者のラウンドを開始した。また、病棟から要請を受けた患者に対する相談システムであるwarried Callも同時に導入した。活動開始6ヶ月経過後のCCOTチームラウンドとwarried Callシステムの現状を調査し、今後の課題について報告する。

52

「人任せなAさん」から「自ら行動出来るAさん」へとCMの捉え方が変化した事例
～就労継続支援B型への通所をきっかけに～

洛和会医療介護サービスセンター四条鉾町店
○片山治子・赤島美佐恵・戸島智子
森友野・橋本知香・伊藤智行

【キーワード】ケアマネジメント、精神障がい者支援、他職種との連携、自立支援、再アセスメント

精神疾患を抱えながら高齢の母と暮らす利用者への支援には自立支援が必要とされる。本事例では、ケアマネジャー（CM）が自立を意識するあまり、適性や意向を十分に確認しないまま、CMのペースで支援を進めてしまった。本人の適性やペースに合った支援を行う為に、CMが留意すべきことを考察する。

事例を振り返り、検証した。

専門職につなげることで新たな視点が加わり、CMの本人への捉え方が変化した。その結果、一方的な支援から本人が自ら行動出来ることを探す支援へと方向性が変わった。

本人の適性やペースに合った支援を行うためには、①専門職につなげて再アセスメントを行うこと、②本人の声や行動から「力」を図ることが必要と考える。

Web版

53

蘇生困難なCPA症例患者の家族へのグリーフケアの現状と課題
～3次救急医療を担うERスタッフの語りから～

洛和会音羽病院　看護部　救命救急センター・京都ER

○金澤柾人・森末千春・平野未来・村田旭

【キーワード】蘇生困難事例、CPA、ER、家族看護、グリーフケア、3次救急医療

3次救急医療では、心肺停止（以下、CPA）状態で搬送される患者も多く、先行研究では救急医療に関わる医療者は遺族ケアの必要性を認識しているがその実施率が低いことを報告している。予期せぬ出来事に動揺する家族が適切な受容過程を辿り、病的悲嘆に陥らない為にも早期からの遺族へのケアが必要と考える。そこで、本研究は、蘇生困難なCPA症例の家族へのグリーフケアの現状と課題を明らかにすることを目的とした。

3次救急において蘇生困難なCPA患者を担当したER看護師を対象に、半構成的面接法にて蘇生困難なCPA症例患者の家族へのグリーフケアの現状と課題についてデータ収集し、内容分析を用いて分析した結果を報告する。

54

看取り面会時の看護師の関わりが家族へ与えた影響
～患者に依存的であった家族が受容できた事例を用いて～

洛和会音羽病院　看護部　3D病棟

○佐藤里菜・片岡梨那・藤本貴久・福田紘

【キーワード】看取り、家族看護

心不全増悪にて看取りの方針となった90代女性A氏。熱心に介護されていた一人娘の長女は「自分で看病したい」と強く思い、A氏に対し依存傾向にあった。面会制限もありそばに寄り添うことができないまま生命徴候の低下を認めたA氏を前に、長女は入院治療を行っていることに自責の念を感じていた。廊下越しで声をかけたり、着替えをこまめに届けてくださるなど長女のそばにいてあげたいという思いはA氏に届いていると伝えた。A氏の思いを代弁することで長女の言動は徐々に悲嘆的なものからA氏への感謝に変わり、穏やかにA氏の最期を看取ることができた。今回の関わりについて振り返り、看取り時の看護師の関わりが家族に及ぼす影響について考察した。

55

在宅看取りケアの振り返り
～終末期がん療養者の看取り支援～

洛和会訪問看護ステーション大津

○田中文恵・裏加久子・前道智絵・坂口里香
秋元浩伸・山内利希・大内裕美・東山智美
大伴みらい・相楽朱美・藤田由子・西本由理佳

【キーワード】在宅看取り、終末期ケア、達成、共感、家族支援、フローチャート、多職種連携

だれもが満足のいく在宅看取りは経験することが難しい。今回、家族と共に「全員」で看取りができ、共感し達成感のある事例があった。なぜ理想的な看取りが達成できたのか、この課程の中で支援や看護過程が適切であったか、事例検討しそれが今後のスキルアップのつなげられることを目的に考察した。

事例研究し、日々の看護記録の中から支援の概要、状態変化、本人家族の思いなどのフローチャートを作成し、カンファレンスで共有した。

フローチャートにしたことで改めて対象者また家族様へ提供してきたケア内容や支援のタイミングなど、振り返ることができ、今後の課題を確認することができた。

課題は残るものの、利用者やご家族の意思確認をその都度確認し、気持ちに寄り添いながら、多職種連携を強化することでチームが一丸となり、だれもが満足いく在宅支援に出来たのではないかと考える。

56

多様化するターミナルケア
～ご利用者・ご家族に寄り添う看取りとは～

洛和グループホーム右京常盤

○中川文恵・二階職員

【キーワード】認知症、ターミナルケア、看取り

どのような「最期」を迎えられるか、望まれるかはご利用者、ご家族によって様々である。ニーズに合わせた看取りケアを行えるように、実際のケースについて検証を行う。

ご本人やご家族が看取りでどのようなニーズを持っておられ、それに対して、どのようなケアを行ったのか、カンファレンスで看取りの振り返りを行い、良かった点と今後改善できる点について整理する。

ご家族の希望もあり、医療行為が必要な方、必要でなかった方、短期間の看取りであった方など「最期」の迎え方は様々であった。ご利用者やご家族のニーズによって、看取りも様々であった事を知り、職員の視野も広がった。

多職種と連携をとることが、より良い看取りケアを提供できることに繋がると改めて気づけた。ご家族の思いを傾聴し、多職種で意見交換し、ご利用者と最期の時を過ごされるサポートを行うことが出来た。事例からの気づきを今後の看取りにも生かし、ご利用者やそのご家族の気持ちに寄り添ったケアを行えるようにしていきたい。

57

地域連携医との「看取り」に関する事前研修を経て
～新人職員の心の動き～

洛和グループホーム西ノ京

○大槻幹子・尾花里佳子・星屋裕貴枝・西澤正英
小幡有紀・定免玲子・田中明美・山下大貴

【キーワード】看取り

「看取りって何？なんか怖いイメージがあります」とある新人職員の一言からどのように支援していけばいいのか、新人職員の心の変化をチームで考察することとした。

地域連携医対応のご利用者が体調悪化に伴い食欲低下状態が続いた。身体機能が低下していく利用者の今後を見据えてzoomでの看取り対応の事前研修をして頂いた。

看取りに対応に伴い、関係者を交え、話し合い、看取りをする事となった。学んだことを生かし対応する中で、不安が徐々に取り除かれ怖がる事なく「見守る事」を実践できるようになった。

新人職員は穏やかにその人らしく過して頂くための看取り対応を通じ経験や知識を得る事が出来た。個々の状態に応じた関わりから、新たな手技の有用性についても学び、今後、新たな知識と視野を広げる事ができた。今後も各々の方に合わせた対応をしていくには介護職員の新たな技術面の向上と寄り添う心が必要だと言える。

58

家族の思いに寄り添う看取りケア

洛和グループホーム宇治琵琶

○由里さおり・大門眞弓・大戸典子・富田晶子
石田恵美・岡本祐美子・新井晴佳・藤井弘子

【キーワード】看取り

当グループホームは10年前より10名の看取りを行っている。A氏（90歳代）体調悪化に伴い家族、往診医、訪問看護師、職員で看取りについて話し合い行い、家族は延命治療を希望せず住み慣れたグループホームでの最期を迎えたいとの思いで、看取りが開始となる。

話し合い2か月後より嚥下機能が低下し、水分が摂取できなくなる。家族は延命治療を希望しないと言われていたものの、これでいいのか、病院に行った方がいいのか等、迷い葛藤があった。

何か出来る事があればしたいという思いがあり、医療従事者が家族の思いを汲み取り、グループホームで点滴を行う事で家族にとって看取りが悔いのないものになった。

今回医療従事者との連携を行う過程で、日々の情報共有の大切さを痛感した。その過程と取り組みについて報告する。

59

グループホームでの最期を見守る
～チームケアで取り組んだ看取りについて～

洛和グループホーム大津

○吉岡由香・明石かおり・藤井清恵・西村征也・大川れいか
松宮香枝・木村由紀恵・土屋美和子・永井智子

【キーワード】看取り

利用者が欲していないのに、食事介助を頑張りすぎていたという前回の反省点を踏まえて、今回は利用者の意思を尊重し『無理強いしない』ということを念頭に看取りのケアを行った。

90代後半の女性は亡くなる1か月ほど前から食事量、水分量が減少。医療職とも連携し口腔ケアを重点に口腔内の乾燥緩和に努めた。居室で過ごした最期の1週間は、ご本人の思い出の曲を流し、また職員が居室前を通る際には声掛けをして、孤独感を抱かせないよう心がけた。

職員に「少しでも食べてほしい」という思いがあったことは事実だが、利用者本位を念頭に、自分たちの出来ることを実践した。最期の1週間は利用者、職員にとっても穏やかな時間を過ごせた。

利用者本人の立場で考え、ケアしたことが利用者の思いに寄り添うことになると改めて感じた。また今回の看取り後にデスカンファレンスを行ったことは、振り返りとなるとともに、今後の看取りケアへと繋がると考える。

60

肺がん末期、治療を終え
自宅での生活を支援するために

洛和ヴィラ桃山居宅介護支援事業所

○宇野さやか・佐々木まり・西谷久美子
塚本智・田野美幸・嶋澤香織

【キーワード】多職種、役割、連携、ターミナル、退院支援

〈背景・目的〉

居宅ケアマネジャーとして初めて担当したケースが肺がん末期でターミナル期の退院支援であった。ご本人の意向に沿った望む暮らしの実現に向けてケアマネジャーとしての役割を考える。

〈方法〉

ヒヤリング（支援終了後に、対象事業所とご家族に対し実施。）内容：（在宅での、ターミナル期における細かな調整や配慮が必要な点や、多職種連携のために実施していることについて文書で回答）結果をもとに事業所内で事例検討。対象者：ヘルパー・訪問看護・福祉用具・家族

ヒヤリングの結果、大切なことは包括的ケアの必要性を把握し対応することである。ターミナル期は人それぞれに思いがあり、一人ひとりの利用者にとって何が良いのかを話し合う場を持ち、目標を共有することが重要であると気付くことができた。

それぞれの意見を話し合えるコミュニケーション環境を整えることもケアマネジャーが担う役割の一つである。それぞれの職種や家族間の役割を明確化したことにより、ご本人及びご家族の精神的負担の軽減につながったのではないかと考える。

Web版

61

認知症患者への集団回想法における絵本の読み聞かせについての一考察

洛和会音羽病院　臨床心理室
○外川由佳
洛和会音羽病院　看護部　2C 病棟
辰巳弥生

【キーワード】認知症、集団回想法、読み聞かせ

音羽病院 2C 病棟では、認知症患者の対人交流の機会の増加や気分転換を目的に、週に一回集団回想法を行っている。その中で、年 4 回、季節ごとに絵本の読み聞かせの時間を設けており、絵本よって患者の反応に大きな違いが見られた。認知症患者への絵本の読み聞かせの効果について検討する。

認知症病棟での絵本の読み聞かせについてのこれまでの記録から分析する。

62

学習の困りを主訴に来院した子どものK-ABC Ⅱに見られる認知処理能力とその後の支援の検討

洛和会音羽病院　臨床心理室
○大杉一葉・堀村琴恵・田村紘一・外川由佳・中島陽大
洛和会音羽病院　小児科
澤村桃子・井本博之・宇留野圭・前田真治
洛和会音羽病院　看護部　外来
西本忍

【キーワード】子ども外来、発達障害、心理検査、学習障害

「子どものこころと発達相談外来（子ども相談外来）」では、発達障害を始めとした日常生活における困りを主訴に多くの児童が来院している。その患者に対し、個々の主訴に応じて様々な心理検査を用いて評価を行うが、その中で認知処理能力に焦点を当てた検査であるK-ABC Ⅱを用いた事例を取り上げ、結果を比較し主訴との関連を検討する。

対象者：これまでに子ども外来を受診し、かつK-ABC が実施された患者。分析方法：それぞれのK-ABC Ⅱのデータを用い、記述統計を行う。

63

知的水準と適応行動水準にディスクレパンシーが見られた中学生の症例

洛和会音羽病院　臨床心理室
○中島陽大

【キーワード】神経発達症、適応行動、心理アセスメント

小児の発達アセスメントでは、知能検査は実際の社会適応を必ずしも反映しておらず、適応行動評価の必要性が報告されている。本研究では中学生の事例を取り上げ、適応行動評価の重要性と支援について論じる。倫理的配慮：症例発表について了承を得ている。

中学生男児。嘘言癖を主訴に心理カウンセリング外来を受診。KABC-ⅡとVinland Ⅱを実施したところ、両者にディスクレパンシーが認められ、知能水準に比して高い適応行動水準が示された。

Vinland Ⅱを実施したことで、適応行動応行動の高さを活かした支援策が本人と家族、教員との間で話し合われ、将来の進路を見据えた合理的配慮の実施に繋がった。

適応行動水準も評価することによって、生活年齢と比較した現在の社会スキルが明確にされたことで、今後の具体的な支援策立案に役立った。

64

アルコール依存症の疑いを有する患者への久里浜式スクリーニング検査の活用上の課題と検討

洛和会音羽病院　臨床心理室
○田村紘一・西輝人

【キーワード】アルコール依存症、久里浜式スクリーニング検査

音羽病院に緊急入院してきたアルコール依存症のエピソーを有し、自殺企図のある患者に対して、アルコール依存症のスクリーニング検査として妥当性のある久里浜式アルコールスクリーニング検査受検の上、併せて心理士による聞き取りを行った。そのことで、患者が体験している日常的な飲酒による失敗やエピソードの信頼性を問い、本検査における臨床の上での活用上の課題と検討を行いたい。

患者の飲酒エピソードと久里浜式アルコールスクリーニング検査における回答項目及び聞き取り内容との比較検討。

65

洛和会メンタルサポート室利用者の動向

洛和会メンタルサポート室
○林たみ子

【キーワード】メンタルサポート、事業所内相談室、利用者動向

事業所内相談室として洛和会メンタルサポート室が発足して2年半になる。2年半の利用者動向をまとめ、事業所内メンタル相談室としてより有効に機能するための今後の課題を検討する。

2020年4月～2022年9月の新規利用者の特徴について複数の視点から分析する。

66

筋強直性ジストロフィー患者への看護アプローチ
～「自分らしさをお手伝い」～

洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　2A病棟
○木下柚希乃・間嶋希依・辰山ひとみ・大橋由基・堀由佳

【キーワード】筋強直性ジストロフィー、自分らしさ、QOL

当院の医療型療養病床の平均在院日数は150日（2022年3月時点）であり、患者にとって「QOLの向上」「その人らしく」を支えるケアを提供していくことは、看護上の課題である。

A氏（50歳代女性）は、筋強直性ジストロフィーであり、家庭環境の理由から、自ら在宅で過ごす選択はせず長期入院中である。

音楽療法では、笑顔も多く見られた。担当療法士より、A氏の言葉を歌にしてみたいとの提案があった為、看護師は、A氏の「自分らしさ」を引き出せるチャンスと考え、音楽リサイタルを企画、開催した。

今回、進行性疾患を抱えながら入院生活を送る患者のナラティブを分析し、患者の好きな音楽を通して、「自分らしさ」を支援する看護を実践した事例を報告する。

67

神経難病患者の摂食嚥下機能療法による摂食・嚥下能力の維持に関する効果

洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　2B病棟
○武村真凜・北川佳世子・辻琴美・西山潤・川勝安奈

【キーワード】神経難病患者、摂食嚥下機能療法、摂食嚥下能力

A病棟は一般障害者病棟で、神経難病患者が7割を占めている。神経難病は進行性であるため、嚥下能力の低下により誤嚥性肺炎を併発する場合もある。そのため、昨年10月から神経難病患者を対象に摂食嚥下機能療法を開始したが、介入方法がマニュアル化されておらず、統一した介入ができていなかった。そこで、本研究は神経難病患者に対して統一した摂食嚥下機能療法を行うことで摂食・嚥下能力の維持に関する効果を明らかにすることを目的とした。摂食嚥下療法を行っている神経難病患者5名を対象に、頬のマッサージ、喉のアイスマッサージ等の統一した方法で摂食嚥下療法を、40日間、毎日昼食前に30分実施し、嚥下状態を評価したので報告する。

68

オンラインで結ぶ地域ケア会議
～若年性認知症50代女性が実家に戻って暮らすための支援～

居宅介護支援事業所坂本
○松清洋子

【キーワード】若年性認知症、地域ケア会議、家族支援、コロナ禍、オンライン

若年性認知症が短期間で進行し、中国地方で暮らす高齢両親の元へ帰るための支援を行なった。オンライン会議を通じて居住地と中国地方の地域包括支援センターとで地域ケア会議を複数回開催した。オンライン会議の有効性について報告する。

ケアマネジャーから双方の地域包括に提案。支援者全員が参加できるように1ヶ月前から日程調整、事前に接続テスト実施。本人・家族は支援者と一緒に参加できるように協力を依頼。主治医・ケアマネ・訪問看護・デイからの情報提供事前配布。

〈結果〉
- 第1回地域ケア会議　参加者14名（本人含む顔合わせ）
- 令和4年5月第2回地域ケア会議　参加者18名（転居後の支援）
- 転居後の地域包括から転居前の支援者が見たことがないような笑顔の写真が送られてきた。

若年性認知症の本人と高齢の両親の転居に伴う不安感、受け容れ側の不安感の両方を解消するためには顔が見える関係構築が必須であった。コロナ禍でオンライン会議が普及したことで、スムーズな連携が可能となった。

Web版

69

難病利用者へのリハビリテーション
～活動・参加へのアプローチをした一症例～

洛和会訪問看護ステーション坂本

○山田友子・春井建人・八車美佳

【キーワード】在宅リハビリテーション、神経難病、活動・参加、園芸活動

近年、在宅のリハビリテーションでは、利用者の機能面へのアプローチのみでなく、活動・参加へ焦点をあてたアプローチを実施すること、利用者の活動・参加を促し自立支援を図ることが重要であるといわれている。

神経難病と左片麻痺を併発している利用者を担当した。機能面のアプローチに加え、趣味である園芸活動をリハビリテーションプログラムに取り入れ、活動・参加へのアプローチを実施。

機能訓練である屋外歩行練習へのモチベーション向上にもつながり、ADL の維持ができた。

利用者の現状の身体能力を評価し、可能な動作の中で生きがいとなる趣味や役割を提示すること、身体機能面だけでなく活動・参加へアプローチすることが重要である。

70

本態性振戦に加えパーキンソン症状を抱える利用者の安心・安全な生活を考える

洛和グループホーム大津若葉台

○水野俊和・五十嵐千秋・由良美香・大藤綾美
池田直栄・田川亜希子・田中裕美・吉岡仁

【キーワード】認知症

グループホーム入居当時より、本態性振戦とパーキンソン症状に加え認知症の進行に伴い歩行中の転倒を繰り返し受傷されるケースが多く発生。また食事動作について、振戦症状がある為に上手く口に運ぶ事が出来ず、食べこぼしや食器をひっくり返してしまう

場面が見られていた。またコミュニケーションにおいては上手く言葉で表現する事が困難な状況にある。それら度重なる失敗体験が精神的な緊張が高まりストレスの増強と振戦症状の悪化に繋がっている。

生活のしづらさの背景から、本人の気持ちを汲み取れ安心安全に過ごして頂く為、医療関係者や PT・ST の協力を得ながら職員間で検証し、食事面や歩行等ケア方法改善の取り組みを報告する。

71

新型コロナウイルス感染による ADL・認知機能低下からの回復に向けた取り組みについて

洛和ヴィラ天王山

○川脇鈴花・文田涼・坂田眞琴・辻本大輔
荒井アヤ子・杉浦咲季

【キーワード】新型コロナウイルス、生活リハビリ

ユニットにおいて新型コロナウイルスに 3 名のご利用者が感染し、全 9 名のご利用者に感染対策として収束までの 11 日間を居室内で過ごしていただくことになった。これにより多くのご利用者の認知機能や ADL が低下した為、早期の回復に向けて取り組んだ。

まず、認知機能の回復を目標に言葉かけやコミュニケーションの回数を増やし、さらに濃厚接触や密にならない範囲での集団レクや個別での生活レクも集中的に取り入れることで、心身機能の回復に努めた。

リビングでの食事や他者との交流が再開されると、居室で隔離されていたときの暗い表情から明るく嬉しそうな表情へと変化し、ご利用者自身から発語が増えた。さらに集団レクや生活レクの効果もあり短期間で回復できた。

高齢者にとって生活環境が認知機能や ADL に大きく影響することが改めてわかった。コロナの収束が見当もつかない状況ではあるが、感染を持ち込まない！を目標に利用者と日々の生活を充実させていきたい。

72

異食行為のある利用者への関わり

洛和ヴィラ桃山

○金田行司・岡本敏

【キーワード】認知症、異食、環境要因、ケアの統一

〈背景・目的〉

入所以前から A 氏は衣類やおしぼり等の糸くずの異食があった為、R3、9 月の当施設に入所時から塗り絵を持ってきてもらうなど家族に協力を得ながらケアを行い、糸くずを異食することは減少したが、他の異食行動が出現した。A 氏自身、職員が行動を観察している事に表情も硬くなり、「もうしません」などの発言も見られるようになった。初心にかえり A 氏が何故このような行動をされるのかどうすれば楽しく過ごせるのか職員が取り組み検証した事を報告する。

〈方法〉

量的研究　　アンケート（対象：ユニット職員 12 名）

アンケート結果を元に対応を検討し実施する。

Web版

73

透析センターの災害時初動対応に対する机上シミュレーション訓練の効果

洛和会音羽記念病院　看護部　透析センター

○桝本茉那・大塚俊介・堀部智美・藤田千尋・沖田佳子

【キーワード】透析センター、災害時初動対応、机上シミュレーション訓練

近年、全国各地で自然災害が頻発、甚大な被害が発生している。A 透析センターでは災害時のスタッフの初動対応に関するマニュアルがなく、災害時を想定した避難訓練も実施できていない。いつ起こるか分からない災害に患者の命を守ることができるよう対策をとっていくことが必要不可欠である。

今回、災害時を想定したアクションカードを作成し、透析スタッフ（看護師、臨床工学技士）を対象に透析室での地震発生時の初動対応を想定した机上シミュレーション訓練を行った。

訓練前後で参加者に無記名自記式アンケート調査を行い、災害対策に対する理解・意識の変化から、災害時初動対応机上シミュレーション訓練の効果と課題を報告する。

74

透析専門病院の障害者病棟における事故防止対策での身体抑制に関する現状調査

洛和会音羽記念病院　看護部　1 病棟

○水田百恵・片川真菜・浅田真依・渡辺真理子

【キーワード】透析専門病院、障害者病棟、身体抑制、事故防止対策

A 病棟は透析病院の障害者病棟で、デバイス類の自己抜去予防やベッドからの滑落予防のため身体抑制を行っている患者が多いが、身体抑制の開始、終了共に、統一した基準を使用せず、最終的にその日の担当看護師の判断に任せている現状がある。そのような状況で、2021 年度に抑制帯使用中、終了後に発生したデバイス類の自己抜去や転倒・転落事故が全体の 2 割を占めていた。そこで、A 病棟で実務を行っている看護師 4 名に、半構成的面接法にてデータ収集を行い、内容分析を用いて事故防止対策での身体抑制に関する現状を明らかにすることを目的に研究を行ったので報告する。

75

透析導入前のシャント造設目的のみで短期入院する患者の想いに関する質的研究

洛和会音羽記念病院　看護部　2 病棟

○安井謙成・後藤瑠花・田中優花・尾崎真優
長田可南子・中村理絵・石井幸子

【キーワード】シャント造設、短期入院、患者の想い、透析導入期

当病棟では、透析未導入でシャント造設目的のみで入院する他院からの紹介患者が多く、患者の想いを十分に聞けないまま退院するといった現状がある。そこで、透析導入やシャント造設に関する必要な支援を行い、今後の関わりにつなげていくために、シャント造設目的のみで短期入院する患者の想いを明らかにすることを研究目的とした。

透析未導入で、シャント造設目的のみで入院した他院からの紹介患者 6 名を対象に、半構成的面接法を用いて、シャント造設目的で短期入院した患者の想いに関するデータを収集し、内容分析を用いて分析した。

76

透析室で勤務するスタッフの医療安全に関する認識

洛和会東寺南病院　看護部　透析室

○山地真由美・曽亜運

【キーワード】透析室、血液透析、透析室スタッフ、医療安全、認識

当透析室は、多岐にわたる透析治療を多フロアに分かれて行っている。煩雑化する業務の中、様々なインシデントが発生しているが、実際の報告数は月 20 件程度と少ない。報告を促す取り組みを実施し件数はやや増加したが、根本的な解決にはつながっていない。そこで、本研究は透析室に勤務するスタッフの医療安全に対する認識を明らかにすることを目的とし、今後の医療安全への取り組みに繋げたいと考えた。

透析室に勤務する看護師、臨床工学技士を対象に、半構成的面接法にて、業務において医療安全上、気になる、不安に思うことについてデータ収集を行った。得られたデータを内容分析の手法を用いて分析した。

77

糖尿病疾患のある高齢者への食事対応について

洛和看護小規模多機能サービス音羽

○鵜瀬佑也・宮崎早苗

【キーワード】食事を摂るから楽しむへ

入院中、殆ど固形物を口にされず栄養補助剤で安定した体調を維持していた。以前のように食事の楽しみを見い出し、豊かな生活を取り戻すことを目標として取り組んだ。

退院直後はエンシュア、メイバランスのみでの食事だったが、通いサービスで他者が食事をされる様子を目にするなど環境の変化が食に対する刺激を生み、刻み食を少量ずつ摂取されるようになった。嗜好の把握を並行して行い、摂取量を見ながら不足分をカバーする方法を看護師と連携し取り組んだ。

日によって摂取量にばらつきはあるものの、本人の希望を受け入れながら血糖値の乱高下も抑えられている。

今後も多職種間での連携の下、安全に楽しめる食事を提供できるよう努めていきたい。

78

好酸球性筋膜炎の診断に超音波検査が有用であった1症例

洛和会丸太町病院　臨床検査部

○北風麻衣・中田帆風・和田あずさ
中島悠里・小山真理子・牛山多恵子

洛和会丸太町病院　救急・総合診療科
上田剛士

【キーワード】検査

好酸球性筋膜炎とは、筋膜の炎症変化に続いて筋膜の繊維化と肥厚が起こり、皮膚の硬化と関節の運動制限をきたす疾患である。

超音波検査を契機に好酸球性筋膜炎の診断に至った症例を経験したので報告する。

症例は40代女性。半年前から両下腿ふくらはぎ倦怠感あり、その数ヶ月後に倦怠感増悪及びむくみも出現。皮膚の硬化を認めたため全身性強皮症疑いにて当院総合診療科紹介された。手指の硬化は目立たず、Groove sign（表在静脈に沿って皮膚が陥凹する所見）を認めたため、好酸球性筋膜炎を疑い、超音波検査にて下腿の筋膜を観察した。超音波検査にて下腿筋膜の肥厚所見を認め、筋膜の最も肥厚している箇所にて生検したところ、好酸球性筋膜炎と診断された。

今後、超音波検査で皮下組織や筋肉の観察時には、腫瘤性病変や血腫、深部静脈血栓症などの有無に加えて、筋膜肥厚等の筋膜病変も念頭において検査を進めていきたい。

79

当院における細菌検査による Staphylococcus lugdunensis 分離状況と感染症事例報告

洛和会音羽記念病院　臨床検査部

○小川隆・中上麻里・小滝沙也加・大畑知子・上田可奈子

【キーワード】検査

Staphylococcus lugdunensis（S. lugdunensis）は、コアグラーゼ陰性ブドウ球菌（coagulase-negative staphylococci, CNS）の一種で、皮膚や軟部組織感染部位から分離され、敗血症、髄膜炎や心内膜炎などの重篤な感染症の原因菌として重要視されている。S. lugdunensis は、病原性の強さや菌の生化学的性状が、Staphylococcus aureus と類似しており、誤同定されることがある。他の CNS と比較して病原性が高く、重症化する可能性が高いことから適切な初期対応が肝要である。当院においても血液や膿を材料とした細菌培養から S. lugdunensis の分離を認めているのが、現状である。今回、一定観察期間における当該菌分離状況と感染症事例報告をする。

80

新型コロナウィルスに罹患した利用者の対応を通じての学び

居宅介護支援事業所洛和ヴィラ天王山

○岡本隆之・池田弘子・梅谷恭子・小林泰

【キーワード】新型コロナウィルス罹患後の対応

当事業所にて担当している利用者や家族にも罹患される方が出てきた中、発症後から入院や在宅療養を経ていく中で、在宅生活の継続が困難となっていったケースや亡くなられたケースが見受けられた。

今回、そのような状況に直面したことを受け、利用者・家族向けアンケートを実施し利用者・家族の考えや思いを探ることで、コロナ禍におけるケアマネジャーとしての役割や支援出来る方法等を事業所内で振り返ることとした。

〈方法〉

・利用者・家族へのアンケートの実施。
・当事業所での事例を通じて支援の状況や利用者の変化を振り返る。

新型コロナウィルスに罹患した利用者はサービス利用が制限される中、心身の状態に変化が生じ、在宅生活の継続が難しい状況になっていく中、利用者・家族が支援してほしい内容がどのようなものであるかを知ることが出来た。

コロナ禍における利用者・家族の「不安」に対し、事業所として対応できること・出来ないことがある。そのような中でも求められる役割が遂行出来るよう、今後も続くコロナ禍での在宅支援に生かしていきたい。

81

新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式

洛和ヴィラ桃山Ⅱ番館
○曽我幸平・亀井美里

【キーワード】コロナ、自己決定、行動制限、楽しみ

〈背景・目的〉
R2 年の春頃、コロナ禍となり感染対策の観点から外部のサービスの制限や、外泊・デイの利用が受けられなくなり、高次脳機能障害のある A 氏は生活意欲の低下やストレスが心配された。A 氏の思いを汲み取り、インターネット環境を整備し精神面の安定を図る事ができた。経過をまとめ振り返りを行う。
〈方法〉
時系列に環境に伴い出現した A 氏の変化、職員の関りを記述し、振り返りを行い、よかった点、他に行えた支援はないか事業所内で検討し、今後のケアにいかせるよう課題整理を行った。

82

患者搬送時の新型コロナ感染防止策とその効果

洛和会搬送部門【トランスポート】
○森高行・中川茂久万・前川典夫・古田大輔・玉田博

新型コロナ禍下において、病院間患者搬送を行っているトランスポートでは、感染拡大防止のため、早期から乗務員及び搬送車両へ様々な感染防止策を図り対応してきた。そのうえ、弊社は京都市から陽性患者搬送の委託を受け民間救急車（看護師同乗）による新型コロナ患者搬送も行っている。
現在までに、弊社乗務員が関係していると思われる感染事例（罹患・伝染）は 1 件も発生していない。
今後も乗務員・車両等への感染対策を徹底し、通常の患者搬送と新型コロナ患者搬送を両立させることは、医療崩壊を防ぐと共に、当会の推し進める SDGs の理念をも内包し社会貢献へ繋がるものと考える。
それらの具体的な取り組みと、その成果について報告する。

以上

83

管理課と新型コロナウィルス

洛和会音羽病院　管理課
○貞弘祐紀・市田裕樹・中村泰一・木下梨奈・西村美紀

【キーワード】コロナ、COVID-19、特定外来

〈背景・目的〉
新型コロナウィルスが令和 2 年 2 月より全国的に蔓延し、周期的に到来する大流行期における特定外来、又入院部門では令和 4 年 2 月及び 7 月の院内クラスターにより管理課の業務が大きく変わった。
特定外来では想定以上の患者さんが来院したこと、入院では当該月で保険請求が出来ないこと等により業務量が増大した為。
〈方法〉
最小の労力で最大の効果を発揮出来る方法を模索した。
・特定外来＝他部署との連携
・入院（コロナ病棟）＝行政との連携、診療報酬に関する情報収集
〈結果〉
課員を増員することなく業務を遂行している。
〈考察〉
特定外来は部署毎に業務分担を行った、又請求方法（請求書発送）の変更等。
入院は公費対象期間の管理、公費申請方法の変更等。

84

コロナ禍におけるオンライン面会の導入

洛和会音羽リハビリテーション病院　管理課
○坂口新奈・藤原琢也・三角都加沙

【キーワード】改善

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対面面会が禁止となったが、家族からの面会を行いたいという強い要望が多く見受けられた。その声に応えるべく、対面での面会ではなくオンライン面会（リモート面会）を導入することにより、サービス向上に寄与すると考えた。
患者家族に音羽リハビリテーション病院へ来てもらい、1F 面談室と入院患者を Zoom にて繋ぎ、タブレット越しで面会を行っていただく。オンライン面会を導入することで、患者の様子が伺えることや、外部から病棟へウイルスを持ち込まないという感染リスクの減少や感染拡大防止に繋がる。
対面面会の禁止により、患者や患者家族から不満の声が多く上がっていたが、オンライン面会を開始することにより画面越しではあるが、面会できることで感謝される機会が増加した。
また、Zoom でのオンライン面会は来院しなければならないという不便があるため、自宅と病院を繋ぐライン面会に変更した。
このことにより、スマホやタブレットの所持をしていない人の対応をしていきたい。

Web版

85

療法士を選び拒否が多い患者に対する介入方法の振り返り

洛和会音羽リハビリテーション病院　リハビリテーション部

○平嶋菜央・岸本大・石束紗野香
橋本剛生・藤川康太・横山暖人

【キーワード】リハビリ、老年期、介入拒否、前頭葉機能低下、認知機能低下、関わり方、情報収集、共有、特徴

大腿部骨幹部骨折を受傷した前頭葉及び認知機能低下のある80歳代女性を担当した。本症例はこだわりの強い性格であり、介入可能な療法士と介入拒否された療法士に分かれた。その原因が何であったのかを追求し、今後の対応策の一助としたい。

本症例に介入を試みた全療法士に関わり方や注意点・各療法士の考えについて聴取を行い、傾向を調べた。

介入可能であった療法士と拒否された療法士間で事前に収集した情報量に差があった。

前頭葉及び認知機能低下のある患者であり、介入困難だろうと予測して関わった結果拒否に繋がり、一方で本症例の特徴を十分に捉えていた療法士は介入可能が出来たのではないかと考える。

86

身体抑制解除に向けた新たな取り組み
～フェイスシールドを活用して～

洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　外来

○古久保侑実子・足立実生・松岡真樹

【キーワード】身体抑制解除、フェイスシールド、経管栄養チューブ、予定外抜去、看護師

当院では、予定外抜去の恐れがある患者はミトン型の手袋を使用しており、その割合は15名（8.1%）である。フェイスシールドに着目し、手指の自動運動を制限せず予定外抜去を防止する為の予防具を作成した。

2021年2月～2022年1月の約1年間、作成した予防具を活用し、患者の変化や看護師の受け止め方についてアンケート調査を実施した。

予防具を使用することで患者の苦痛表情が改善し、手指の観察の平易さ、湿潤による皮膚トラブル予防に繋げることができた。

身体抑制解除に向けた新たな取り組みは、倫理面、心理面で患者、看護師双方にメリットがあるとわかった。

87

出血感知センサーの有用性について

洛和会東寺南病院　CE部

○藤崎正人・早川航平・宗吉遂矢・山下賢太・吉田樹矢

【キーワード】医療安全

透析治療で最も発生割合が高い重篤な事故は抜針事故であり、本院においても抜針事故によりレベル3b相当の医療事故が発生した。

抜針事故による医療事故防止のため出血感知センサーを全透析患者に導入した。

出血感知センサー導入後、レベル3b相当の透析時出血に伴う医療事故を0件に抑えることができた。

抜針事故に対する有用性が認められた為、今後も出血感知センサーを引き続き使用していくことで高レベルの医療事故発生防止につながり、強いては患者への安全な透析治療を提供することが可能となった。

88

手術を受ける患者の手術中の不安軽減に対する音楽の効果

洛和会音羽病院　看護部　手術センター

○木下恵里子・柴田美耶・上野勝也・奥村碧・大西康之

【キーワード】音楽、手術、術中の不安、不安の軽減

本研究の目的は、意識下手術を受ける患者の術中の不安軽減に対する音楽の効果を明らかにすることである。

意識下での手術を受ける患者66名を対象に、ランダムに音楽をかける群（介入群）とかけない群（対照群）に分け、介入群には、術中に好みの音楽をかけた。2群ともに、入室時、手術開始時と終了時の心拍数を測定し、特性不安尺度（STAI）の「状態としての不安」A-State20項目の質問紙調査を行った。

介入群33名、対照群33名の2群間で、心拍数の変化、STAI（A-State）の得点に、有意差は認められなかった。

術中の不安軽減に対する音楽の効果は明らかにならなかった。今後は、対象者を増やし、入室時と手術終了時に質問紙調査を実施して比較する必要がある。

89

重度の褥瘡患者を抱えた家族の介護力向上につながった看護師の指導・関わりの一考察

洛和会訪問看護ステーション音羽

○大喜田光二・大槻京子・千田智子・森安しのぶ
田中江里香・山本真由美・朽木香苗・佐々木真衣

【キーワード】重度の褥瘡、褥瘡処置、家族の介護力、家族支援、在宅療養

仙骨部や大腿部にステージⅢの褥瘡がある症例を経験した。当初は、他事業所の訪問看護が介入していたが、褥瘡はあまり改善せず、介護者である妻も褥瘡処置には介入していなかった。その後、当事業所が担当となり、妻に指導や相談を行いながら、妻にも褥瘡処置に関わってもらった結果、褥瘡の改善がみられた。

そこで、本事例を通して、重度の褥瘡患者を抱えた家族の介護力向上につながった看護師の指導・関わりを明らかにすることで、在宅での褥瘡ケアを必要とする家族への支援に示唆を得ることができると考えた。

看護師の指導・関わりをアルバート・バンデューラの自己効力感の４つの構成要素で分析した。

アルバート・バンデューラの自己効力感の４つの構成要素に基づいて、看護師が指導や関わりをもつことは、家族の自己効力感の向上、強化、継続に繋がり、家族の介護のモチベーションを維持できることが分かった。

90

不全対麻痺により歩行困難となった症例に対して社会参加の拡大を図った一例

洛和会音羽リハビリテーション病院　リハビリテーション部

○松永英治

【キーワード】歩行能力低下、訪問リハビリへの移行、社会参加

当院回復期病棟で腰部脊柱管狭窄症により不全対麻痺を呈した症例を担当した。本症例は入院前より歩行困難となり、術後も歩行獲得には至らなかったが、在宅復帰と本人の希望であった外出や趣味活動を行うことを目標にリハビリを行った。

入院中に外出や趣味活動を促進するために車椅子移乗や、乗車訓練など動作訓練を行った。退院後は訪問リハビリへ移行し社会参加範囲の拡大を図った。

移乗能力が向上し日常生活動作の介助量が軽減した。また、電動車椅子を利用した外出や趣味活動が可能となった。

歩行困難となった症例に対して、入院中より自宅環境に合わせた動作訓練を行い、退院後も訪問リハビリでの動作訓練の継続や環境調整を行ったことが社会参加を促す一因となったと考える。

91

複数の医療処置を必要とする長期療養患者・家族への在宅退院支援についての一考察

洛和会音羽記念病院　看護部　３病棟

○安藤英・樋口尚子・津野智美

【キーワード】複数の医療処置、長期療養患者、家族、在宅退院、退院支援

少子高齢化が休息に進行している現在、医療処置を必要とする在宅療養患者も多く、家族が医療処置を在宅で行うためには、さまざまな知識や技術が必要となる。そのため、家族の負担が増大することが予測される。

今回、複数の医療処置を必要とする長期療養患者の事例を通して、看護記録・経時記録および日々のカンファレンス記録をもとに、家族への医療処置に関する指導場面を抽出し、分析用シートを用いてデータ収集し、アン・ビショップの看護の定義をもとに知識・技術・態度の３視点を用いて分析した。その結果をもとに、複数の医療処置を必要とする長期療養患者・家族への在宅退院支援について検討したので報告する。

92

私は外に出かけたいんです

居宅介護支援事業所石山寺

○梅田裕・中野志津代・髙田友樹

【キーワード】生活意欲

Ａ氏（80歳代　男性　認知症　要介護２）を担当。

電車に乗ってぶらりと外出する。公開セミナーへ参加する等の日常生活を送っていたが、コロナ禍によって崩壊。

自粛生活に適応できない中、本人を取り巻く環境の変化も重なり、心に穴があいたように喪失感を抱き、意欲低下してしまう。無気力となり、食事を摂らない、布団から出て来ない日が１ヶ月ほど続く。そんな中、長男と少しの口論を引き金に１週間ほど行方不明となる出来事があった。

受診に同行、主治医と意見交換し、助言を貰った。その上で本人家族と話し合いを重ね、安全に外出出来る様にサービスの見直しを行った。

喪失感が薄まって行き、意欲を徐々に取り戻して行く様子がみられた。

意欲を引き出す為に、日々の生活での小さな幸せがいかに大切か学び、今後のケアマネジメントに活かすポイントを考察する。

Web版

93

徘徊のある利用者への支援について
～介護の対応の限界と課題～

洛和会医療介護サービスセンター西京桂店

○大山小雪・藤田まゆみ・一岡美也子・河﨑友美

【キーワード】認知症、徘徊、家族支援

認知症の悪化により夜間でも徘徊して、警察に保護されることが増えてきたケース。

精神症状の悪化もあって、必要なサービスを利用することが困難となり、家族支援も含めての支援が必要となった。

〈方法〉

・徘徊に対する対応策を検討。

・サービス導入を検討して関係機関を増やす。

・支援経過記録から事例を検討して分析。

妻の入院を機にサービスを増やすことはできたが、認知症状の悪化によりサービスを受けることが困難になってくる。医療の導入を模索するが家族の意向もあり繋がらず、介護での対応が難しくなってきた矢先に精神科に入院となった。

徘徊の利用者に対する支援方法の考察、関係機関や医療との連携について今後の展望を考察する。

94

スポーツとしてとらえたレクリエーションの実施について
全ての利用者が参加出来るレクを考える

洛和デイセンター西ノ京

○吉田眞理子・東恒平・柴田一美・本多明・高橋幹人・上柳知子
安田奈央・馬場崎絢圭・渡邊淑子・鈴木智美・辰巳久美
西澤心・森下美香・木下貴美恵・稲本優子・五十棲靖高

【キーワード】レクリエーション

当事業所は、利用者全員参加型の集団レクリエーションを特色としていたが、幼稚と感じたり上手くできる自信がなく参加を拒んでいた利用者が複数おり、改めて主体的に利用者が参加できる方法を考えた。

公式パラリンピック種目である「ボッチャ」を導入し、スポーツであることを重視したレクリエーションの提供を行う。実際に導入した後、利用者の反応をアンケートにまとめた。

ADL に差異があっても楽しむことができ、今までレクリエーションに参加するのを拒まれていた利用者の参加率が向上し、他のスポーツにも関心がある事が分かった。

スポーツレクリエーションが受け入れられた要因と、幅広い年齢層で楽しめ、時代背景に合わせたレクリエーションを企画することの重要性について報告する。

95

A 氏の排便リズムが整う生活に向けて

洛和グループホーム山科鏡山

○白石貴広・島崎雄平・森ほのか・出岡宏一・吉川ひとみ
西脇彩音・邑田正廣・中村愛・中西みゆき

【キーワード】下剤調整、往診・訪看と連携、食事

A 氏は自然排便が少なく下剤の服用が多く、訪問看護に連絡する事が多かった。排便がない日が続くと落ち着かず精神的にも不調がみられていた。A 氏の食生活を見直すことで心身ともに少しでも快適に過ごしていただけるように繋げていきたい。

乳製品を摂取する事が少なかった為、朝食に牛乳などで腸の活性化を働きかけた。

排便状況等の観察を行ない、往診や訪問看護に相談やアドバイスをもらい医療と連携を図る。

乳製品を追加することで A 氏の自然排便が以前より増え、日常でも落ちついた生活が送れるようになってきた。臨時の下剤の服用が減り、A 氏への負担も少なくなっている。

乳製品を追加した事で自然排便が増え、便が出ない苛立ちや下剤服用時の不快感から等のトイレへの訴えが少なくなった。

自然排便がある事で A 氏が落ちついた生活ができるようになった。今回の取り組みから他の利用者についても自然排便を促すことにつなげていきたい。

96

生活スタイルのより良い構築
～「ご利用者を知り、理解する」～

洛和ホームライフみささぎ

○市田志菜・金尾来歩

【キーワード】生活スタイル、楽しみ、役割

入居された当初は徘徊や他利用者の居室に何度も入る等、不穏行動が絶えなかった。M 氏に穏やかで落ち着いた生活を送ってもらう為に今回取り組んだ内容と変化について報告する。

メリハリのある生活スタイルとは何かを検討した。計算ドリルや塗り絵等の楽しみや、食器の下膳や、食堂のカーテンの開閉を職員見守りのもとして頂き「役割」をもってもらえるような支援を行った。

楽しみや役割をもって生活することで用事をご自身から言われるなど、ご本人の気持が明るく前向きに、また、不穏や徘徊などは少なくなり、落ち着いた日々を送れるようになった。

日々の生活リズムや役割を作る事や、仲の良い入居者ができた事で気持ちが前向きで楽しい生活が送れるようになった。

97

固定観念を取り払ったケアを心掛けよう

洛和ヘルパーステーション山科

○三山晴代・長谷川洋子・谷口直美・隅田絵吏・山本菜摘
榎本柚香里・村田幸穂・山本えりか・竹谷綾乃・竹谷まい

【キーワード】改善、個別ケア、寄り添う介護、よりよいケアの実現

80 代女性、温厚な性格。

ある日精神疾患の娘さんが退院して自宅に戻ってくるかも知れないという事をきっかけに、温厚だったＡさんの様子が変化し行動異常が見られるようになった。

前のＡさんはこんなんじゃなかったのに…と思う固定観念を取り払い、今のＡさんを理解する事、本人のペースに合わせたケアを心掛ける。

今のＡさんを見つめ理解する。本人のペースに合わせてケアに入るように努めたところ、少しづつ拒否する事がなくなり穏やかになっていった。

Ａさんに限らず、すべてのご利用者一人一人ケアの仕方には違いがあり、ヘルパーと職員が一丸となってご利用者の気持ちに沿った個別ケアをする事で住み慣れた自宅で在宅生活を続ける事ができる。

98

自分で選びたい。情報提供することでの思いの表出
～要介護３の独居利用者への宅配サービス導入を試みた事例～

洛和会訪問看護ステーション桃山

○大西栄里・徳山喜子・水口里香・松本藍子・池本直子
木嵜良子・坂野恵理・伊香栄子・中村優介・藤原友子

【キーワード】自己決定、自立支援、体調管理、協働

〈背景・目的〉

「自己決定」を行うためには様々な関連要因があるといわれている。独居で様々な支援を受けながら生活されているＡ氏は買い物代行支援を受けているが、購入して欲しいものの訴えがないことがわかった。日常生活場面における自己決定とその関連要因について明らかにする。また、独居高齢者に対してどの様な自己決定支援が必要かを考察する。

〈方法〉

質的研究　実地調査（看護計画の立案、実施の評価、課題の整理、

再看護計画立案　支援実施）

ヒヤリング（利用者、ヘルパー、看護師）

〈結果〉

・チラシを見ることで自ら印をつけて選ぶことができた
・塩分の高い物が好みで、同じものを繰り返し注文されている傾向が分かった
・購入したものを利用し調理を行うことがあった。

99

「神様、今日も一日良い日でありますように」
～馴染みある暮らしとホームでの日常～

洛和グループホーム亀岡千代川

○宮脇雅也・木原妙

【キーワード】認知症

Ａ氏（90 歳代）は満州に生まれる。2016 年 70 歳代で夫が他界された後は介護サービスを利用し独居生活を送られていた。物忘れやゴミ出しの日を間違える等の認知症状がみられはじめ、老人保健施設へ入所される。しかし、在宅生活が困難にて 2020 年３月に当グループホームに入居となった。

入居当初は帰宅願望が強く、何度も荷物をまとめては玄関の方へご自身で向かわれる様子が多く見られた。朝には「お参りしてくる」と外に出ようとされる事も多くあった。

こうしたＡ氏の言動には見慣れない場所や、人と生活している不安感や、今までの暮らしでやっていた事が関係しているのではないかと考えた。その為、ホームでの生活に慣れて頂けるよう普段の関わり方に合わせて、ホームでの習慣や役割を持って頂けるように取り組んだ。

これらの取組みを通して、本人の気持ちや生活に少しずつ変化が見られてきたので報告する。

100

できることを継続するために

洛和グループホーム西院

○小谷朱乃・矢木優美・水口真美・関根満敏
高橋満子・五代祥子・松下亜津美・森祐一郎

【キーワード】認知症ケア

徐々に家事が難しくなってきたＡ氏、更にコロナ禍の影響で、調理に関わらない状況となり、参加機会が激減。「ここにいてたら迷惑やろ?」等の悲観的な発言が増えるようになった。本人の意欲、やりがいを損ねずにその思い、気持ちを取り戻すために以前のようにやりがいに繋がる取り組みが必要だと考えた。

家事については手順、方法が簡単にできるよう、見本を示しながら声かけをした。得意分野で能力を発揮できる機会を設け、前向きな明るい話題で話しつつ、やりがいに繋げる関わりに努めた。

成功体験を積み重ねることで、達成感を得ることができた。自信を取り戻せたことで、従来のお姿に近い状況でできることを率先して実施されていくようになった。活気や素敵な表情が表出される機会も増えるようになった

「できなくなった」と決め付けて、参加の機会を奪うのではなく、その方が意欲を示せるように参加の機会提供を行うことで、尊厳や生きがいを保つことに今後も繋げていきたいと考える。

Web版

101

コロナ禍におけるリハビリ、イベントの取り組み

洛和ヴィラ南麻布
○川野千枝・須藤弥央

【キーワード】リハビリ、イベント、コメディカル

コロナ以前は、多くのボランティア、家族の参加も受けながら、イベント等を行ってきたが、コロナ禍で、人の出入りや交流がなくなり、利用者の活動が大きく減少した。ADL と QOL の維持向上のため、コメディカルも試行錯誤を繰り返し、取り組んでいる。

現在、取り組んでいる内容（イベント、個別リハ）を紹介。職員アンケートを実施し、利用者の様子(ユニットでの様子、イベント時の様子）の違い、をどのように感じているか、今後どうしていきたいか、また、家族からどのような声を聞いているかなどを聞き取り、これからのイベントへつなげて行く。

102

安心して過ごせる学童クラブをめざして

洛和御所南学童クラブ
○占部伶美

【キーワード】行事活動、保育改善

地域学童クラブとして 9 年目を迎える。利用児童数は年々増加、小学 1 年生から 6 年生を対象に多様な発達段階の児童が集団で生活している。

コロナ禍、施設内で過ごすことが多くなった子どもたちがストレスを感じないように、保育の工夫をした。

日常の関りや行事活動を通して子どもとの関係を深め、保護者との信頼関係を築き、子どもたちが安心して過ごせる場となるように改善した。

職員が決めたルールを強要しない。否定的な言い方ではなくポジティブな言い方に変える。制作の日を増やし子どもたちの自主性を尊重するよう促した。

保護者へは手書きのメッセージ等で子どもたちの様子をお伝えした。

子どもたち自身の考える姿が増えた。保護者からの信頼関係も得られた。

毎月のイベントでは廃材を使った工作を実施したことで SDGs にもつながった。

103

I LOVE 人間ドック
～人間ドックで家族を守ろう～

洛和会京都健診センター　洛和会東寺南病院 健診センター
○藤原勝江・森野麻予・森夕紀・川尻奈緒

【キーワード】人間ドック、胃カメラ、大腸カメラ

今回のキャンペーンは今まで人間ドックを受ける機会がなかった職員・家族の健康を守るために今年度より始まった。

満足度･次年度への課題の抽出を目的としたアンケートを実施し様々な意見を得られたので報告する。

〈アンケート実施方法〉

配布期間：4 月 1 日～ 6 月 30 日

受診者数：300 人（洛和会全職員 6000 人）

回収枚数：235 枚（78%）

受診者の意見として良い意見が多く「同キャンペーンが来年度も実施されたら受診されますか」で受診したい・ぜひ受診したいは音羽 90%、東寺 88%がであった。

アンケート結果から得た様々な意見を次年度へつなぎ、より良い健診センターにしていく。

104

定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス
～サ高住の生活に合わせた支援・サービスについて～

洛和ヘルパーステーション音羽
○齋藤久美・鈴木真哉・古財英治
吉田千亜紀・佐々木眞由美・岡本幸子

【キーワード】取り組み、改善

洛和ホームライフ北野白梅町は 60 歳以上であれば介護区分を問わず入居できるサービス付き高齢者向け住宅（以下サ高住）である。

サ高住として安否確認、生活相談サービスの提供を行っているが、排泄、移動、服薬や夜間の安否確認など日常的にサポートが必要な要介護 1 ～ 5 の方に向け、定期巡回・随時対応型訪問介護看護（以下、定期巡回）の利用を提案している。

定期巡回では必要に応じて 24 時間 365 日のサービス利用ができ、入居者の安心に繋がっているが、サ高住で定期巡回を提供する上での難しさもあり、関係者と話し合いながら思考錯誤してきた。

入居者に必要なサービス提供はできたが、サ高住で定期巡回を提供する上で、特有の検討課題が見えてきた。

いくつかの事例を通して計画作成責任者として課題ついて考察する。

105

高齢者を元気に！商店街も元気に！ ウォークラリーでフレイル予防

京都市朱雀地域包括支援センター

○橋元利江

【キーワード】フレイル予防、地域支援、介護予防普及啓発、多職種連携

コロナ禍の影響でフレイル状態の高齢者が増加。また、圏域内の京都三条会商店街の活気も低下していた事から、商店街の活性化を図る目的も含め、中京区保健師・看護師部会主催でウォークラリーイベントを実施した。

令和3年10月開催。中京区居住の運動制限のない65歳以上の高齢者が対象。商店街のお店巡りをしながらチェックポイントを回るウォークラリーを実施。歯科医師会等の関係機関に協力依頼し、ブースを出店。参加者にアンケートを実施、評価を行った。

75名定員中58名が参加。アンケート結果より、参加者の内訳は80歳以上の高齢者が40%、朱雀圏域の参加者が33%と最も多かった。内容については「良い」70%、「普通」22%と、概ね良好な回答が得られた。

イベント開催により商店街や地域包括支援センターの周知、多職種連携を図る事ができた。地域と協働したイベントを定例化していくことで高齢者のフレイル予防だけでなく、まちの活性化、地域支援に繋がると考える。

106

重度化する本人とその家族を支えるための支援 ～F-SOAIP活用から見えてきたもの～

洛和会医療介護サービスセンター右京常盤店

○東誠一郎・布柴美枝・大溝昭子・西田喜代美

【キーワード】家族支援

意欲低下にて廃用性症候群が進む本人と介護負担が増加していく中でも支援利用に消極的なその妻。その原因は何か？医師から看取りの告知をされた妻の最後の在宅支援を振り返り、新たな気づきを今後の支援やスキルの向上に繋げる。

研修でたまたま出会ったF-SOAIPという技法。F-SOAIP技法を活用する事でこれまでの叙述形式では気付かなかった、支援に消極的だった妻の心理やその理由を再検証する。

慣れないF-SOAIPに叙述形式（逐語録）を置き換えるのは大変な事だった。叙述形式からF-SOAIP技法へ。何がSでOなのか？同じ場面を角度を変えた視点から事例を切り取り検証する事で叙述形式やSOAPにはないi（支援者の対応、声掛け）が新たな気づきや学び、支援へのきっかけへと結びつく。

107

小規模多機能サービス利用による 在宅生活の継続について

洛和小規模多機能サービス花園

○山田匡人・細井滝子・青木典子・今村琴美

【キーワード】リハビリ、在宅介護

6月末の早朝、宿泊されていたA氏がポータブルトイレ使用後、1人でベッドに戻る際に右大腿部転子部を骨折し入院となった。医師からは、骨が脆く転倒でなくても折れる状態との見解を受けた。本人、家族共に自宅での生活を望まれたが、居住スペースは2階であり階段昇降をする必要があった。

退院後、自宅には戻らず小規模多機能サービスで宿泊対応することになった。元々依存度が強く、トイレや肋間神経痛の訴えなどが頻回にあり、立ち上がりもよく見られていた。現在痛みの訴えは少ないものの、落ち着かれずトイレの訴えが多い状態が続いている。

骨折前の、在宅での支えと、小規模多機能サービスの活用による生活に戻れるまでの過程を報告する。

108

教育体制について ～新人教育に向けての取り組み～

洛和会音羽病院　ドクターエイド課

○東嶋葵・渡邊順子・武田春菜
長田知夏・嶋田美歩・村田史織

【キーワード】教育

医師事務作業補助者は医師の事務的業務負担軽減のため欠かせない存在である。医師の代行業務を行うためには専門的な知識やスキルが求められるため、育成に多くの労力と時間を要している。ドクターエイド課では安定した人材確保を目的に、2020年度から新卒採用を行い教育体制の構築を図った。

部署全体での指導者と新人職員のサポートを目的とした新人教育チームを発足させ、業務面だけでなく定期的な面談を行う等、精神面でのサポートにも注力した教育体制を構築した。

精神面でのサポートにも注力した教育を行った結果、2年以内の早期離職を防ぐことができた。今回、ドクターエイド課で行った新人教育の取り組みと今後の教育体制についての課題を報告する。

Web版

109

新人看護師が基本的な看護力をつけるためのプリセプターの役割

洛和会音羽病院　看護部　3A 病棟

○加納比菜乃・野橋遼平・金丸維津美・河原林侑花
屋良朋子・伊藤浩武・田中秀美

【キーワード】プリセプター、新人看護師、基本的な看護力

A 病棟では、主に 4 年目の看護師がプリセプターを行っているが、毎年、新人看護師の指導に困惑している姿が見受けられた。そこで、新人看護師が基本的な看護力を身につけるために必要となるプリセプターの役割を明らかにすることを目的とした。

過去 2 年間でプリセプターを行った看護師 5 名を対象に、半構成的面接法にてデータ収集を行い、内容分析を用いて分析した。

その結果、【新人の成長をイメージした関わり】【新人にわかりやすい指導】【新人看護師の味方】【プリセプターとしての役割調整】の 4 カテゴリーが抽出され、新人看護師が基本的な看護力をつけるためのプリセプターとしての役割が明らかとなった。

110

回復期リハビリテーション病棟における看護師
ーリハビリセラピスト間での FIM 評価の差異に関する調査

洛和会音羽リハビリテーション病院　看護部　3A 病棟

○木村知奈美・西浦愛・松原玲子・髙田みつ美

【キーワード】FIM、回復期リハビリテーション

回復期リハビリテーション病棟のアウトカム評価として機能的自立度評価表（FIM）を使用しているが、看護師は病棟での生活動作を、リハビリセラピストは訓練中の動作を観察しており、看護師とセラピスト間での評価に差異が生じている可能性があると考えた。そこで、回復期リハビリテーション病棟における看護師とリハビリセラピストでの FIM 評価に差異があるかを明らかにすることを研究目的とした。

退院 3 日前に、担当看護師とリハビリセラピストが別々に FIM 評価を行い、看護師とリハビリセラピストがつけた FIM 評価得点について、項目ごとに Mann-Whitney の U 検定を行い、2 群間での差を検討した。

111

「看護師の問題解決行動尺度」測定による問題解決能力とクリニカルラダー評価による看護実践能力との比較に関する研究

洛和会東寺南病院　看護部　1 病棟

○武村靖子・山田里香・髙田裕子・蛭子苗・林京美

【キーワード】看護師、看護師の問題解決行動尺度、問題解決能力、クリニカルラダー、看護実践能力、育成

質の高い看護を提供するために、看護師の問題解決能力が、看護実践において必要な要素とされている。しかし、看護実践能力と問題解決能力が必ずしも比例しているとは限らない現状があるのではないかと考えた。そこで、本研究は問題解決能力と看護実践能力を比較し、その関係を明らかにすることを目的とした。

A 病棟に勤務する看護師 26 人を対象に、看護師の問題解決行動尺度を用いた無記名自記式質問紙調査を行い、看護師の問題解決行動尺度の下位尺度別に看護実践能力の評価であるラダーレベルごとに比較検討したので報告する。

112

登録ヘルパーさんの人材確保へ向けての取り組み
～訪問介護の魅力とは～

洛和ヘルパーステーション桃山

○小林美鈴・白石由実・木村ゆかり・江口里美・寺石周子

【キーワード】人材の確保、やりがい、勤務環境

〈背景・目的〉

常に人手不足である中で人材を確保するために、どういった取り組みをしているのかをまとめた。また、なぜ人が集まりにくいのかを知ることで訪問介護のイメージアップに繋げ、人材確保に役立てることができたら良いと考えた。

〈方法〉

アンケート

対象者：法人内ヘルパーステーションに①1～2 年内に入職したヘルパー、

②5 年以上勤務しているヘルパー

人数：　①新人ヘルパー 10 名程度　②5 年以上のヘルパー 20 名程度

内容：年齢・入職を決めた理由・やりがい・事業所に希望する事　等

〈結果〉

活動中に制服を着用していたヘルパー（非常勤）が、「訪問介護に興味がある」と声をかけられた。ヘルパーの紹介で入職してくれる方がいた。また、アンケートの結果をまとめて報告する。

Web 版

113

新しいかたちへの発展
～クラブ活動を通した児童の変化～

京都市新道児童館
○磯田汐里・浅岡栞・三浦彩乃・山尾寛子・内田克明

【キーワード】子ども育成活動、クラブ活動

当児童館で実施している登録制のC.C（「Child Culture（児童文化財）」の略）クラブでは、集中力をきたえ、表現力や想像力を豊かにすることを目指している。しかし、発展させた形で進めることが少なく、半期・年度ごとでやめてしまう児童も多かった。

そこで、特別企画の実施やスケジュールの再構成などクラブ内容の充実を図り、発表会に向けての取り組み方も再検討した。

その結果、児童の関心や意欲を引き出し、大人が土台をかためつつ児童一体で作りあげていく形となった。そして、「楽しい」「続けたい」と登録を継続する児童の増加へもつながった。

今回は、C.Cクラブを通した児童の姿や成長、今後の展開について報告する。

114

児童館、学童クラブにおける将棋と子どもの関わり

京都市花山児童館
○中島遥香

【キーワード】児童館、学童クラブ、将棋、子ども

当館で長年行ってきた活動の一つに、将棋教室がある。現在利用している子どもたちのニーズを踏まえながら、将棋に触れ、楽しさを体験してもらう機会をどのように提供するのかを試行錯誤している。

今までの将棋教室の様子を考察し、学童クラブは皆参加するというスタイルから登録制のクラブへと一新した。2回ほど全員参加の体験期間を設けることで、将棋がどんなものかを知ったうえで、各自の判断でクラブへの参加を決められるようにした。

クラブ化により、保育者の目が届きやすくなり、将棋を楽しみたい、強くなりたいと思っている子どもへの援助を手厚くすることができた。問題点として、登録人数が少ないこと、登録者の実力に差があり、同時進行が難しいことが挙げられる。

将棋をしたい子のための時間と場所を提供することができた。様々な年代が利用する児童館において将棋クラブを行うことの利点を明確にし、学童クラブ利用者だけではなく一般来館での登録者を増やすことも課題である。

115

親支援
～さまざまな家庭へのさまざまな支援のあり方を考える～

洛和東桂坂保育園
○横田愛・秋森育美・大宮愛加

前回、親の就労など、子育て支援のニーズが多様化し、子どもを取り巻く状況の変化に伴い、保育園が担う子育て支援について、支援を代行と捉えず“生きていく力”を信じるという事例を挙げ、報告した。

今回は、特に『親支援』にスポットを当て、外国籍家庭や親自身が抱える問題（就労・離婚・疾病等）による子どもに与える影響を事例に挙げ、引き続き、保育園がどのように子ども・保護者の問題に寄り添い、どのような支援を行っているかを報告する。

116

主体的に遊べるように…
～生活と遊びのつながり～

守山市立吉身保育園
○吉中弥生・小林麻依子・櫻井誓・川島果菜・熊谷優奈・辻道代

【キーワード】子ども、発達、生活、遊び、環境、主体性、情報共有、連携

乳児クラスでは、年齢ごとに遊び表を作成し、玩具や遊びなどについても話し合いを重ねているが、それぞれのクラスで月齢差や発達の違いが大きく、どのような玩具や環境設定がよいのかが課題に上がることが多かった。一人一人が興味や関心を広げながら、主体的に遊び、感性豊かに育つことを目的とする。

定期的に乳児部会や年齢別会議などを行い、それぞれの月齢や発達に合わせた玩具や遊びについて情報共有の場を持ち、0歳児から2歳児までを見通した遊び表の作成に取り組んでいる。

子どもは遊びを通して身体的能力、認知能力、社会性を身につけていく。発達の道筋を知ることや玩具の特性・ねらいなどについて学ぶことが大切であり、そこに介入する大人の関わりが重要であることを踏まえながら、今後の保育に繋げていきたい。

Web版

117

A 病院における入退院支援センター看護師の看護実践の構造

洛和会音羽病院　看護部　入退院支援センター

○稲田由紀子・石井裕美・大山晶子
西川さつき・山川理恵・勝本孝子

【キーワード】入退院支援、看護、看護実践、実践力構造

入院時支援加算の制定により、入退院支援センターを設置する病院は増えたが、入退院支援に関わる看護師の実践力に焦点が当てられた研究はない。

入退院支援センターの看護師の実践力を明らかにすること。

入退院支援センター看護師7名に実践力を、コメディカル4名を対象に看護師に期待しているスキルについて自由記載してもらい分析した。

入退院支援センターの看護師が目指す看護実践力は「難渋する事象を流れに乗せる対話力と調整力」「相談者が語りたくなるような傾聴力」「在宅療養者の急な変化も対応できる知識と技術」「本人の思いと病の回復を支えられる人間力」であった。

今後更なる発展を目指し、抽出された課題に向かい取り組んでいく。

118

「聞いていない！」を無くしたい
～情報共有の方法の検討～

洛和会訪問看護ステーション山科

○多田明美・恩知麻有・森川真由美

【キーワード】連絡事項と利用者の情報共有

常勤非常勤でペアになり連絡事項を伝えていたが情報が伝わらない事が多かった。回覧物が滞っている事が多かった。申し送りに時間がかかっていた。速やかな情報共有をすることを目指した。

回覧物は回覧せずに掲示した。申し送りでの利用者の情報を口頭での伝達を減らし各自管理日誌の確認をするようにした。管理日誌の記入方法を簡素化した。これらの方法で情報共有が出来ているか課題はないかを定期的にカンファレンスした。

回覧物は掲示することで見ていない人がすぐにわかるようになり伝達事項が以前よりも滞ることがなくなった。各自で情報を取る必要が出できたことで情報を収集する自主性が芽生えた。申し送り時間の短縮につながった。

情報伝達は早くなったが内容の把握や充実が出来ているかは今回の研究では明らかにならなかった。

119

映像から広がる保育

洛和みずのさと保育園

○田中友唯・部谷香里・牧野未奈・奥冨優子・古高友子

【キーワード】保育

新型コロナウイルスの流行により、ここ数年子どもたちの活動が制限されている。

コロナ禍ということもあり、本来なら経験できることを経験しないまま就学を迎えているということも事実である。映像を通して友だちや保護者と時間や空間を共有することで、より実体験に近づけないかと考えた。

そこで、本園には2台のプロジェクターが常備されているという観点から、映像を保育に生かすことにした。映像を用いてカレー作りや夏祭りの動画を映し出し、リアルな体験を味わえるようにした。

また、保護者にも玄関先のプロジェクターで行事の内容を知らせたり、子どもたちのいきいきとした表情を伝えたりすることができた。映像によって実際に体験したようなリアル感を味わえたことが、子どもたちの興味や集中力を高め、イメージが膨らみ、親子での会話や園に対する安心感にもつながる結果となった。

今回は、プロジェクターを用いた保育が、子どもたちに与える影響力について検証し、報告する。

120

当会の Web マガジンおよび SNS の分析について

洛和会企画広報部門

○垣本知宏・山本晃子・小林万優

【キーワード】広報、マーケティング、分析

当会では、会報誌『らくわ』をはじめ多くの広報媒体を展開している。また近年では、現代社会の時流に乗るべく、Web マガジンやインスタグラムなど SNS の運用も始まり、多角的に当会の PR 活動を行っている。そこで Web ならではの方法で、記事ごとの閲覧数やユーザーの地域などを割り出し、より効果的な広報活動ができるよう Web マガジンを中心に分析する。

〈方法〉
・Web マガジン
・「Google analytics」：記事ごとの閲覧数やユーザー属性・参照元など
・「Google search console」：検索されたワードやそれによって表示された記事など
・Instagram
・「インサイト」：投稿ごとの閲覧数やユーザー属性など

毎月分析を行うことで、閲覧数やユーザー数の変化が分かり、注目されやすい記事の内容、拡散やシェアのされやすい記事など、ある程度の傾向がみられた。

今後は、より分析の精度を高め、配信する時間帯や見せ方、リンクの貼り方などを、蓄積されたデータを活用したい。また、より戦略的に働きかけ、注目されやすい記事だけでなく、全体的に質の高いものを提供できるようにする。

121

コロナ禍における音楽療法のニーズの高まりについて

洛和会京都音楽療法研究センター

○柴田恵美・和田義孝・安達紗代・堀内美里
佐藤佑香・井上明香・北脇歩・矢野ひとみ

【キーワード】コロナ禍、音楽療法、外来音楽療法、訪問音楽療法

洛和会京都音楽療法研究センターでは、法人内の病院や施設での実践の他、洛和会音羽リハビリテーション病院での外来音楽療法、個人宅や施設での訪問音楽療法も実施している。特にコロナ禍において個別音楽療法の需要が高まり、依頼件数が増加した。人との交流を求め、また、ケアに交流を必要とする患者（クライエント）との音楽療法とは？症例を紹介しながら報告する。

122

同日に両眼白内障手術を受けた患者の実態調査

洛和会音羽病院　看護部　アイセンター

○松木真紀・荻田亜希子・髙坂由香理・佐伯こころ
坂田麻未・小阪慎子・渡辺紗亜耶・髙橋りつ子

【キーワード】眼科、白内障手術、日帰り、同日両眼

当院の白内障手術のうち、日帰り同日両眼白内障手術をする件数は、全体の41%を占める。当該手術では両眼散瞳薬を使用するため、薬効が切れるまでの間、患者は片眼手術を受けた患者に比べて見えにくさを感じると推測される。そこで今回、患者が安心して手術を受けられるよう患者支援につなげるため日帰り同日両眼白内障手術を受けた患者100名へのアンケート実施し、その実態を調査した。

術直後に見えにくいと答えた患者は全体の47%であり、日常生活に支障がなかったと答えた患者は74%であった。また89%の患者が同日両眼白内障手術を受けて良かったと回答した。

術直後に見えにくさを感じることはあるが、生活に支障を感じる割合は低く、同日両眼白内障手術を受けた患者の満足度が高いことがわかった。今回の結果を患者支援に活かしたいと考えここに報告する。

123

TFNT00とDFR00V挿入眼の術後成績比較

洛和会音羽病院　視能訓練室

○市村芽瑠茂・山本素士・稲垣遊
東大嶺淑・中村精吾・栗山晶治

白内障手術と同時に行われる人工レンズ挿入術に用いられる多焦点眼内レンズは、従来の単焦点眼内レンズと違い、遠方と近方に焦点があう眼内レンズである。近年では多焦点眼内レンズの種類も増加しており、今回はAlcon社のTFNT00とAMO社のDFR00Vの2種類について比較検討を行った。

対象は2019年8月から2022年1月の間に音羽病院アイセンターで両眼白内障手術にて両眼同一眼内レンズを挿入施行したTFNT00群61例とDFR00V群21例。トーリックレンズ症例は除外した。術後1、3ヶ月後の両眼裸眼視力（5m、60cm、40cm、30cm）、コントラスト感度、アンケートにて光障害（グレア、ハロー、スターバースト）の有無と満足度を調査し、術後成績をまとめたのでここに報告する。

124

発達性協調運動障害に対する作業療法外来の取り組み

洛和会音羽病院　リハビリテーション部

○高間結乃・木村嘉志・篠田昭

【キーワード】小児リハビリ、ソーシャルスキルトレーニング

当院の作業療法小児外来リハビリにおいて、学校に馴染めない児童2名に対し、同世代との交流や学校生活の最適応を目的として作業療法士2名との集団作業療法を行った。

個別療法実施後に「コラボ企画」と題し月2回の頻度で開始した。2児の緊張を和らげ、療法士同士の関わり方が手本となるよう児童が共同で作業するチーム戦のゲームを行った。

2児は学校生活を再開でき、児童同士がリハビリ以外でも個別的な関わりを持つようになった。

同世代との関わりを苦手とする児童同士の交流の機会を作り、療法士の対話場面を交流のモデルとすることで児童が関わり方を学び、実際に関係を構築できたことが自信に繋がったのではないかと考える。

Web版

125

妊産婦が分娩施設に求めるニーズの実態調査
～ニーズを反映した産科混合病棟ユニットマネジメントに向けて～

洛和会音羽病院　看護部　2D 病棟

○晝川澪・山脇帆菜実・清水一美・宗由里子

【キーワード】産科混合病棟ユニットマネジメント・妊産婦のニーズ、分娩施設、助産師、インスタグラム

我が国の少子化は深刻である。本研究は妊産婦のニーズを反映するための示唆を得ることを目的とする。

分娩施設に求めるものについて 2D スタッフ、当院出産の褥婦及び一般住民にアンケートを実施した。

当院出産の褥婦 34 名の内 30 名が立地、16 名が総合病院、5 名が口コミと回答した。一般住民は、経産婦 158 名の内 64 名が立地、41 名が食事、17 名が口コミ、未産婦 99 名の内 53 名が食事、16 名が立地と口コミと回答した。2D スタッフは 17 名が立地、14 名が費用、12 名が口コミと回答した。

経産婦は現実的、未産婦はメモリアルイベントになることに魅力を感じることが推測された。

126

脳卒中におけるリスク認知向上への取り組み
～再発防止に向けた退院指導を目指して～

洛和会音羽病院　看護部　SCU

○廣林涼佳・木下隆輔・古川健太・井上裕介・秋山幸子
石井明日香・片山有乃・松尾美岐・海野淳子

【キーワード】脳梗塞、再発予防、退院指導、リスク認知

脳梗塞は再発率が高く、発症後 1 年で 10%、5 年で 35%、10 年では 50% の人が再発すると言われている。疾患により異なるが、脳卒中におけるリスク認知を多様な角度から分析し、再発防止に向けた退院指導ができることを目的とする。

質的研究（対象患者：研究前後にアンケート調査）

再発の要因となるものを明確化でき、患者自身が再発のリスクを認識することができた。

リスク認知は疾患により異なるが、脳卒中においてリスク認知を把握することは再発予防にも重要となる。患者の再発リスク要因の明確化により、患者のリスク認知向上に繋がり、個別性に沿いより効果的な退院指導ができると考えられる。

127

外来心臓リハビリテーションに参加した患者の看護外来の効果

洛和会音羽病院　看護部　外来

○榎本あや・花田早百合・小﨑艶子・後藤愛理
上山雅子・上田奈津子・嶋本雅子・守屋真里菜

【キーワード】心臓リハビリテーション、看護師、外来

心不全は各心疾患の最終形態であり、心疾患の再発予防は心不全の予防となる。当院では心疾患の再発、再入院予防のために心臓リハビリテーション（以下心リハ）を実施している。心リハを終了した半年後、看護外来にて自宅での自己管理が不十分な患者が一定数みられたため、心リハ時の指導内容について再考する必要があると考えた。また、先行研究において看護外来と外来心リハに関する研究はなく、リハビリ終了時の面談を実施することにより、面談実施前と比較し看護外来の効果を検討した。

外来心臓リハビリテーション通院患者約 40 名に対し、2021 年 12 月～ 2022 年 8 月にアンケート調査を行い、t 検定により分析を行った。

128

敗血症後の廃用症候群により尖足位となった症例
～自宅退院に向けた歩行動作獲得を目指して～

洛和会音羽記念病院　リハビリテーション部

○民谷真理・白井健雄・峰村果歩

【キーワード】リハビリ

当院は透析を中心とした腎疾患に特化した病院であり、背景に糖尿病、虚血性疾患、心疾患、呼吸器疾患などを抱えている患者も多く、症状の訴えは多岐にわたる。本症例も糖尿病性腎症を原疾患とした慢性腎不全があり、他院にて血液透析を導入され維持透析中であった。入院前は ADL・IADL 動作自立されていたが、敗血症を発症され、長期臥床により足関節背屈制限が生じ、歩行動作困難となった。自宅退院には屋内外の歩行手段獲得が必須であった。しかし既存に閉塞性動脈硬化症、両足壊疽があり、左足趾は黒色壊死していたため、尖足位での歩行は前足部への大きな負担となることが問題となった。今回、この問題に対しリハビリテーションを実施したことで歩行動作に繋げることができたため報告する。

夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®

医療法人社団 洛和会
〒604-8405 京都市中京区西ノ京車坂町9

社会福祉法人 洛和福祉会
〒612-8006 京都市伏見区桃山町大島38-528

学校法人 洛和学園
〒607-8064 京都市山科区音羽八ノ坪53-1

本部

洛和会ヘルスケアシステム 本部
☎075(581)1763(代)

病院

洛和会丸太町病院
〒604-8401 京都市中京区七本松通丸太町上ル
☎075(801)0351(代) 予約フリーダイヤル0120(489)244

洛和会音羽病院
〒607-8062 京都市山科区音羽珍事町2
☎075(593)4111(代) 予約フリーダイヤル0120(489)300

洛和会音羽記念病院
〒607-8116 京都市山科区小山鎮守町29-1
☎075(594)8010(代)

洛和会音羽リハビリテーション病院
〒607-8113 京都市山科区小山北溝町32-1
☎075(581)6221(代)

洛和会東寺南病院
〒601-8441 京都市南区西九条南田町1
☎075(672)7500(代)

クリニック

矢野医院
☎075(341)8116

二条駅前クリニック
☎075(803)1236

丸太町リハビリテーションクリニック
☎075(802)9029

西洞院仏光寺クリニック
☎075(342)3746

淀みづクリニック
☎075(632)6116(代)

洛和メディカルスポーツ京都丸太町(医療法第42条施設)
☎075(802)9030

介護

介護事業部
☎075(353)5802(代)

洛和会医療介護サービスセンター丸太町病院
☎075(801)0351(代)

洛和会医療介護サービスセンター音羽病院
☎075(593)0730

洛和会医療介護サービスセンター音羽記念病院
☎075(594)8010(代)

洛和会医療介護サービスセンター音羽リハビリテーション病院
☎075(581)6221(代)

洛和会医療介護サービスセンター東寺南病院
☎075(672)7500(代)

洛和会医療介護サービスセンター北野白梅町店
☎075(466)5135

洛和会医療介護サービスセンター北大路店
☎075(491)8891

洛和会医療介護サービスセンター丸太町店
☎075(802)9111

洛和会医療介護サービスセンター三条会店
☎075(801)0370

洛和会医療介護サービスセンター右京山ノ内店
☎075(323)5722

洛和会医療介護サービスセンター右京常盤店
☎075(863)6834

洛和会医療介護サービスセンター東大路店
☎075(708)1001

洛和会医療介護サービスセンター四条鉾町店
☎075(341)7007

洛和会医療介護サービスセンター西京桂店
☎075(382)3208

洛和会医療介護サービスセンター音羽病院前店
☎075(595)9811

洛和会医療介護サービスセンター醍醐駅前店

洛和会医療介護サービスセンター淀店
☎075(633)6015

洛和会医療介護サービスセンター大津店

高齢サポート・朱雀
京都市朱雀地域包括支援センター
(京都市委託事業) ☎075(801)1384

高齢サポート・音羽
京都市音羽地域包括支援センター
(京都市委託事業) ☎075(595)8139

高齢者あんしん相談センター大塚
(文京区委託事業) ☎03(3941)9678

高齢者あんしん相談センター大塚分室
(文京区委託事業) ☎03(6304)1093

京都市中京区地域介護予防推進センター
(京都市委託事業) ☎075(801)0389

老人介護支援センター洛和ヴィラ桃山
☎075(622)2231

居宅介護支援事業所修学院
☎075(706)6265

居宅介護支援事業所北花山
☎075(582)0776

居宅介護支援事業所山科
☎075(583)6346

居宅介護支援事業所音羽
☎075(584)0004

洛和ヴィラ桃山居宅介護支援事業所
☎075(622)2231

居宅介護支援事業所醍醐駅前
☎075(575)3763

居宅介護支援事業所洛和ヴィラ天王山
☎075(958)6933

居宅介護支援事業所宇治琵琶
☎0774(28)3343

居宅介護支援事業所大津
☎077(522)6917

居宅介護支援事業所石山寺
☎077(531)1314

居宅介護支援事業所坂本
☎077(577)1132

居宅介護支援事業所洛和ヴィラ南麻布
☎03(6408)8674

大塚介護保険サービスセンター
☎03(3946)8131

洛和会訪問看護ステーション北大路
☎075(494)3339

洛和会訪問看護ステーション壬生
☎075(803)1552

洛和会訪問看護ステーション右京山ノ内
☎075(325)5772

洛和会訪問看護ステーション東大路
☎075(708)1010

洛和会訪問看護ステーション四条鉾町
☎075(353)8878

洛和会訪問看護ステーション西京桂
☎075(382)3200

洛和会訪問看護ステーション山科
☎075(595)9821

洛和会訪問看護ステーション音羽
☎075(583)2301

洛和会訪問看護ステーション桃山
☎075(622)3073

洛和会訪問看護ステーション醍醐駅前
☎075(575)5011

洛和会訪問看護ステーション天王山
☎075(958)6911

洛和会訪問看護ステーション東向日
☎075(935)6088

洛和会訪問看護ステーション大津
☎077(511)4105

洛和会訪問看護ステーション石山寺
☎077(531)1313

洛和会訪問看護ステーション坂本
☎077(577)1126

洛和ヘルパーステーション丸太町
☎075(803)2908

洛和ヘルパーステーション山科
☎075(581)6918

洛和ヘルパーステーション音羽
☎075(584)1400

洛和ヘルパーステーション桃山
☎075(622)2385

洛和ヘルパーステーション醍醐駅前
☎075(575)3762

洛和ヘルパーステーション石山寺
☎077(531)2022

洛和ヘルパーステーション坂本
☎077(577)1127

洛和会丸太町病院 訪問リハビリテーション
☎075(803)6251

洛和会音羽リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション
☎075(581)6221(代)

洛和ヴィラウラノス 訪問リハビリテーション
☎075(633)6010(代)

洛和ヴィラサラサ 訪問リハビリテーション
☎03(6408)8676

洛和デイセンター北野白梅町
☎075(465)1611

洛和デイセンターイリオス
☎075(801)0398

洛和デイセンター西ノ京
☎075(813)5710

洛和デイセンター右京山ノ内
☎075(325)5776

洛和デイセンター百万遍
☎075(706)6762

洛和デイセンター修学院
☎075(706)6263

洛和デイセンター四条鉾町
☎075(343)1274

洛和デイセンター音羽
☎075(594)9600

洛和デイセンター音羽のさと
☎075(584)0002

洛和デイセンターリハビリテーション音羽
☎075(583)6070

洛和デイセンター桃山
☎075(622)2271

洛和デイセンターウラノス
☎075(633)6010(代)

洛和デイセンター宇治琵琶
☎0774(28)3344

洛和デイセンター南麻布
☎03(6408)8966

洛和デイセンターサラサ
☎03(6408)8965

文京大塚高齢者在宅サービスセンター
☎03(3941)6760

洛和グループホーム二条城北
☎075(451)1160

洛和グループホーム西ノ京
☎075(813)5720

洛和グループホーム壬生
☎075(803)1557

洛和グループホーム太秦
☎075(873)2114

洛和グループホーム右京山ノ内
☎075(325)5778

洛和グループホーム右京常盤
☎075(863)5643

洛和グループホーム花園
☎075(461)0900

洛和グループホーム西院
☎075(325)5815

洛和グループホーム百万遍
☎075(706)6760

洛和グループホーム四条鉾町
☎075(371)1127

洛和グループホーム桂
☎075(382)3121

洛和グループホーム久世
☎075(925)0210

洛和グループホーム桂川
☎075(925)1505

洛和グループホーム勧修Ⅱ番館
☎075(582)8211

洛和グループホーム山科小山
☎075(595)3288

洛和グループホーム山科鏡山
☎075(582)8208

洛和グループホーム山科西野
☎075(594)8522

洛和グループホーム醍醐春日野
☎075(575)2510

洛和グループホーム伏見竹田
☎075(645)5750

洛和グループホーム醍醐寺
☎075(575)2531

洛和グループホーム亀岡千代川
☎0771(29)2110

洛和グループホーム大山崎
☎075(956)6351

洛和グループホーム天王山
☎075(959)7020

洛和グループホーム宇治琵琶
☎0774(28)3340

洛和グループホーム京田辺
☎0774(68)1266

洛和グループホーム八幡橋本
☎075(971)6282

洛和グループホーム大津
☎077(511)4025

洛和グループホーム大津若葉台
☎077(534)7840

洛和グループホーム石山寺
☎077(534)2380

洛和グループホーム坂本
☎077(578)5535

洛和グループホーム守山大門
☎077(583)7872

洛和グループホーム瀬田
☎077(544)3190

洛和看護小規模多機能サービス壬生
☎075(803)1550

洛和看護小規模多機能サービス音羽
☎075(595)3295

洛和小規模多機能サービス花園
☎075(461)0950

洛和小規模多機能サービス西院
☎075(325)5885

洛和小規模多機能サービス山科西野
☎075(594)8500

洛和小規模多機能サービス伏見竹田
☎075(645)5752

洛和ヴィラよつば(介護医療院)
☎075(632)6116(代)

洛和ヴィラ桃山(特別養護老人ホーム)
☎075(622)2181(代)

洛和ヴィラ桃山Ⅱ番館(障害者支援施設)
☎075(622)2181(代)

洛和ヴィラ大山崎(特別養護老人ホーム)
☎075(958)3855

洛和ヴィラ天王山(特別養護老人ホーム)
☎075(959)7007

洛和ヴィラ南麻布(特別養護老人ホーム)
☎03(6408)8677

洛和ヴィラ文京春日(特別養護老人ホーム)
☎03(5804)6511

文京大塚みどりの郷(特別養護老人ホーム)
☎03(3941)6669

洛和ヴィライリオス(介護老人保健施設)
☎075(801)0377(代)

洛和ヴィラアエル(介護老人保健施設)
☎075(594)8020(代)

洛和ヴィラウラノス(介護老人保健施設)
☎075(633)6010(代)

洛和ヴィラサラサ(介護老人保健施設)
☎03(6408)8676

洛和ホームライフ北野白梅町(サービス付き高齢者向け住宅)
☎075(465)1601

洛和ホームライフ音羽(サービス付き高齢者向け住宅)
☎075(584)0001

洛和ホームライフ御所北(介護付有料老人ホーム)
☎075(411)9550

洛和ホームライフ室町六角(介護付有料老人ホーム)
☎075(222)0511

洛和ホームライフみささぎ(介護付有料老人ホーム)
☎075(582)8522

洛和ホームライフ四ノ宮(介護付有料老人ホーム)
☎075(502)7370

洛和ホームライフ山科東野(介護付有料老人ホーム)
☎075(582)8811

保育

子ども未来事業部
☎075(593)4050

洛和東桂坂保育園(認可保育園)
☎075(382)1050

洛和桂小規模保育園(小規模保育事業)
☎075(383)8162

洛和桂川小規模保育園(小規模保育事業)
☎075(925)3326

洛和大塚みどり保育園(小規模保育事業)
☎03(5395)0777

守山市立吉身保育園(指定管理者)
☎077(582)4711

守山市立吉身保育園 分園(指定管理者)
☎077(583)3667

洛和みずのさと保育園(認可保育園)
☎077(514)2035

京都市音羽児童館(指定管理者)
☎075(582)8818

京都市新道児童館(指定管理者)
☎075(531)5319

京都市大塚児童館(指定管理者)
☎075(595)2452

京都市花山児童館(指定管理者)
☎075(592)0742

京都市深草児童館(指定管理者)
☎075(642)3413

洛和山科小山児童園
[てくてく親子教室]
☎075(582)2018

洛和御所南学童クラブ
☎075(257)8147

洛和若草保育園[洛和会音羽病院 院内保育室・事業所内保育事業]
☎075(593)7759

洛和会音羽病院 病児保育室 よつば
フリーダイヤル0120(428)414

洛和イリオス保育園(企業主導型保育事業)
☎075(813)1011

健康

洛和会京都健診センター
[洛和会音羽病院 健診センター]
☎075(593)7774 予約フリーダイヤル0120(050)108
[洛和会東寺南病院 健診センター]
☎075(672)7556

教育

洛和会京都厚生学校
☎075(593)4116(代)

洛和会介護教育センター
☎075(354)7067

研究

洛和会京都医療介護研究所

洛和会京都音楽療法研究センター
☎075(581)6221(代)

洛和会京都医学教育センター
☎075(593)4111(代)

洛和会学術支援センター
☎075(593)0417

関連事業部門

ウエルネット 本社
☎075(582)6187

ウエルネット 京都西支店
☎075(959)1822

ウエルネット 大津支店
☎077(511)2515

障がい者就労支援事業所 らくわ
☎077(510)0112

洛和会資材センター
☎075(593)4132

洛和会搬送部門〔トランスポート〕
・救急患者搬送サービス
・介護タクシー
☎075(582)8118 予約フリーダイヤル0120(925)119

洛和会情報システム部門
☎077(548)7081

洛和会施設管理部門
☎075(593)7768

洛和会会計・給与部門
☎075(583)2815

洛和会企画広報部門
☎075(594)8488

2022年10月第1版1刷①